特23-697
1200800151725
特23
697

明治23年

東京遊学案内

国立国会図書館

始

特23
697

少年園編輯

明治廿三年 東京遊學案内

明治廿三年八月出版

明治廿三年　東京遊學案内

凡例

本書は地方少年が東京遊學の際に於て、其心得と爲るべき事項を編纂したるものにして、先づ上京の注意を述べて前途の方針を決定せしめ、次に東京諸學校の規則の要領を摘載してこれが撰擇就趨に便にし、最後に重もなる學校の入學試驗問題を掲げて試驗科目の程度を示せり。

本書は新上京の遊學者の爲めに、最も親切痛快に社會の大勢を論拆し、前途の方向は將來の社會の大勢に依て定むべき事、學科の撰擇は將來の事業の性質に依て決すべき事、其目的を定めずして漫然上京するの不可なる事、上京の後學校を屢々變更するの不利益なる事、其他今日一般の學生社會の通弊を擧げて是等の覆轍を避くべき事を、最も丁寧に論述せり。

本書は少年學生の爲めに、主として遊學の案内に供する者なれば、英語、數學、漢

學等の受驗學科を教授する初等學校の規則を密にし、帝國大學等各專門の高等學校の教則は只其綱領に止むるのみ。

本書に掲載する試驗問題は、一切本年實行の新規の問題を集めたれども、其試驗の了らざる分は明治二十四年度の遊學案内の中に於て其遺漏を補ふべし。

東京學事の狀況は、一般文運の著大なる進歩に伴ふて各學校の規則の改正頻々として起り、其今日の有樣も僅に一年を經過すれば全く其趣を變ふるが如く、變化極めて急激なれば、地方の遊學者をして成るべく勉めて都下の新事情に應ぜしめむが爲め、本書は毎年卷を改めて春夏の交に出版すべし。

明治二十三年八月

少年園

明治廿三年

東京遊學案内

目次

第一章　發端　一
第二章　上京前の注意　一五
第一節　少年の前途　二四
第二節　學科の撰定　三一
第三節　脩業の年限　四〇
第四節　學費の出途　四四
第五節　遊學の準備　四八
第三章　上京後の注意　五三
第一節　都下の狀況　五九
第二節　知己の訪問　六五
第三節　宿所の考察　六七
第四節　學校の採擇　七一
第五節　入學の手續　七三

第六節　女子の遊學　七五

第四章　各學校の規則

其一　帝國大學　八一
其二　高等師範學校（附女子高等師範學校）　八二
其三　陸軍士官學校（附陸軍幼年學校）　八六
其四　學習院（附華族女學校）　八八
其五　第一高等中學校　九〇
其六　高等商業學校　九二
其七　東京工業學校　一〇三
其八　東京商船學校　一〇六
其九　東京郵便電信學校　一一〇
其十　東京美術學校　一一一
其十一　東京音樂學校　一一三
其十二　明治法律學校　一一四
其十三　東京專門學校　一一五
其十四　東京法學院　一一八
其十五　專修學校　一二一
其十六　獨逸學協會學校　一二二
其十七　和佛法律學校　一二四
其十八　慶應義塾　一二五
其十九　攻玉社　一二六
其二十　東京文學院　一三二
其二十一　哲學館　一三三
其二十二　東京物理學校　一三五
其二十三　工手學校　一三六
其二十四　東京商業學校　一三七
其二十五　東京醫學院　一三八
其二十六　濟生學舍　一三九
其二十七　東京藥學校　一四〇
其二十八　國民英學會　一四一
其二十九　東京英語學校　一四一
其三十　一四二

其三十　共立學校　一四八
其三十一　成立學舍　一五三
其三十二　錦城學校　一五七
其三十三　成城學校　一五九
其三十四　商業素修學校　一六一
其三十五　獨逸語學校　一六二
其三十六　國語傳習所　一六三
其三十七　高等女學校　一六四
其三十八　女子職業學校　一六七
其三十九　成立學舍女子部　一七〇
其四十　明治女學校　一七二
其四十一　跡見女學校　一七二
其四十二　東京唱歌會　一七三
其四十三　東京躰操傳習所　一七四

第五章　入學試驗問題

其一　第一高等中學校　一七五
其二　高等商業學校　一八一
其三　陸軍幼年學校　一八五
附錄　東京諸學校一覽　一九一

目次終

明治廿三年

東京遊學案内

文淵編述

第一章　發端

東京の廣さ方幾何ぞ、遐は王城輦轂の下として、地勢雄大、眼界千里、西北綠樹鬱蒼たる所本郷青山の高臺に據り、東南烟波渺茫たる邊り遙に品川の大灣に臨み、其間には壘陀の長江蜿蜒迂廻して市街を流れ、終に佃島に至つて海に通ず。市街繁盛、人民衆庶、碧瓦白壁到る處に軒を並べ甍を接し、大厦高樓巍然として雲に交はり地に聳ゆ。大道縱横に開通して車馬の往來飛ぶが如く、溝渠東西に交錯して舟楫の運輸織るが如し。轟然として雷霆とゞろき瀛笛一聲咄嗟して長蛇の雲を掠めて去るは、即ち列車の駛るなり。煌々として白晝を欺き滿都忽ち不夜城の觀を暗夜に呈するは、即ち氣燈の輝くなり。銀行、諸會社、各商店は、中央市街の要衝を占めて一攫巨萬の

商機を爭ひ、器械各製造所、諸工場は、四邊廣濶の區域に在ッて新奇精練の巧技を競ふ。

加之上野より仙臺高崎に達するの鐵路始めて開通を告げてより、東北地方と東京間の商況忽ちにして活潑を極め、去年新橋停車場より西京大阪に通ずるの列車一度運轉を始めてより、西南地方と東京との交通俄然として繁劇を加へ、爾來益々東京は全國商業の中心となりて工業諸製造も亦俄かに氣運勃興の勢あり。此の繁盛と瀛車の便あり。是に於てか地方より東京遊覽と名を附して伍々參々隊を組み群を成して上京する者、月に幾萬といふ數を知らず。本年に至り四月一日內國勸業博覽會の開場となるや、老を扶け幼を携へ西より東より都下を指して參集する者雲の如く、瀛車發着毎に各停車場は殆んど人の山を築き、博覽會場は見物を以て充滿するの勢を呈し、其開場の間際に在りては來觀人員時として往々二萬人に上れりとは、さても凄まじき盛況ならずや。

是等東京遊覽の人博覽會場見物の人が、一旦都下を辭して其鄉里に歸るの日に於て、幼稚なる我が地方の同胞に齎らす所の東京土產は果して如何やうなる者なりしや。金色燦然たる双龍の屛風、絢爛眼を奪ふ西陣の織物、數奇を盡せる七寶の陶器、精巧を極める繪畫彫刻、之を始めとして各府縣北海道廳の出品に係る幾十萬點と數知れぬ列品、之を陳列せる工藝、農林、水產、機械、美術館より參考館までの廣大なる建物、是等の建物を通覽するには如何に粗末に見廻はるとも三日位は掛かるべく、又其會場の通行線を一直線に引延ばす時は五里餘の路程ともなるべき事、是等は博覽會見物の人が地方に歸るの後異口同音に稱道すべき談話の一にして、尙此外に銀座街の壯麗を以て少年諸子の耳目を驚かし、者もあらむ。上野淺草公園の賑ひ、墨堤十里の花の盛り、帝國大學の競漕會、愛宕山上眺望の遠景、パノラマ、演劇、丸の內見物、鐵道馬車の便利に就き、之を喋々と珍らしげに話して聽かす者もあらむか。

幼少の時は銳氣勃々、其見るもの聞くものは總て何事も愉快に嬉しく、天地萬象事々物々一々活動して其心を奪ふに足らざる者もなく、老成人の見て以て通例なりとする所も世慣れぬ少年の心には非常に珍らしくも面白く感ぜらるゝが常なるに、其老成の人々が東京繁榮の有樣に就て、博覽會の盛況に就て、口を極めて褒むるに於ては、地方の年稚なき同胞諸君の耳目を聳動する如何許りぞや。東京といへば天外百里遠く海山を隔てたれば、爰に遊ばむこと容易ならずと言ひしは古人の夢となりて隣家の老翁、近所の小娘、自家の作男を始めとして、村の孫右衛門の若者迄が、僅か七日間に事も無く東京見物をして歸りしを見ては、諸君は旅行の案外にも無造作なるに一驚を喫して、直ぐに駈出して遊覽と出掛けかねまじき無鐵砲なる感じを急に起さゞりしか。

又數多き諸君の中には、他の老人より、明治とありては今度始めて遙々と東京見物に上りたる事、今と昔は悉く其趣を異にして大名屋敷は一般に立派な煉瓦石の諸官省と變り、轎夫全く姿を收めて車馬の往來いそがしく、總じて商賣は一般に日に增し活潑の有樣に見へて、暮らしも昔しの質樸には似ずなか〳〵驕奢に進みたる事、夫等の話より一轉して、何の某を京橋に訪ひ其某の案內にて一日回向院の角觝を見、芝居見物にも赴きたる事など聞かれし者もあらむ。而して其某といふは隣村の今の太郎作の次男にして、田舍に居る頃は是れぞといふ別に學問も才能もなく素より詰らぬ若者なりしが、一旦奮發して東京ゑ出で或商店の手代となりて其處に勤むる事七八年、其間に商賣の機轉を呑込み、久しき以前に些細なる呉服太物屋の店を出し、數度失敗の後漸う〳〵と其身代を回復して今では豪商とも立てらるゝ身の上、店の番頭手代以下召使の男女四五十人もある可き事なども聞くに於ては、覺えず張臂をしてにぢり寄り、其老人の口つきを諸君は勿躰らしく打護りて恍然として聞惚れざりしか。而して東京紳商とも言はるゝ人々の經歷を尋ぬれば、何の某には限らぬ事なり、都育ちの人としては殆んど幾人もなき程にて、其單身故鄕を去つて初めて都會に出

てたる頃はいづれも無資力の素寒貧多く、學問とては恐らくは當時の小學校卒業の少年程にもあらざりし者なる事を聞くに於ては、諸君の負けず魂なる、最早一寸も了簡成り難く、其憎氣なき顏色に滿腔の熱心を現はして腕を摩つて慨然として言はむ。『東京の人は其生立も器量も固よりして地方人とは全く別物なりと思ひしに、彼等都人士と謂はるゝ輩は皆田舍出の者にして、一度は我々と同樣なる空氣を呼吸しゝ者なりしが。無資力無敎育の族すら尙ほ勉强の功を積み千辛萬苦を嘗め來て、百折撓まず、千挫屈せず、非常の忍耐と勇氣を鼓して飽迄艱難と戰ふに於ては、遂に生活の戰場に敵手を征服して凱歌を奏し身を立て家を起すの易き尙ほ掌を反すが如し。況してや我家は此邊にての良家に數へらるゝ相應の身代、而して學校の定期試驗、扨は毎月の小試驗には、僕は同級の首席を占めて人に負かされた覺なき事なり。學力優等といふ所より縣廳學務課の褒賞を賜はりしこと幾度ぞ、操行査定の結果よりして郡衙村役場の賞品は何度貰つたるか知るべからず。校長先生も人に向つて、是は物になりますと慥かに言へり。少年園の記者さへも嘗て我が寄稿の文章を揭げて筆力鼎を扛ぐと評しゝに非ずや。此學力と資產を有す。男兒爲すなくんば乃ち已む。假にも有爲の才學を抱て碌々草深き田舍に在て、雌伏あさんは口惜しき限りなり。十九世紀の少年の身として、明治の少年とも謂はるゝ身として、空しく天保度の腐敗人士、彼れ東京紳商輩の背後に瞳若たるは此上もなき我等が汚辱にあらざらむや』。

斯る想像を心裡に描ひて、何卒東京へ遊學して未來の事業家になりたしと望むは、地方少年の常情なるべく、又才學を練磨するには東京にあらざれば不可なりと心得、理財の許るす限りは一日も早く上京なさしめむと熱望するは一般父兄の人情なれば、東京遊學の思ひ立ちは强ち博覽會其物のみの結果にあらざるは勿論なれども、又大に今年の博覽會が誘因となりて子弟の來學を奬勵したる傾向なしと謂ふべからず。

之に加ふるに東京は全國政治の中心にして、皇城の在る所、華族の住する所、中央政府の存する所、萬機の政令皆此地より發布せらるゝものなれば、內務、外務、

海軍、陸軍、大藏、司法、農商務、文部、遞信の諸官省より、内閣、樞密院、參謀本部、各兵營に至る迄、建築壯麗、規模廣大、輪奐宏々たる有樣は、一目以て地方人の眼を驚かすに足る者あらむ。而して本年よりは憲法に依て帝國議會の開設ありて、全國各地の俊豪は或は民望に依り、或は勅選に依り、衆議院に、貴族院に、撰擧せられて侃々諤々帝國四千萬の同胞に代つて政務を論議すべければ、是より都鄙の關係は一層繁劇の有樣となりて、毎年秋季の終りには北より南より輦轂の下に集る議員論客の輩凡そ幾萬に達すべきや未だ豫め期すべからず。是等代議士政論家の中には地方少年の親戚故舊、若くは平生より其風采を欽慕仰望する所の名士俊秀多かるべく、依て幼稚なる同胞諸子も家君の膝下に端坐して毎朝新聞紙の報ずる所、國會議場の錄事を讀みては、當時議會に雄視するは何の誰々ある事を知り、又何々の議事に際して我地方の選出議員が何と發議して誰をへこませ、或は誤つて何府縣の議員の鎗玉を揚げられて、失敗を取りしか勝利を得たるか、是等の事柄は少年諸君が或は雀躍して歡喜抃舞し、或は切齒して扼腕するまで心を動かすの種子となるべし。斯くて本年冬季の末には第一期の國會も全く議事を決了して、其閉會には百官扈從し　天皇陛下の御臨幸ありて萬民歡呼喝采の間に目出度く閉會となるべければ、各地撰出の代議士が一旦鄕里に歸るに及んで又々幼稚なる諸君の爲めに如何なる土産を齎らすべきか。

高帽勿躰らしく頭に戴き、燕尾服をらさうに優に着こなし、美鬚を蓄へ、洋杖を携へ、巧みに東京の言葉を使ひ、頻りに政治家の風采を氣取つて、揚々得々として政事を談ず。而して公會の演說場裏に咳唾を飛ばして代議士が政務を談ずる所を聽けば、或は內閣の組織といひ、或は財政の整理といひ、條約の改正といひ、國權の回復といひ、地方分權といひ、政費の節減といひ、皆是經國の大議論にして、論旨の痛快なる又殖產營利事業の繁錯厭ふべきの比にあらず。父老の經驗に據つて之を見れば、僅か近年に至る迄、九重雲深く官衙壁高く、一國政治上の大柄は廟堂元勳の掌中に在

りて素より草莽臣民の與り知らざる所なりしに、陛下の聖恩に賴りて人民は一躍參政の權利を得、帝國議會は政府に對して陰然監督の地歩を占め、在野政黨は一歩を進めて現内閣の交迭を促さむとする勢ひなれば、地方少年は此現象を實際目擊して蹶起して言はむ。『大丈夫正に志を得ば政治家となり、入つては内閣大臣の重きに任じ、出ては在野政黨の首領となり、大頭腦を用ひ大手腕を振ひ、以て濟世經國の偉勳を奏せずむば死すとも已まじ。殖産興業は個人の業務のみ、刀筆簿記は俗吏の所爲のみ。個人の生活發達は社會進歩の要素にして、刀筆の俗務復た決して賤しむべきにあらずと雖も、是等は通常凡俗の事にて余輩有爲少年の一顧を勞するにも足らざるなり。嗚呼、個人的の夢漸く覺めて國家的の主義起らむとし、西比利亞大鉄道功成りて東洋是より多事ならむとす。此の内外の多難に際して、何物の痴呆兒か敢て姑息の眠りを貪り、金甌無缺の神州をして異日碧眼紫髯奴の覬覦蹂躙に任ぜんとするや。』

此他に尙すばらしき議論を吐き、或は自由論に贊成し、或は保護説に心醉し、非常にませた事を言ひ、矢鱈に架空の想像を吐きピットを夢み、ビスマアクを語りグラッドストオンを評するあぞ、なか〳〵忙がしき事なるべけれど、結局地方の少年諸君は一時政治論に熱中し、他日代議士の重任を帶びて國會議場に討つて出でむ意氣込なか〳〵に强かるべし。斯くて代議士とならむ爲めには、是非共豐富なる學識を蓄へ又は熟練なる辨才を磨ひて世間を驚かし選擧人を心服せしむるの必要もあれば、是に於てか諸子は東京遊學の念日に月に嵩じて心もうはの空となり、非常に愉快に又多望なる前途の境遇を心に描ひて、其目的を口に迄出して父兄に相談して見る事もあらむ。

父兄諸君も亦た時としては他の來訪の人々に向つて、『自家の誰某も、御覽の通り、彼樣身丈許り大きくなつて我儘者でも困るに依り、寧つそ東京の人中へ出して、政治學でもさせたい』などと折々語らるゝ事もあつて、大抵諸君と其説を一にし、

早速支度して遊學の素志を達せしむる者もあるべしと雖も、又數多き父兄の中には諸君の政治論に眞反對にして、政治家を視ること蛇蝎の如く、斯樣な事に拘らうは資産盪盡の基なりと身震ひをして厭がるもあるべし。地方少年が懊惱として漸く不平の心を長じ、人事意の如くならざるに鬱々として、大きに焦れ出してだゝを捏ねるは正に此樣な時なるべしと雖も、然し父兄の言ふ所にも一應尤なところもありて、諸君は其處置就趨に當惑せらるゝ事もあらむか。

斯くて睨み合ひの中に若干の時日を經過する間に、他の率先の學友よりは東京學術の盛大なる事情を詳細に報じ來り、又他の同窓よりは教科書にて嘗て其名を識るところの某博士、某先生などの容貌、風采、言語、動作の有樣まで眼に見る如く申し越し、幸ひ小生も上京以來何々學校一年生の第何席を占め居りて日々某先生の講義を聽き大に發明する所ありなど、委細の通信に接するに於ては諸君は恍然として魂を搔きむしらるゝ思ひをなし、最早學校の何たるを撰ぶに暇なく我を折りて、父兄の命ずるまゝに學科を假定し飄然上京せらるゝもあるべし。又或る一方の少年諸君は未だ目的を實業とも又い政治とも定めざれども、兎に角東京は學術の中心、文人學者の淵叢あれば、遊學の上は利益する所多かるべしとの思想を抱きて上京せらるゝ者もあるべく、又其留學中學資の供給少しく覺束なき者迄が、上京の後は學僕、給仕、其他の仕事を爲してありとも辛苦に甘んじて修學の素志を達すべしとて健氣にも鄕里を立出るものも多かるべきか。

以上概述する所は、帝國議會、博覽會の地方少年に及ぼす影響を玆に臆測して、東京遊學の最近誘因を述べたる迄にして、素より遊學の眞原因となすに足らざる者あるべく、又若干の先見と思慮とを有する少年あらば斯かる一時の刺激に因つて漫然上京の途に就くごとき氣遣ひなかるべしと雖も、若し萬一にも輕々しく東京遊覽者の浮言に動かされ世の風潮に眩惑して諸君が前途の方針を誤る如き事あらば、諸君各自の爲めにしても、皇國の將來の御爲めにも、是れぞ由々敷き大事にして其儘

聞き捨てにならぬ事あり。政治家といひ、代議士といひ、在野政黨の首領といひ、內閣大臣の地位といひ、如何さま局外者の人より見れば立派に氣樂に又目覺ましくも思はるれども、其內情に立入つて見れば恐嚇、爭鬪、罵詈、嘲笑、壓虐、憤懣の空氣充ち滿ち、集會の席、馴馬の邊には、匕首、白刃、破裂彈を以て之を狙ふ者隱顯出沒し、其危險にして不愉快なるは殆んど想像の及ばざる所、諸君が豫想の外なるべし。又實業の社會に入つて其內情の如何を探れば、所謂紳商なる者の手段は復た情けなき有樣にして、彼等の間には詐僞、陰謀、賄賂、酷薄、阿諛、醜陋、不潔の行爲行はれ、深く或る種類の有司と結んで、官衙の土木受負の場合、又は官有物拂下の好機を窺ふて私利を營み、其鄙劣にして破廉恥なるは是亦言語同斷の極、諸君が夢にだも想像する能はざりし事なるべし。然るに諸君は輕卒にも外部の美に迷ふて目的を定め、毫も內情を顧みずして前途の方向を決せんとするか。立憲政治の下に在りて運動する者は、內閣の交迭斷へず頻々として起るべきが故に、其生涯の一半は內閣員の職務を奉じ、一生涯の一半を政黨員の中に送り、一進一退の駈引の間に其身を送らざるべからず。されば將來の政治家たる者は、餘程の資產家にあらざれば始終目覺ましき運動をなして勝利を制せむこと覺束なく、詰りが俸給に望みなき大有力家にあらざれば費用を支へざることなるに、諸君或は俸祿に望を屬する所ありて大早計にも將來の政事家たらむとは思はざりしか。

夫れ斯の如く、諸子の望みと社會の實際と背馳して衝突すること多きが故に、編者は第二章以下に於て諸子が遊學として上京以前の注意を精密に論述し、第三章以下に於ては諸子が上京後の注意を述べ、前途の方針、將來の事業、學科の撰定、入學の手續、一々揭載して少年諸子都下遊學の嚮導をなさむ。

第二章　上京前の注意

地方少年が東京に遊學するの前に於て、最も思慮を要すべきは蓋し學科の撰定に

して、又其次に精密なる思考を要すべきは學費の出途なり。古來學術技藝に於て千萬人に傑出する有爲俊秀の士の經歷を視れば、幼時貧苦辛酸の中に人と爲りたる者多く、其富裕の家に出でゝ偉大の功業をなしたる者は寥々晨星の有樣なれば、貧苦は却て學藝を砥勵するの藥石たるべく、富裕必ずしも少年の賴みとなすに足らざるべし。是に於てか俊才の少年、其平生欽慕する古人苦學の跡に倣ふて單身以て都下に出で、或は塾舍に身を寄せて辛くも學僕の口を求め、或は權門に生を托して僅かに從者たるの務めを執り、斯くて其餘暇を以て志す學科を修めむあどゝ空想を抱き大言壯語して健氣にも遊學と出掛くる者多かるべく、又稍や學力ありて年齡も長じ其鄕里にては將來に最も望みありと言はるゝ少年、小學敎員の職務位は慥かに出來ることゝ他人も言ひ又自らも信ずるが故に、寧ろ東京に出でゝ小學の助敎位の所に住み込み且つ敎へつゝ且つ學んで志望を果すべしなどゝ宏言を吐き、大層ゑらきと言ふて匆卒にも鄕里を立ち去る者もあらむか。然しながら敎員若くは學僕從者の口と云ふも實は其需要に際限ありて、數限りもなき供給を容るゝに足らざる者あるが故に、是等のあてもなき口を賴りに上京したる少年諸子は忽ち糊口の道に窮して進退谷まるを免れざるべく、假令僥倖にして萬一にも需要の口を得るとしても從者學僕皆夫々に固有の職務ありて講學の餘暇を許さゞれば少年諸子が當初の望みを達せむことは中々六ケ敷き限りなるべし。

依て東京に來學の諸子は、先づ第一に學費の出途を充分確かめたる上に於て、長きは七八年、短くもせめては三四年の學資を得べき見込の立たざる中は、輕々しく決して遊學と出掛くべからず。自營以て學費を資り、決して父兄に其勞を負はしめじとの決心は如何にも勇ましく殊勝あれども、當時學問の方法は全く舊來の仕方と異り、一日少くも五時間は規律整然たる校舍に入り、學術深奥なる講師に就き、裝置精密なる器械を以て、一々實地に徵驗して學理の蘊奥を究むるが故に、迚も執務の餘暇を以て講學の望みを達すべくもあらず。又嚴正なる秩序を蹈んで學術技藝を究

めんとせば、獨り時間の制限を受けざる可からざるのみならず、是等學藝の履修に要する高價の書籍をも求めざるべからず、夥多の月謝をも納めざるべからず、又尠くも二三年ゝ是等の學校に入るに先だち、英語、數學、和漢文等入學受驗科をも修めざるべからず。時間の繰合せはどうともあるにせよ、從者學僕の身を以て諸子は如何にして是等の費用を自ら支給せられんとするや、又如何にして四五年の時日を支へられむとするや。

されゞ東京遊學に先づ第一に必要あるは學費供給の出途なれども、彼の架空的冒險の無資力來學者ゝ割合に尠きものなれば格別に編者の杞憂を要せざるべく、又近來ゝ地方に於ても早くも此點に着目して輕學を戒しむる者多けれゞ、笈を負ふて來學する者ゝ將來學資に差閊へあき中流以上の子弟として、是等中等社會の子弟ゝ如何なる弊習に陷るや、其一般の傾向に就て聊か品評を試むべし。

社會の中流に在る者の子弟が最も陷り易き弊ゝ、其學資の供給に差閊へあき點よりして、度々其將來の目途を變じ、時の流行に隨順して或ゝ政治學、或ゝ法律學、又は文學、實業と屢々其志望を變更して漫然歳月を消耗し、數年東京留學の上更に何事も得るあくして失望の極茫然と地方に歸る事是なり。其學科の撰定の强固あらざる所以の理由は、蓋し學資に事を缺かず永く東京留學をなし得る爲めにも因るべしと雖も、其重大なる要因は蓋し將來社會に立つて如何なる事業に從事すべきや其將來の目的を定むる能はざるが爲め乎。人の將來の目途を立つるには、社會の大勢を觀察し其大勢の潮流に駕して各自の進路を確定し、以て生活の戰場に勝利を期すべきものなりとす。然るに社會の大勢は、十年若くは數十年の長き歳月の經過を以て徐々と其歩を移すものにて、老成の人も容易には其趨勢に心着かずして輕々看過する事多し。加之時勢の推移は具一文字に押し遷るものにはあらずして其大勢の潮流に斷へず流行の波瀾を起し、又其流行の高浪は或は大勢と逆行するが如く、或は斜行の狀態をなして、氾濫澎湃、洶湧奔騰、渦捲き跳り逆捲き狂ひ、變幻出沒起伏常

なく、始終少年の觀察を眩惑攪亂するが故に、諸子が其流行の波瀾に迷ひ容易く針路を決定する能はざるも亦無理ならぬ事なり。

事情斯の如しとせば、今日都下に在る少年諸子、若くは地方に在る同胞諸子が、前途の方向を決するに迷ひ、又其最終目的の立たざる所よりして其履修の學科を屢々變更するは亦已むを得ざる次第なれども、併しながら同胞諸子の慧眼は逸速くも明治時代は權力の正しく横行する世界にあらずして、財力却て權力を抑へ、今や實業家の力量は彼の政治家の方寸を支配しつゝある事を悟りしに非ずや。我邦上代士民の氣風例へば殺伐の氣象、掠奪の遺風は、德川昌平三百年の治世の下に在りて全く改り、禮儀を尊び、法禁を重んじ、德義を守る等一般に復世話の燒ぬ人民と爲り、政治法律の制裁は格別必要にも非ざる迄醇良敦厚の國民と化して互に結構なる限なれども、只惜むらくは上下一般極めて殖産の思想に乏しく、無形の開化は歐米に凌駕する迄に發達したれど、有形の開化は殘念にも彼れに數歩を讓らざるを得可からずといふ目下の事情は、雜誌に新聞に演說に諸子が聞きかぢりて平生より悲憤慨歎に堪へざる所、憂慮に堪へざる所ならずや。海關稅權といひ、治外法權といひ、彼等歐米諸國の爲めに始終國權を抑損せられ、我邦士人一般が常に慷慨に堪へざる所以は畢竟兵力の上に於て彼に一歩を讓るが爲めなり。而して今日國際間の兵力强弱を決する者は海陸軍備の消長に在りて、其海陸の軍備といふも結局國民富資の力の形を變へたるに過ぎざるのみ、されば我邦人民にして一國に殖産の事に勉め日本の富をして歐米に凌駕せしむるに達する時は、復た憤然として海軍の微弱を憂ふるにも足らず、海關稅權の伸張せざる、治外法權の撤去せざる、條約改正の行はれざるを憂慮するにも及ばずして、是等の屈辱は俄然として恢復するに難からずとす、十九世紀は富の世界なり、明治二十三年は正に立憲代議制度の曙光を東海に放ちたる一新世紀なりとは少年諸子が常に揚々として得意貌に論談しつゝある所にあらずや。

社會の大勢といふも、蓋し是れのみ。活眼を開て時勢を看破し、其大勢の潮流に

乘じて、各自の方向を決せよと我等が疾呼するも亦是れのみ。誠に諸子が言はるゝ通り、我邦目下の大勢は彼の『富』といふ方途に向つて駸々として運動し、殖産といふ一種の警語は實に我邦人民の長夜の眠を呼び覺したる最大有力の喇叭手なり。封建世祿の德川政府を一朝顚覆したる者も、正に殖産の二字なるべく、明治政府の功績をして斯く迄顯著ならしめたるも畢竟人民の富資に外ならず。然るに慧眼なる少年諸子が、此の大勢の中流に在りて、彼の出沒定らざる流行の波瀾に眼闇み、政治の景氣盛んなる時は忽ち是迄の學科を捨てゝピット、ヂスレリーの風采を氣取り、文學の流行凄まじきを見ては急に從來の目的を變じてサカレー、ヂッケンスの口扮を摸倣せんとせらるゝは何ぞや。

尤も諸子の年頃に在りては浮世の辛酸の味ひを曾て經驗の暇もなく、又少々は物の紛れに多少憂目に出逢ひたりとするも諸子の愉快氣にして氣樂なる更に其樣な小面倒なる事には頓着を須ひずして、頻りと活潑なる政談に耽り又は優雅なる文學に憂身を窶されて暮らさるゝ事あり。豪氣天を衝く少年の眼には無闇と政事論が面白く、情思燦爛たる少年の身には如何さま小說の世界程惜しき者はあらざるべければ、成程一時の氣散じに之を茶話しにする位はよけれど、遂に世の中の流行に溺れて前途を誤るに至つては實に本氣の沙汰にあらず。志業の成らざるは都下在留の書生一般の通弊なり、而して其成業の覺束あきは其平生修むる所の學科の確定せざるが爲めなり。履修の學科だに當初より確と定り居る者ならば、在學七八年其上に詰らぬ官吏などに身を墜して素志に背く者もあらざるべきに、斯の如きもの年々に增加の傾きあるは惜むべきにあらずや。又前途の方向だに決定し居る者ならば、今年政治學を修め明年は飜然文學に轉ずるなど無謀の輕擧はあらざる可きに、斯の如きもの到る處に曾て絕えざるは歎ずべきにあらずや。之を要するに學生の一大通弊は其志望の屢々變更するにあれば、新たに上京なさん者は最も此點に精密なる考慮を費さゞる可からず。又將來の目的を立てんと欲する者は大勢の趨く所に着目し、一時の

流行に眩惑して所志を變ずることあるべからず。

編者が上京者に望む所、全く此の如きのみ。地方同胞の諸子に向て注意を促す所、此の如きのみ。知らず、諸子は如何やうなる前途に志望を抱かれて都下に來學あさんとするや。又何事を學ばんが爲めに、何等の學科を修めんが爲めに、遠く鄉里を立離れて笈を東京に負はんとするや。

第一節　少年の前途

明治の少年たらむ身は、宜しく社會の大勢に依て前途の方針を定むべしとは、前に我輩が述べたる所にして、而も時勢の潮流は殖產の一途に向へることは諸子の明知する所あり。されば地方の少年にして是より都下に出でゝ其志業を遂げんと欲する顯才の士は、先づ其上京の前に於て前途の目的を定めむこと、最も急務なりと我輩は思へり。而して從來の傾向を見れば、政治法律の研究に志す者最も多く、文學、理學、醫學等に望を屬する者之に次ぎ、彼の富殖の事に付て最も緊密の關係ある農、工、商業の學科の如きは、之を顧みる者寥々たる有樣ありしことは疑もなき事實なり。今日に於ても尙未だ政治の冥夢覺めざるのみか、本年七月の總選擧といひ、十一月以後の帝國議會といひ、益々地方同胞諸君を浮熱に導くの恐れあれば、敢て我輩は新上京遊學諸子の將來に聊か氣遣ひなき能はず。依て我輩は慇懃に勸告す。諸君飽迄も國家の爲めに大に經綸の策ありて之を實行なさむが爲め其身を犧牲に供するの覺悟ありとせば格別なれども、假りにも一己自身の爲めに利達を圖らむとする者は決して政治界に身を置く勿れ。昔は政治世界に在る者、食前方丈、肥馬輕裘、封祿豐かにして萬民の欽慕羨望する所たりしが、今より以後は代議士たる者、政府の當局者たらむ者は、俸祿寡少にして支出百端、其身代を棒に振るの決心あるにあらずむば、決して衆望を一身に繫ぎ永く民心を收攬して要路に立たむこと覺束なし。是を以て十年の後、若くは二十年の後、諸君子が漸く社會に羽を延して雄飛せんと

する頃ほひには、世人始めて政治世界は榮利を求むるの地にあらざるを悟り、今の代議士の其中には全く資產を盪盡して此世の落武者とならむ者何程あるか知る可らず。是等の情實を察せずして、一時の風潮に雷同し、今日多數の少年諸子が假りにも政治熱に浮かされて其身を誤るが如きあらば、誠に由々敷き事あらずや。

政治世界が少年諸子の身を置く可からざる所なるのみあらず、文學の世界又決して利達を期すべきの地にあらず。元來文學といふことは諸君が小學に在りし頃より最も緣故深き者なれば、物心着かぬ頃よりして學校の敎師、博士、學士、學校敎科書の著述家など皆諸君子の崇拜せる本尊たりし事疑ひなし。されば地方の少年諸子は未だ政治家にならうなどゝ太き了簡を起さゞりし前にも、嘗て行々は文學に從事せむとする志は多少何人にもありしなるべし。尤、數多き少年の事なれば、其身に着き纏へる係累ありて疾くより學者となりて生を送らむ望みを斷ちし者も多かるべけれど、兎にも角にも幾分か學者になるの榮譽あることを一時思はぬはなかりしならむ。

其中學力の覺束なきものと、他に係累の在るありて到底望を達するの見込なき者は、何時となく志望を轉ずるに至りしならむが、大に才學の秀でたる者は必ず將來學者となりて世界を驚かさむといふ大膽なる望を起さゞるはなかりしならむ。されば地方の少年を見るも、少しく才學ありて優等の位置に立てられし少年は、到る處に小學の助敎となりて鄕校に出入せざるはなきを見る。是等の少年が憂る所は、又彼の童年政治家とは大に異なる所ありて、彈丸雨の如きウアートルローの代りに彼等はニユートンの林檎を夢み、懸河滔々たるヂスレリーの伯林(ベルリン)會議に於ける辨論の代りに彼等は深沈寡默なるダアウヰン、スペンサアなどの進化說を恍惚として夢るならむ。其思想は深邃にして、幽閑愛すべき所あり、其目的は高大にして、純潔喜ぶべき所あり。若しも諸子が淸貧にして而も質素なる生活を送らむとする決心ならば、余輩は其着眼の高きに服し其志操の淸きに服し、哀れ世界の文明の爲めに諸君が曠世の眞理を見だして千古の碩學よ鴻儒よと謂はれむことを切望すれども、或は諸君にし

て氣樂なる生路を求めむが爲め學術に從事したしとの志願ならば、余輩は其不了簡あるに喫驚し、其先見の明なきを寧ろ憫れまずむばあらず。文學世界は淡白にして超凡脱俗の哲人（ヒロソファー）が思念を凝らすの仙境あり。淡白自ら奉じ、清貧自ら期し、功名、榮利の何物たるを毫も念頭に懸けざる如く、高く自ら標榜して此の離隙たる人間世界を脚下に悲視するが如き偉人にして、始めて學術世界に立ち千古の眞理を發揮するの偉功を奏するを得べきなり。されば萬人に卓出する偉人の身を置くには屈強なれども、假にも利達を目的として此の魔界に身を投じ足を蹈み入れたる者の如きは、畢生窮鬼と追隨して無限の艱難を嘗めざる可らず。好事心よりして道樂に學者となる者は格別なれども、家族の係累を擔ふべき身は――富有の者にもあらざる身は――決して戯むれにも此魔境に其身を近づくべきにあらざるなり。

斯かる事情のあるにも拘はらず、數年以來政治世界若くは文學の方途に向つて冒進するの新青年、何ぞ夫れ蒲出づる野邊の小草の如く多きや。東京に於て有名なる私立の學校多き中に、彼の特別認可の數校は最も屈強なる者として四方に其名高き者なり、而して其教授する學科を見れば何づれも法律及び政治に關する所にあらざるはなくして、其校運の盛大なるは、日の出の勢とも謂ふべき者あり。又法律學校と共に最も勢力の大なる者は、重に文學を教授する諸般の學校にして、實業的の學科を授くる私立學校の大なる者は殆んど皆無なる姿なり。されば是等の學校より社會に出づる所の者は如何なる者なるかといふに、彼等の志す所は判事、檢事、若くは代言人にあらざれば必ず私塾の教師位か又は新聞記者位に止り、其供給の多きよりして何れも需要の路に困み、僅かの俸給に口を糊して大概碌々たる有樣あり。夫れ斯の如く當初より大政治家となるの資望もなく、又眞成なる學者となりて眞理と生死するの決心もなく、衣食俸祿を得んが爲めに、學問に從事せし者あらば、何ぞ初より思切つて殖産興業の實務を修めて、社會に討つて出づる覺悟なかりしぞ。其謀此處に出でず、彼等が利達を得んが爲めに、政治若くは文學の筋違ひなる學科を

修めしは、或は其裏情内々にて名譽と利達との二た途を掛けて、網を下せしにはあらざるか。果して去る山心ありて學科を撰びたる者ならば、其目的を達せざるも亦當然の事にして、余輩は彼等の一身上に取りて痛く失策たりしことを惜まずんばあらず。又我輩は彼等の爲めに其失計を惜むと同時に、爾來地方の少年諸子が前途を規畫するに當りて、深く社會の大勢を察し、各自の爲めにしても、國家の爲めにしても、一國に殖産事業に向つて其身を進められむことを玆に切望に堪へざるなり。

維新以來我邦の有爲俊秀の士は皆競ふて頻りに政府の部内に集り、政府部内にこそ人材を網羅したるの勢あれ、廣く民間を見渡すに殖産世界は依然たる封建時代の舊組織にして、民業日々に廢れ、商況月に衰へ、數年以來、到る處に不景氣といふ歎聲を聞かざる所なきが如く、今や其不振の景況は殆んど極端の域に達して容易に挽回すべからざる危急の形勢なるにあらずや。其原因は種々ありて固より一にして足らずと雖も、政府部内に人材を殆んど吸收し盡したる影響ならずと謂ふべからず。されば少壯有爲の男子が親しく殖産の事業に當りて、平民世界に驥足を伸ぶるは、獨り各自の爲めのみならず、諸君が國家に盡すべき最も重要なる義務なるべし。政治世界が榮達の場所なりとのみ思ふべからず。ワット、スティブンソンの蒸氣機械が如何に世界を利益したるか、之を思へば實業の最も貴重なる所以を知るべきのみ。

第二節　學科の撰定

殖産興業の急務なる事は、前に論定する所のごとし。而して只一と口に産業といへば區域狹きが如しと雖も、其實産業の世界といふも分勞協力の盛んなる時とて種類甚だ廣大にして一々玆に盡さむことは固より容易なることにあらず。依て今玆に大括りに彼の産業に定義を下せば、産業といふは富を造り及び富を分配するの事業といふの外なからむ。而して富といふは生活に必要缺くべからざる衣食、器械、物品一切を網羅したる最も廣き意味の言葉にして、世俗の所謂金錢にはあらざる事は

經濟學を少しく講じたる者の知る所なり。さて產業には供給と分配の二途ありて、供給部にては其地方に最も適當ある天產物若くは製造品を持出して廣く社會の需要に供へ――假令ば四國より藍を出し、北海道より鮭を出し、京都西陣より綾羅錦繡其他の織物を出すが如く――分配部にては、社會に於て最も需要ある物品を餘れる甲の地方に取りて之を不足ある乙の地方に送達するの務めを執れり。而して供給部に於て粗生品即ち天產物を造るものを世に所謂農業といひ、又其粗生品に製作を加へ之を製造品となすものを即ち工業と世の人い謂ふあり。供給系統に農業と工業の別あるが如く、分配系統にも內國貿易、及外國貿易の區別ありて、殊に今日我邦に最も缺乏を告るものい即ち工業と、外國貿易、――此の二つの者なるべし。農業及び內國貿易も目今にてい規模狹隘、運動最も緩慢にして手ぬるき所尠なからねば、諸君の活潑なる工夫を以て進步を促すべき所固より多けれど、而も彼の廣大ある器械を以て製作を加ふる所の大工業、及び夥しき船舶を以て營爲する所の海外貿易の發達極めて遲慢なるは如何にもゞどかしき次第あり。

諸君の知らるゝ如く英國などは、其境域といひ人口といひ、固より我邦に及ばざる、言はゞ狹小ある國柄なれども、彼の國人の活潑なる數千里外の合衆國より幾億万噸といふ棉花を取り寄せ、巨大の器械を運轉して之を紡績し之を織出し再び之を金巾として重に支那市場に輸出して巨万の市利を博するにあらずや。又合衆國の如きは境域最も廣大にして、我日本に幾十倍するの邦土を有する國なるが故に、若し我邦の如く、內國の貿易のみに止らしめば棉花、麥粉其外の農產品い到る處山の如くに堆積し市價下落して商業上の大恐慌を來たす可きに、彼等の慧敏なる夙より外國貿易を奬勵して之を海外各國に輸出するの便を有するが故に、闔國擧つて農業に從事し曾て不景氣の歎聲を聞くに至りしこと無きにあらずや。然るに我邦人民の無氣力にして緩慢なる、一葦帶水を渡る時は西に四億万の戶口を有する世界の市場ともいへる支那を控へ、東に世界の富源ともいはるゝ日本嶋負なる合衆國を控へ、南、

赤道を横切れば、將來世界の金庫として歐米人の屬目する彼の濠太利といへる大洲を控へ、太平洋の貿易には殆んと覇王として匹敵する者あらざる好地位に立ちながら、曾て一人の奮起して海外通商に從事する剛膽の偉男子なきにあらずや。海外貿易の我邦に未だ行はれざるのみならず、器械を以て綿布、毛布、鉄器の類を製造し彼の英人の得意先きある支那帝國を奪はむとする壯圖を有する者もなく、農産事業すらせしこましき所謂鍬先の手仕事にして、未だ一人の崛起して彼の大農の法を用ひ廣大無邊ある北海道を開拓せむとする者もあきにあらずや。

是併しながら我邦人の無氣力不活潑なるにはあらずして、嘗て政府に民間の人士を吸收し盡したるに因り、亦彼の有爲の少年輩が相競ふて詰らぬ下らぬ政治文學などに耳目を奪はれ、當時に至る迄も誰あつて奮然筆硯を擲て起ち萬里の長風を破らむと勉むる者の無きに依れり。果して然らば眞つ先に、殖産事業の魁をなして、此貧弱ある邦國を富强の大帝國となさむ者は余輩が所謂今日の少年を措て又誰れかあるべからず、而して海外の貿易も亦盛んにるべからざるべからず、農産振はざるべからず。是等の事業に當らんとせば、工業、農業、商業の各科に於て何れか一つ其氣に入つたものを撰んで、諸君は熱心に望む所を專攻せずむばあるべからす。工科大學、工業學校、農科大學、商業學校、是等の諸官立學校を始めとして札幌農學校、商船學校、私立東京商業學校、工手學校以下少年諸子の入つて學ぶに適當なる校舍は中々に多かるべし。東京遊學の前に於て、諸子の心を決すべきは將來從事すべき前途の目的、及び目的を達するに足る學科の撰定といふ事なれども、知らず諸君子は將來に於て如何なる殖産の途に當り、又差當り何れの學科を專攻なさむずる決心なりや。

以上殖産の一事に就き余輩は地方少年の爲めに最も痛切なる忠告を茲に試みたる積りなれども、總て今日の少年は皆悉く殖産の一途に向ふべしといふ如き最も窮屈なる勸告を敢て試むるものにはあらず。社會の大勢は今正しく爭ふべからざる勢を

以て富殖の一點に向ひたれども、そは一般の上に就て其傾向を述べたるのみにて、廣き公衆の事あれば今しも滿腔の熱血を灑ひで富殖に着手しつゝある者もあれば、又其中には相當に既に富裕なる資産を得て最早此上は……といふ如き氣樂な素封家も多かるべし。是等素封家の子弟に在りては將來如何なる事をなして其生涯を送るべきや、人間一生の目的は只々殖産の事に止り、最早其上は何事も爲すに足らざるかといふに、決して然らず。人の行爲には自家保護、親族保護、國家保護、其外百般の營務ありて、殖産といふは只僅に自家を保護する目的を達する迄の一手段のみ。是に於てか相當の資産を積みたる族に在りては、正に進んで親族及び緣者の保護に手を延ばし、尙其餘力を有するに於ては自家親族の者よりして同鄕人の集合より成る彼の町村なる一躰を保護し、進んで郡、府縣より全國の保護に至る迄擔當して、之を脊負つて立つ勇氣なくむば、即ち國家に忠實なる有力家とは謂ふべからずして是れぞ所謂慾に眼のあき私利一方の公敵のみ。立憲政治といふは此輩が正に擔當して然るべき國家保護の謂ひにして、俸祿を目的とする官吏あるに國家の世話の燒はたものにあらず。大政治家とならむ者は利祿を目的となすべからず、代議士たらむとする者は其資産の幾分を國家に擲つて公共の事務を執るべしと、余輩が論述したる理由此處に在り。

されば有力家の子弟にして國家を經綸するの才幹あり、又其公義心に富める者は、自國に對するの義務としても大に政治上の思想を抱て、公利の爲めに飽迄も力を盡されむ事は余輩の頻りに望む所にして、諸君子も又大に奮て屈强なる資産家とならば大に政治上の運動をなして上は畏くも皇室の爲め、下は公共萬民の爲めに國家の務めを執らざる可らず。而して是等須要の學科を講究するの學校としては、眞に政治家流行の時とて法科大學、特別認可六大法律學校等目下隆盛なる者極めて多し。特別認可の學校は其教授する所餘程高尙なる者なれば之に入て志望を磨くも甚だ便利なることなれども、將來國會の議場に立つて政務を調理せむ存念あらば、寧ろ思

切つて高等中學より法科大學に進まむこと最も適當なる事なるべし。

又國家の保護の中には海陸軍備といふ事ありて、是等の事業に當らむ者は陸軍士官學校といひ、幼年學校といひ、海軍兵學校といひ、入つて學ぶ可き處多けれども、兵備といふ事は兼て又一種專門の技術に屬し、最も强健なる躰格と最も機敏なる才幹と、勇壯武斷なる性質を要する者なれば、志願者は先其資格の適否を顧み、事あるの日は國家の爲めに自己の生命を擲つの覺悟を以て入らざるべからず。敎育の事業、亦是れ重要の營務にして其一半は國家の保護に屬する事柄にして、是等の事に當らむ者は先づ各府縣の尋常師範學校に入つて選擧生となり、夫より高等師範學校に進むの便益を有すれども、是亦專門の技術に屬して而も優等なる才學と最も純良なる操行を要するものなれば、志願者は宜しく其性行の適否を考へ他日國民の摸範となるべき高尙の志望を有せざるべからず。醫術、衛生の事は德義上殆んど公衆の保護——又其性質は一般の營利事業と同樣にして是亦專門の技術あれば、之に從事せむとする者は隨分其稟性の適否を考へ稍高尙の志望を以て專攻せざる可からざるあり。是れには醫科大學の設けあり、又東京には濟生學舍、東京醫學院、其外の私立の學校多けれは、他日病院の醫員たり又は開業醫たらむ者の醫術を研究なさむ爲めには最も便宜多かるべし。

文學及び理科の二科は最も嚴正なる方法を以て專攻すべき者にして、之を專攻なさむ者は文科大學、理科大學、以下の學校に於て充分に研究するの便利あり。又此二科は純正學術の王とも稱すべき者にして、其日夕思想を凝らし心志を勞する所の事は區々たる人間の俗事と異り、造化と親接し、眞理を感發し、高く宇宙の上にて最も悠久深遠なる道理を探究するが故に、其趣味深くして面白き事は茲に言ふまでもなき事なり。されば天分高絶にして苦樂の何物たるを顧みざる者、面壁九年坦然として動かぬ我慢强き者、饑餓の襲擊に堪へ得る者、沈思默想の習慣ありて曾て人間生活の浮華虛榮を喜ばざる者、其外一と風變りたる奇行ある者か、但しは又資產

に富裕なる者の子弟は隨分研究してよかるべき至極貴重なる學科なれども、博士、大學士などの虚名を喜ぶ俗氣紛々たる似非學者は先づ〳〵近寄らぬ方危險なからむ。繪畫、音樂、彫刻の如きも、最も面白さうなる學科にして、之を講究せむとせば東京美術學校及び東京音樂學校ありて、是亦相應に研究の便あり。然しながら元來美術は彼の學術と兄弟分にして之を商賣とする人の爲めには餘程難澁なる者なれば之を修めむとする者は此世に遠ざかる心持あつて可なり。

第三節　修業の年限

農工商業、政治法律、海陸軍備、教育衛生、若くは文學理學の中、又は音樂繪畫の中にて諸君が何れになり目的を定め、又其履修すべき學科を茲に撰定したりとせむか。さて其後に起るべきは是等の學科を卒る迄に要する修業の年限にして、其年限の長短は學科に依りて紳縮あれども大抵本科三ヶ年を要し、又其本科に入るに先だち豫科準備科を修むるに通例尠くも二三年を要すれば、兎に角五ヶ年は修業に時日を送らざるべからず。尤も私立の學校に於て程度の低き或る科目を履修せんとする時は僅の年限にて卒業に至ることを得べしと雖も、夫れすら尠くも三年の月日を費さゞるべからず。況して高等の學校に入つて夫々專門の學を修めんとせば、餘程の年月を要する事にて、費用も中々に大なるべし。

帝國大學にては、法工文理科の各學科を修むるに何れも三年の時日を要し、獨り醫科大學のみは例外にして四年の課程を履むことあり、高等師範學校も、理化學、博物學、文學の分科各三年にして、高等商業學校の如き、東京工業學校の如き、舊農林學校の如き、美術學校の如き、音樂學校の如き、豫科を外にして、本科のみとするも何れも三年の課程あり。彼の特別認可學校、即ち明治法律學校、東京法學院、東京專門學校、和佛法律學校、專修學校、獨逸學協會學校の諸校の如きも、豫科、普通科の課程を除ひて大抵三年の年限なりとす。

然しながら大學の課程を履修せむとするには、兎に角高等中學校卒業以上の學力を要し、而して高等中學は本科二年豫科三年合計五年の修學を要す。又此高等中學に入るには尋常中學を卒業するか、若くは東京に於て共立學校、成立學舍、東京英語學校の如き學校に入りて四年の受驗科を修めざれば入學覺束なきが故に、結局大學の卒業迄には十二三年を要するなり、其他の官立學校の如きも本科に入るに先つて一年乃至二三年の豫科を修めしむる所あり、又其豫科に入る迄には東京に在りて二三年は英語、數學、和漢文等所謂受驗科の豫習を要し、尚且つ實際の入校に際し落第する者も尠からず。

斯かる次第なれば在京の書生も、遺に其入校の困難なるに大にへこたれて志望を轉じ、或は海軍にまれ、陸軍にまれ、農、工、商業處嫌はず無闇に入學の試驗に應じて一時の僥倖を得んと思ひ、遂には其在學の校舍をも大にもぞかしく思ひ做して朝に甲の塾舍に轉じ夕に乙の學校に移り、所謂流浪的書生とありて數年を經過するも尠からず。其弊害の因る所を熟々觀察し來るに、地方少年が小學を卒業するや否や都會に飛出し、極めて微弱なる學力を以て俄に高尚なる修學に移るの過失に外ならず。加之彼の受驗科の學校なる者は、或二三の學校を除けば大抵不完全なる者にして、其教授する所は僅に英語、數學及び漢文の數科に止るが故に、是等の學校に月日を送る初學の少年に至りては全く普通學の知識に乏しく、又其不完全なる知識を以て一躍專門科に入るが故に成業の後も何となく其應用狹隘にして齒痒き所多かるべし。

是等の弊害を免れむには、若かず十三四歳なる少年は高等小學科を卒ると共に地方の尋常中學に入り、稍學力の進歩を待つて直に——中學卒業の者は試驗を要せずして入校を許すといへる明文に據て——各專門の學校に入らば、空しくゴロッキとなるの弊習を免れ、又一つには普通科の知識を充分に受くるが故に、他日專門の學科に臨みて便益多きこと勿論なるべし。

されど此事は年齢尠なく資力充分なる少數の人に言ふべく望むべき事にして、迚も一般の少年諸子に期す可らざる事あれば、諸子は成るべく鄉里に於て充分學力を養成し、年齢十六歳以上にも及ばゞ直に上京して活潑に而も迅速に課業を修めて其志を遂ぐるがよし。斯くして一舉に速達を計るも或專門の學科を修めて充分其志望を遂げんとせば凡五ヶ年を要すれば、先々通例の塲合に在りては五年以上六七年の時日を要する事あるべし。

第四節　學費の出途

修業年限の定まる後、さて其上に起るべきは遊學費用の概算にして、其學費の供給を得べき出途を突き留めざる中は、ウカと上京すべきにあらず。而して其學費の出途といふも之を負擔する者は大抵諸君の父兄なれば、諸子が東京へ行きたしと望んで、是非共遣つて下されと斯樣に申出でたる時、凡そ修學中どの位學費の總額を要する者か、先づ其金額の高に付て内幕相談が始まるあらむ。其概算の總高にして格別多額にもあらざる時は、勿論諸子の申出に父兄の協賛を得んことは容易あるべき事あれども、萬一諸子の豫算案と實際父兄の見込高と過當の相違ある時は、或は天邊から成らぬと拒まれ、又は一旦遊學の後餘儀なく中途にして呼び戻さるゝか、左あくも諸子が父兄に對して餘程の迷惑を掛けらるゝは茲に言ふ迄もなき事ならむ。

依て夫等の參考の爲めに、茲に費用の概算を掲げて先づ大畧の見積りをなすに、何れの學校に入學するにも先づ第一に必要なるは束修或は入校金又は受驗料といふものなるべし。而して入學試驗料又は束修を納むるは僅に一回に止りて、通例壹圓より貳圓迄を越へざるものなれば左迄の事もなし。月謝又は授業料と稱する者は束修と異り、毎月又は毎學期の始めに前納すべき者にて、之を納るを怠る時は保證人を呼びつけて痛く小言など言はるゝことあり、又は其前納の濟む迄は公然昇校を禁ぜらるゝなど夫々八釜しきものなれば、何は扨置き是丈は其都度納めざるべからず。

而して私立の學校に在りては通例壹圓を適度とし、官立學校にては一學年（毎年九月十一日より翌年七月十日迄十ヶ月間）の總額多くも貳拾五圓、又少きは拾圓にて、九月二月の二期を以て半額宛を徴收し、或は毎月々割にして之を前納せしむるもあり。

其在學の校舍に納むる學費は束修月謝の二種にて、其一年の總額といふも多寡の知れたる者なれども、其割合に多額となるは即ち下宿料の一なるべし。通例在京の學生は最寄の下宿屋より其學校に通ふを便利とするが故に、五圓乃至三圓半の下宿料を要するを常とす。尤或種類の官立學校、若くは私立學校と雖も其學校の構内に生徒の寄宿舍を設くるありて、幾らか廉價に寄宿せしむる所なきにしもあらずと雖も、官立學校を除くの外は其寄宿舍狹隘にして不潔を免れざるが故に、先づ大抵は衛生の爲め又は雜沓を避くるが爲めに近所の下宿屋に居を定めて通學するを常とせり。此他尚ほ教科書の購買費、机案文房具の新調費（官立學校なれば制服及制帽等の新調費）あれども毎月入用の者にもあらねば、一年五圓（制服、制帽は冬夏にて十五圓）と見積らば格別不足にもあらざるべし。

是等費用の外に於て、存外多額に上る者は、即ち小遣費の一途あるべし。小供の事なれば澤山は要るまじ、澤山持たせては劍呑なり、幾ら要るものかと鄕里の父兄は高を括りたがるが常なれども、いざ留學の身となりては貳圓の小遣費中々に扨遣ひでのなきものあり。春秋二季の運動會、若くは競漕會の分頭費も此貳圓より出さゞる可からず。事に寄りては友達に誘はれ、一夕近邊の寄席に赴き餘念屈托もなく平生の苦學を慰むる事あるべしと雖も、木戸錢、坐蒲團、茶代に至る迄皆其貳圓の内より出し、又時としては氣前を示して其の友達の分迄を一所に拂ふに至りては甚だ散財と言はざるを得ず。薪炭油料も大抵は宿料の外當人の負擔たる事通例なり。筆墨紙料、朴齒の下駄、足袋、シャツ、帽子に至る迄、皆其内より出すが故に、二十日過きには無一物となりて國庫の窮乏を極むる事、決して珍らしとするに足らず。苦學

三年といふ事は固より書生の分際と諦らめて見れば夫迄なれども、去りとて稚なき少年に取りては復此上もなき辛棒あるべし。されば切り詰めたる勘定とするも。一切の小使費少くも三圓なくては可愛さうあり。之に冬夏の休業中歸省の路用迄を合算して年額百圓內外を要し、在京五年の學生は兎に角五百圓を要するとすれば、一家二三人を遊學せしむる父兄に至つては其苦勞隨分こたへたるものと謂はざるべからず。又況んや、多くの中には每月貳拾圓以上を費し、留學八九年の後茫然として鄕里に歸り行くドラ息子ありて、折角父兄の心勞をも無にして仕舞ふ者之あるをや。之を思へば少年を上京せしむるは父兄に取りて實に容易の事にあらず。諸子が熱心にせがむにも拘はらず、父兄諸君が一樣に例のむッつりとした顏をなして、輙す〻同意を表せざるも亦た無理のなき事ならずや。

第五節　遊學の準備

斯くて前途の方向も定まり、將來履修すべき學科、學費の出途、在學の年限、一々確定して上京の機會に到達するに於ては、何は兎もあれ遊學は諸君が出世の緒にて言はゞ靑雲の棧橋とも謂ふべき事なれば勇ましく鄕里を立出でらるゝがよし。但し上京の以前に於て夫々準備のある事あれば、今一と通り心着きたる事ども二つ三つ書付けて置くべし。

其準備の一としては、先づ東京の學校には官立ならば大抵は入學試驗といふ事ありて、科目も相應に小六ヶ敷ければ諸君が地方に居らるゝ間は其受驗科の豫習をする事、第一着に肝腎なるべし。受驗の學科と謂ふも各學校皆其趣を異にして素より同一なる譯には行かぬが、大抵の所は修身、讀書、作文、數學、地理、歷史、物理、化學、博物の初步、習字、圖畫、及英語の試驗ありて、中には數學の內代數幾何の餘程六ヶ敷き所迄を試驗せらるゝ所もあれば、地方僻遠の村里に居らるゝ諸君は此邊に充分の用心覺悟なかるべからず。

尤尋常中學科を卒業せられたる諸君に在りては、例の試驗もおく其儘に入學許さるゝことあれども、さう許りも行くまじければ先々試驗は受けらるゝ覺悟を以て平生より用意怠るまじき事なり。其受驗の科目の中にて脩身といふも是丈は格別六ヶ敷きこともおく、言はゞ人間一ト通りの不斷の心掛けを問はるゝ迄にて試驗の儀式見たやうなものなれば中には省畧して行はぬ所もあるべし。讀書といふは和漢文にて、白文訓點、字義文意の解釋などが重なれば平生其加減にて遣るがよからむ。和漢文といふも何故か和文は何處にても試驗はせず、只漢文の切抜きへ句讀、返り點おどを附けさせて解釋させるのが通例ゆゑ、日本外史、十八史畧、文章軌範などの本を能く勉强して置きたきものあり。作文といへば記事文、書牘文、格別四角張ッたる文句は要らず、すらりと判るやうに出來ればよし。書法は楷行草の書き別けなど試驗せらるゝこともあり、圖畫は自在畫用器畫など描かせらるゝことありと知るべし。畫工に成らぬ人も說明圖など折々書取ることの必要あれば、圖畫は小學に在る頃より大に心懸けて置かれたきものなり。數學の中、代數は一次方程式或は又多元二次方程式迄を要する事あり、幾何は平面立躰とも試驗せらるゝ事もあるべし。近來諸學校とも一樣に數學の試驗六ヶ敷くなり非常に高尙に趣きたれども、農工商業、兵事、理學とも、數學の應用豫想外に盛に趣ける今日あれば、少年諸君も此一科には力を傾けて修學あるべし。地理、歷史とも、通例は內國の分丈に止れども、近頃一般に內外とも試驗を行ふ傾きあれば、外國の事も忽せにはならず。物理、化學、博物等は、其大要に止まれども或は省きてせぬ事もあり。英語は油斷成るまじき學科なり。試驗にしくじる事大抵は數學及英語なれば、をさ〳〵用愼堅固なるべし。誦讀、譯解、書取、會話、文法、作文、飜譯と次第を追ふて行ふもあり、和文英譯、英文和譯などいふやうに試むるもあれど、詰りが英語は至難の學科なれば是れ許りは大役として勉學あられたきものあり。

以上學科試驗の事を概畧述べたれども、此外に躰格試驗といふ事あれば、常より

運動榮養に注意し、學科試驗には合格あれどもツイ躰格にて落されたりなどいふ口惜しき目に遇はぬやうにしたし。十四五歳の頃となれば、背丈恐ろしく急に伸びて、又其代りに痩せたがる傾きあれば心構へあるべし。脚氣、肺病などの忌はしき病に取着かるゝは十四五歳より二十歳前迄に多ければ、躰操運動に身を入れて強く逞しくあるやうにすべし。

又入學の試驗に際して先づ必要なるは入學願書、及び履歴書にして、愈々試驗合格となり入學許されたる時は在學證書を出すべきものなれば、上京の前兼て保證人と成るべきものを大畧定め置かざるべからず。保證人といふは東京府下に一家計を立つるものにて正副二人を要する上に、(或は一人にて濟む所もあり)其入學者の身分に關し一切の事を引受くべき保證をなすべき者なれば、勿論身元の慥かなる丁年以上の男子たるべし。其邊の所は上京以前に充分手廻しをなし置きて、いざ入學とありてがつくりと碓と差閊へあきやうに用心あるべし。

其他に上京の準備といふは諸君が身の廻り、持物ならむか。學年の始業は何れの學校も大抵九月十一日にして(尤も私立學校は區々なり)、即ち夏季休業の後なれば追々涼風の立つ頃なり。長途の道中ならば持物は成るべく少なきを要するものにて、机、夜具、蒲團の如きものは却て上京の後買求むるが便利なることもあるべければ、袷、冬物の着換へ位は成るべく携帶して來らるゝがよからむ。尤も十二月下旬より翌年一月八日迄冬季休業といふ事あれば、東京近縣の者は其間に歸省せらるゝの便利あれども、遠國の者は來年の夏迄打通しにして歸らぬも多し。されば九月の初旬に於て上京せらるゝ諸君に在りては、先々翌年七月迄は都下に居らるゝ積りにて、郷里を立たるゝが宜ろしからむ。

第三章　上京後の注意

地方少年が上京の以前に深く注意を要すべきは、即ち前途の方向と學科の撰定な

ることは前章詳悉したる所の如し。然るに其一旦鄕里を辭して着京の後第一に憂慮すべきは是迄の前途の方向の破るゝ事なり。地方に在る頃は其思想最も單一にして纏まり易きも、一度都會の地を蹈みては其周圍に集まる所の事情百端にして定まり難く、つい浮々として樣々の異なる方向に動くを常とす。

されど身邊に集まる刺激は皆一時の假相にして、變幻出沒起伏常なき彼の流行の波瀾よりも、最も定めなく頼みなく、取るにも足らぬ程の詰らぬものなり。　然るに其詰らぬ一時の假相も、遂は都會丈に鹿爪らしく盛んに方外なる景氣を張りて、諸子の耳目を欺く事あり。其假相の一例を擧ぐれば、即ち彼の俸祿に衣食する官吏は今正に落日の氣運に傾けるにも拘はらず、彼等が目先を見るの明なき更に其邊に頓着なく、威風凛然大道を駟馬に鞭つて馳驅するを見る。　又彼の民間政治家は議論に演説に口を極めて政務の釐革を説き、財政の整理を説き、尙ほ進んで內閣の交迭などを論ずれども、彼等は敢て我輩が所謂大政治家の資格を有せず又其器量をも有せずして、其本心の在る所は今の當路者の好地位を取て代らむと思へるのみ。朝野の政事家の平生志操に獨り怪しむべき所あるのみならず、殊に驚くべきは實業社會の規模の狹小なる是なり。東京全都到る處、商家軒を並べ甍を接し、其外觀は一見して商況活潑盛大なる如き所あるも實際は其運動緩漫にして更に雄大の組織を見ず。されば東隣に瀨戸物屋あれば之と接近して金物商あり、西戸に筆墨を商ふものあれば其筋向には洋紙店ありて、物品購賣者の爲めに取りては甚だ便利なるやうなれども、彼等の得意先とする所は方一町內に住居の市民と通り一邊の道路の人のみ。是に於てか東京市中到る處に商家あるも何れも有觸れたる小商人にして進んで全國と取引し海外諸國をも相手とせむ勇氣ある者は極めて稀なり。製造工業の事に至りては更に驚くべき景況にして、數千の職工を使用して巨大の機械を運轉し所謂文明の利器を借りて造化の工を奪はむとする工場の如き者は絕えて無く、其僅にある者は皆是れ政府の所有に屬する些細の小工場に過ぎざるのみ。

されば殖產世界の事情は諸子の一顧をだも勞するに足らず、政治社會の有樣とて一定不變のものにあらず。此有樣と事情を以て即ち社會の眞相と誤解し、將來諸子も斯の如き世界に身を立てむ存念にて前途を決する如きあらば、夫れこそ取返しのなりがたき過失となるべければ、諸子は遠く十年二十年の將來に遭遇すべき事情を描て、其理想に從て宜しく進退を決すべきなり。委しく言へば、東京の目下の有樣は將來に於て幾多の變遷を經て純然たる殖產組織となるべきが故に、諸子は一時の假相に迷はず深く大勢に注意して、其身を處せられむことを切望するのみ、確固不拔の定見を立て、志業を果されむことを熱望するのみ。

又此外に來京の後諸子に注意すべき事といふは、假令其の目的は動かさぬ迄も其在學の學校を屢〻改めぬやうにありたき者なり。在京初學生の常として先づ當初の一二年間は兎角に心迷ひ易く、新聞紙上の廣告を見又は友人の話に依て某學校に某博士を招聘せりといふ事を聞きては直に從前の學校を辭して新規の學校に轉じたく、又は何々の學科を設け斯樣〳〵なる方法を設けて廉價に敎授すると聞きては坐ろに其學校が良ささうに思はれ熟々是迄の學校が厭になり、遂に斷然と轉學して新規に始めて見るも想像に思ひしよりは格外に相違し、成程某博士といふも一二週に一度は顏を出すとあるも僅に一時間か二時間の敎授にて而も上級へ出た許りにて其儘歸り行く後姿憎らしく、敎場の間取、机脚の配置、同級の生徒、敎師の敎へ方、又は事務員の待遇迄が一々疳癪の種となりて再三學校を變換し、曾て一所に止らざる者往々にしてなしとせず。是れ甚しき迷誤にして、其學校變換と共に宿所を改め、敎科書を改め、束脩を要する等豫算外の費用を費すこと莫大なり。其上轉校の際幾許の時日を徒に消耗し、空しく學業の進步を害し、二年三年を夢の間に送りて遂には流浪的書生となるの端緒を開くものなれば、諸子は入校の前に於て充分其學校の適否を考へ、一度其學校に入るに於ては多少氣に染まぬ事ありとも忍んで其目的とする課業を修めて飽迄其初心を變ずる勿れ。

又今一つの注意といふは都會の風習に感染れざる事にて、諸子は飽迄も其固有の眞贋にして篤實なる、撲直にして質素なる、勇敢にして剛毅なる、其貴重なる田舍氣質を大事の生命として失ふ勿かれ、東京の人は何事も外部の美麗に値打を買て衣裳身の廻りに拘泥すれども、諸子は其樣な兒戲に等しき都會の風習に頓着なく、却て其質實なる手織物を着て大勢集會の席あるに臨みて彼等の輕浮なる肝玉をエグリ、華美驕奢は眞成なる志士の敢て爲ざる所たるを都人に示す覺悟あらざる可からず。次に地方と都會の相違は即ち言語性質なれども、諸子は都下に來るの後敢て東京語を學ぶを要せず、其訛ある撲訥の言語を臆面なく使用して毫も耻ることある可からず。仔細に點檢し來る時は日本の國粹は都會よりも却て地方に存する事多し。言語風俗の末節より人倫德操の大本に至る迄、其取るべきもの都會よりも却て地方に多しとすれば其風習を愛護するは是亦諸子の要務あらずや。

第一節　都下の狀況

新上京者が着京の後最も耳目を注ぐは、即ち都下の狀況なるべし。之を知らむと欲すれば先づ第一に東京市區の地圖を購ふて之を見よ。而して其地圖を讀閲して仔細に點檢する時は、府下十五區の位置、區域、道路、市街の方向、名稱、地勢の高低、學校の所在、一々指摘して明瞭ならしむ。

されども詳細の說明に至つては素より圖面にあるべき筈なく、又上京者の案内の如きも記載あるべき筈なきが故に、茲に少しく概說すれば、中央京橋、日本橋、神田の諸區は東京市中最も繁盛なる所にして、新橋及び京橋間の市街は所謂銀座街とて建築壯麗を以て聞へ高し。西南地方より來京の諸子が新橋停車場に着するや否や瀛車より下るの地は銀座街なれば、歐風の建築、煉瓦の石道、廣大なる花崗石室、輝々たる瓦斯燈、諸會社、新聞社、雜貨店、飲食店等を始として、華美を極める都人士の盛裝、驕奢を鬪はす豪商の生活、皆少年の眼底に一々映じ來つて暫くは心思恍惚たる

の想ひあらむ。銀座街を過ぎて京橋を渡れば是より日本橋區にして、土藏造りの商店は遺に國風の古格を存し、其外觀は銀座街に一歩を讓るが如しと雖も却て屈指の豪家といふは此區域の中に在りて、商賣の手堅きは隨一なるべし、日本橋區を經て北の方今川橋を渡る時は是より神田區となりて萬世橋に至る迄を即ち內神田とも謂へり。

萬世橋より左折して西九段坂に至る迄には、著名の學校極めて多く、神田錦町、小川町、神保町等は此邊に在りて、官立高等商業學校、東京法學院、專修學校、明治法律學校、獨逸協會學校を始め、東京英語學校、共立學校、成立學舍、錦城學校、等皆此間に林立し、學生の總數幾萬の多きに上れるや知るべからず、大なる下宿屋のあるも此邊あり、數多の小塾のあるも此邊なれば、諸子が上京の後根據を構ふるも大方此邊なるべきか。

夫より尙萬世橋を北に渡り西に曲れば、聖堂の裏、佐藤病院の手前に於て、巍然屹立せる煉瓦の巨堂あり、是れぞ即ち新築に係る高等師範學校にして、女子高等師範學校は其西隣に峙立せり。之を通過して本鄕區龍岡町に至る時は、遙に上野の公園に對して叢林鬱蒼として世塵を絕てる廣く大なる閑天地あり。帝國大學は此間に建設けたるものにして、法醫工文理の分科大學新築功成りて參差相望み、第一高等中學校復た其北隣に雄視せり。

上野公園は府下第一の大なる公園にして、美術學校、音樂學校等近き頃皆此中に建築せられ、帝國博物館、動物園、東京圖書館など學生に緣故深きもの極めて多く、加之今年の如く人群雜沓する大博覽會、美術展覽會の如きものは何時も此公園の中に開かれ、每年花見の頃に在ては都下百萬の人々は恰も狂せるが如く此處に集り、其前後には少年諸子の最も喜ばるゝ運動會、髯ある人々の嬉しがる競馬會なども此邊にて悉皆催ふさるゝ處なれば、櫻花爛熳たる春の朝も、紅葉散布く秋の夕も諸君が留學中散策に最も忙がしきは此處なるべし。

其れより左折して東を指し鉄道馬車に蹤て行けば、凡そ十町も歩るきし頃淺草公園の前に出づべし。此公園の中に於て諸子の注意を惹くべきものは、さて……何物か……と考ふるに、口惜しやあれ程の廣き場所に假りにも學生たらむ者の耳目を慰むべきものは一もなく、只宏々たる大建築、虚空を衝く許りの五重の塔、何時の頃よりの建立なりしか復とはあるまじき大伽藍が、莊嚴を盡し美觀を極はめて最と尊げに見ゆるのみ。淺草觀音と世に聞ゆるは件の大伽藍の事なれども、珠數を爪繰らぬ身には夫れも要なく、此處に立去つてブラ〳〵と諸君は吾妻橋の方に行けば、倏忽として滔々たる大河の岸頭に立たるゝならむ。

是れなん隅田川と聞へ高き都下第一の河流にして墨堤十里などゝ見もせぬ事を嘗て文章に綴りしも扨は對岸の事なりけり。此處は諸子の知らるゝ如く春時花見の場所にして、帝國大學、第一高等中學校等の競漕會も皆此の上流に於て行はれ、其時こそは學生社會が一大騒動を遺ることにて赤と白との紛爭は實に眼ざましき有樣なり。斯かる時には勝敗に更に關係なき局外者が却て好い氣散じをするものにて、負けた連中こそ氣の毒あれと、其處も立去つて何時しかに淺草藏前の邊迄來れば、片町といふ所に於て工業學校を認むるならむ。

烟突高く空に聳へて蒸氣機械の音耳に喧すしく、染工、陶器玻璃工科、製品、機械科の各生徒は種々の操作に忙がしく、天晴れ文明の民を造るに至適の學校よと見返り〳〵、軈て藏前を過ぎ淺草橋も渡り鐵道馬車に乘りて右へと進まば、再び萬世橋の際に來りて、何處へ是れより行くべきか。上野、新橋、本郷、九段、四通八達の要路なれば、是れより小川町の友達を尋ね、又は牛込の知邊を訪ふも素より諸子の隨意なれど、兎にも角にも東京の一部の有樣は判りしならむ。

此の僅かなる通行の間に諸子の注意を惹ける者は、即ち諸子が到る處に出會せざるはあき鐵道馬車にして、其往復の輕快なると、價の廉なるには、諸子も大に其便利を感ぜられしあらん。即ち新橋上野の間、及び淺草萬世橋迄を徒歩にてぶらつく

時は三時間を要し、腕車を雇ふ時は失敬にも彼等は諸子を田舍人と見て（實に失敬なり！）先づ三拾錢は强請る事あれども、鉄道馬車に乘れば諾否おしに儘々十二錢にて半時間をも費さずして達するあり。

されば東京に慣れざる間は、諸子は此馬車を利用して成るべく用便を達さるゝがよし。又時として腕車を雇ひ、充分思ふさま價を値切つて半價位ならば乘らるゝもよけれど、少しく都慣れぬ者と見込まるゝ時は先方へ着てから不法を言出され、始めて尋ねたる家などにて思はぬ耻をかく事もあるべし。依て我輩は此の如く思ふ。新上京の地方諸子は、成るべく車には乘ること勿れ。車に乘らずして勉めて、誓ふて、歩るくやうにしても我々には中々運動が不足勝ちなり。然るに邂逅に出る外出に、而も僅かなる間の場所を空しく車にて往復すれば、運動の時間を我々は全く潰したるも同然なり。胃弱の原因は大抵が運動の不足勝ちに因る事なり。肺癆の誘因も此事が大に與つて力ありとぞ。されば都下に居る人々は、外出の折は成るべく誓ふて徒歩にて行くべきに、却て勉めて車に乘りたがるは心なき事なり。無識か、虚榮か、見得か、飾りか、但しは一般の風習か。恐らく一般の風習にて、永き是迄の習慣を改め難き事情ありて斯くする事と思はるれば、是れ是非もなき次第なれども、新上京の少年諸子が此の悲しむべき風習に一朝感染るゝは忌はしき事なり。些細の事あれば車賃の價の高下などは論ずる迄もなけれど、此事八方に影響して彼是れ重大なる關係もあれば、諸子は來京の初より成るべく此事に注意して乘車を控へらるゝがよからんと思ふ。

第二節　知己の訪問

都下の狀況は前節に少しく解説したれども、新たに上京の少年諸子は萬事に付て不案内勝ちなれば、先づ鄕里を出發の以前に遊學の向きを在京の知己朋友に報道し、而して東京來着の上は直に車を其家に馳せて之を訪問するを可とす。在京學生の身

に取りては、地方の朋友より遊學の通知を受くる事は非常なる愉快に思はるゝ者あれば、諸君が何時幾日に上京する旨郵信又は電報にて通知せらるゝ場合には、大抵來着の日取を考へ或は刻限を推測して之を心待ちに待ち居るものあり。然るに來京の諸君にして、多少遠慮の心持にて其訪問を爲さゞるか、又は自分の計らひにて勝手に便宜の旅宿に投じ、程歴て言譯の爲めに其知友を訪問するが如き時には、却て其知友の氣合を毀し不快を感ぜしむることと往々あるべし。

又東京に在學するには、都下に住居せる父兄の知人、若くは諸君と緣故ある親戚知友の保證を得て、入學證書其外の手數を煩はすべきものなれば、萬事夫等の人々に就て助言と協議とを受くるを要す。又地方の習慣に依りては、絶へて久しく逢はぬ人、又は初對面の人などを訪問するの時に於ては、土産物などに恐ろしく氣を張り、兎角他人の訪問をおッくうに思ふものあれども、其れは舊時の弊風にて當時學者社會にては其弊を擯斥するの傾きあれば、少年諸君も其邊の事は、寧ろ見合す方さつぱりとしてよからむ。十五六から贈遺品などに下らぬ心配をする樣な少年は、將來議員の撰擧の折柄賄賂を用ひるやうな人物となッて、不潔も復た甚だしと我輩は思ふ。贈遺品の有無に依て其待遇を異にする如き狹き根性の人々に諸君の世話の出來た者にはあらず。贈遺といふ事は封建時代の賄賂の性質を變じたるものにて、當時も或種類の階級に於て(何か請托の意を達せむが爲め)盛んに行はるゝことなれば、我等が之を忌む事は實に蛇蝎よりも甚だし。依て次手ながら諸君に望む。諸君は次代の社會に於て公明正大なる運動を爲すべき者なれば、今よりして此の厭ふべき舊習を斥け、尙此後も心に誓ふて贈遺をなさゞるやうに勉められむことを。

第三節　宿所の考察

宿所を撰ぶには隨分注意と考察を要する事なり。通例在京の學生は、下宿又は親戚の家より通學するを常とおし、或は其入學の學校に附屬の寄宿舍に居る事あれど

も、相成るべくは親戚か知人の家より通學するを當人の爲めに利益ありとす。

知人の家に寓する時は隨分手數を先方に掛け、萬事に付けて眼に見えぬ心配を煩はすものなれば、さう一概に親戚故舊の厄介になるも氣の毒なれども、先力で置きたがる樣子ありて、父兄も世話になれといふ事ならば、成るべく我慢して其家に居るがよし。又緣戚の家といふは、大概學校と懸離れたる遠くに在り勝ちの者あれば、通學の難儀、時間の都合、其他樣々の不便ありて下宿したがる者あれども、遠路の通學は諸子の爲めに運動の補助となりて衛生上極めて利益大あるものあり。尙學生が在京中に遊蕩懶惰の習慣に染まり、又は不行儀ある品行となりて、言葉遣ひなどの亂暴となるは大抵寄宿舍、下宿屋の二階に於て覺えるものあれども、緣戚の家に在る者は故あく課業を休むことも成るまじく、又夜分なども時ならぬ時刻に歸ることを憚るべければ、結句諸子の身に取りて甚だ利益多かるべし。

然しながら東京の家は格外間數の少きものにて、只夫れ丈の都合より諸子の寄寓を迷惑に感ずる向もあるべければ、左る場合には氣を利かして隨分諸子の方よりして機嫌を毀はさぬやうに外づさるゝがよし。又當初より格別の懇意にあらざる知人ならば、寄宿舍又は下宿屋に寓居を定むる方然るべきか。寄宿及び下宿の中にて、何れがよかるべきやといふに、毎夜門限の制規もあり、飲食、睡眠に至る迄夫々校則のある事あれば官立諸學校ならば寄宿舍の方無論本人の爲めにはあれども、私立學校にては其邊の管理甚だ不規則なれば或る種類の學校の外は最も信用を置きがたかるべし。而して下宿屋は異分子の集合躰より成立し其新陳交代は常に頻繁として行はるゝが故に、假令壁一重なりと雖も相往來するは稀なれども、彼の寄宿舍に至りては、同一學校の生徒のみにて平生懇意に交際し往復するが常なれば、一と度不良の弊習起れば相追隨して惡風に墮落し非常に品行を亂るが故に、規律緩漫なる寄宿舍よりも却て下宿屋の方を優れりとす。

下宿を撰ばんとする時は、先づ其在る所の地勢を察し、餘りに卑濕なる所を避け

て、稍〻高燥の場所に在る空氣清潔の地を撰ぶを要す。地勢の高燥なる所に在りては、脚氣流行病に罹るの恐少おく、遠く市塵を離れたれば喧囂雜沓の憂もなく、身體衛生の上に就いても精神保護の上に就ても頗る便利多かるべきなり。本鄉の高臺、芝の三田臺、神田の駿河臺等は地勢最も高燥にして下宿營業者の多けれども、尙其外に小石川、麹町區等にも相應の下宿隨分に多かるべし。

是等の下宿屋は十人乃至四五十人を容るゝに足りて、其宿料食物等も大抵甲乙を見ざれども、尙細かに觀察し來れば寄宿待遇の上に於て多少の相違あるを免れず。されば是等の良否を見屆け、又其宿所の適當と否とを鑑別せんとせば、勝手慣れたる朋友を伴ひ、先づ四五軒の家を叩て明間の有無を問糺し、小さな赤ら顏の下婢など出て〻果して『御坐います』と答ふるに於ては、つか〳〵臆面おく坐敷に通りて、先づ其坐敷の疊數を調べ、次に押入れを開ひて見、次に床の間の具合、窓の附け方、光線の明暗、通氣の良否、一々觀察して宿料を尋ね、其れにて氣に入らば夫迄あれども、萬一思はしくなきに於ては『いづれ考へてから、又其中に…』といふ風にして其家を出づべし。食料は一ヶ月通常三圓が相場なれども、間代といふものを其中に込むれば、先づ四疊半位に在りては四圓といふが通例なるべし。尤も三疊にて三圓半位の者あれども、三疊にては空氣不潔となりて衛生に可ならず。五疊六疊位の處に知友相携へて二人にて居り、又は八疊の間に二三人同居する者もあるべけれど、さる場合には食料（三圓）の外、間代（壹圓乃至貳圓）を分割して擔當し、一人三圓半位の割合に下宿するを以て常とせり。宿料談判の際などは一切此加減にて遣つて退くべし。夜具、炭油等は自分にて別に負擔する心得あるべし。

第四節　學校の採擇

前途の方向既に決し、學科の撰定漸く定り、笈を負ふて遙々と輦下に來りたるの後は、玆に就學の學校を採擇するの要あるなり。彼の諸官立學校の如きは大抵特殊

の性質を有し、例へば帝國大學に入らむと欲する者は是非共に高等中學を經るを要し、海陸軍人とならむとせば必ず陸軍士官學校若くは海軍兵學校に入學するを要すれども、彼の八方に峙立せる諸般の私立學校の如きは其性質區々にして、課程の難易、教授の良否、講師の適否、生徒の資格、一々其趣を異にすれば、餘程精密なる觀察と思慮ある鑑別を爲したる上之を採擇せざるべからず。

而して數十の塾舍に就て一々其良否を判別し至當の學校を擇ばむことは甚だ容易にはあらざれども、受驗科教授の學校に在りては最も多數の生徒を有し、且毎年最多數の試驗合格者を出す者を先づ最良の學校とすべし。東京英語學校の如き、錦城學校の如き、共立學校の如き、成立學舍の如きものは、高等中學校、海軍兵學校、舊農林學校等の入學受驗科を教授する最も評判よきものにして、成城學校は幼年學校及び陸軍士官學校入學志願者の入りて學ぶに頗る適當なるものなるべし。又數學の專攻舍及び海軍の兵學校に入學あさむとする者に最も便利なるは攻玉社にして、普通の英學を修めむとする者は慶應義塾、東京英學院、國民英學會等を可なりとす。

特別認可法律學校中亦各々優劣ありて、其性質さへ幾分か相違あるが如くなれば之れに入學を希望する者は隨分周到なる考察を要すべき事勿論なり。此他に英學、數學、漢學、若くは獨逸學、佛學、簿記學、物理、藥學、商業、手工、百般の學を教ふるの校舍、殆んど數百もあるべくして、中には純良のものもあるべく、又は不完全の者もあるべし。又其建設年久しく資金充實して校運の益々盛大なる者もあれば、或は規則不完全、創業日淺くして旦夕を保たざるも多かるべし。されば就學の初に於て充分其學校の良否を撰び、斯くて其足を投ぜざれば或は今日入學して明日轉校の必要も起るべく、又は束脩月謝等の拂ひ損とあることも往々あるべし。

第五節　入學の手續

官立諸學校の入學期日は大抵學年の初にして、夏季休業中入學試驗を執行するを

通例とす。尤も後學期(翌年二月)に至り再び入學を許すこともあれど、斯かる事は定員に不足を生じたる時に限れり。試業期日は官報にて廣告するを常となし、其試驗の課目程度は第四章以下に委しく述ぶべし。又其入校の際に至り、入學願書、學業履歴書、入學證書等を要することは、上京の準備にていへるが如し。

私立學校にては學年の期日各々區々にして、或は一月八日に始まり、又は三月四月の交、若くは八九月の頃よりして起算するものも尠なからねば、其入學を許すの期日も之に準じて一定しがたし。又其入學試驗の如きも、之を執行するものあれども、多くは臨時に入學を許し入學試驗すら碌々に行はざるが多かるべし。

特別認可諸學校は文部省令の規定もありて、各校入學の試驗を要し、又其年齡の制限ありて總て十七年以下の者は入校せしむるを得ざる事なり。又私立の學校と雖も、例へば慶應義塾の如きは其大學部の入學に種々六ヶ敷き制限を置きて是れが入學試驗の如きも隨分嚴重なる者なりといへり。入學願書、履歴書等は官私立の學校ともに夫々其學校の書式あり格例のあることなれば、願書を出す際其學校に就て一々照會あるがよし。彼の入學受驗料(若くは束脩)も入學の際願書と共に出すものあれば、豫て其邊の心得もあるべし。

第六節　女子の遊學

地方少年が笈を負ふて都下に來學する者の日に增し多きを加ふるは、爭ふべからざるの事實にして、其遊學に關する注意は畧ぼ前章に盡くしたりと思ふ。然るに時勢の進運は獨り少年男子を驅つて競ふて遊學の途に上る事情の下に立たしむるのみならず、又妙齡の女子に迫りて餘義なく高等の敎育を受くるの必要を感ぜしむるに至れり。

是に於てか遊學の女子近來甚だ多くして、東京全都到る處に女學校の設けあらざるはなく、英語を能くする者、舞蹈に巧みなる者、女權を談ずる者、宗敎を語る者、

言語擧動の男らしき者、思想感情の女丈夫めきたる者、但しは當世の紫式部、又は我邦のナイチンゲールに自ら擬する者輩出すれども、社會の需要は斯の如き浮きたる調子にあらずして、其實際の注文は甚だ重大にして今日の女子には餘程骨の折れたる者あるが如し。

即ち從來の世間の仕組は極めて疎大にして何事も麤揚あるを旨とせしも、是より後の社會の組織は益々複雜となりて其仕事も追々繁劇を加ふる事なり。封建世祿の時代に在りては獨り士族の階級のみが安閑として暮せるにはあらず、百姓町人の如き者迄永き間には其れに感染れて、稍々大なる身代となれば家内を御深窓と崇めさせて自分も旦那樣か何かになつて、最と優長に暮らしゝ事なり。然るに星移り物變り、一たび封建の仕組壞れて世間萬般の事殖産の組織と改りたる以上は、假令歴々の御深窓たりとも最早悠然として奥向きにのみ空しく引ッ込んで居らるべきにあらず。夫が兩刀を投げ出して、頻りと店先の顧客に向つて世辭を商賣とする世の中となりては、家内たる者も其氣になりて車輪と立働らくの必要を見るあり。目下の有樣すら此の如し。況んや將來殖産事業の益々發達するの時に及ばゞ、男子の繁劇なる事は又今日の比にあらずして、迚も家政の事抔に容喙するの暇もなからむ。斯かる時世とそ家政を擧げて女子の管理に屬すべき男女分業の時代にして、今日にても或る種類の劇務に從事せる人々は皆此の分業の必要あるを多少感ぜざる者はあらざるべし。然るに細大とあく家政の事を悉皆調理統轄するは、餘程の才幹と綿密なる智識を要すべき事にて、之に當らむとする婦人は夫々緊要なる學識と多少の教育を有せざるべからず。衣食住居の事に關し、金錢出納の事に關し、衛生上の事に關し、理化學上の事に關して、假令尠くとも普通の智識は無くて叶はざる事あり。

況してや將來の世界に於ては社交といふ事大切になりて、親戚緣者の交際は勿論、夫の朋友知己に對して、之を欵待し好遇するは悉皆婦人の役目なれば、人倫交際の事に就て、世間の重要なる出來事に就て、夫の職務上の事に就て、普通の智識丈は

尠くとも之を有せざるべからず。然るに人間を扱ふことは彼の物質に對するよりも極めて六ケ敷きものにして、餘りにちやほやすれば茶屋の女房の如しと誹られ、去りとて格外にくすみ過ぎてもおつに澄ますと評さるべし。交際社會の間に立つて婦人が腕前を示すべきは正に此樣な場合にして、夫の榮辱、家運の盛衰、只是れ婦人の方寸に懸れるものと謂はざる可からず。然るに是等社交上、若くは内政上の智識と器量は、之を何づれより得べきやといふに、余輩は差當り敎育より之を得べきの外なしと思ふ。

又將來の世界に立つて、最も福祉ある生活を營まんとする者は、兎に角强健なる身體と鋭利の精神とを持たざるべからず。即ち次代の國民となりて最も繁劇なる世界に立ち、自家の爲めに社會の爲めに偉大の事業をなさむ者は、最も善良なる父母の遺傳と最も有力なる敎育に依つて、其身心を練らざるべからず。然るに敎育の大部分は大抵家庭の薫陶にありて、殊に家庭の敎育中最も勢力あるは母なれば、婦人の智識道德の如何は遠く子孫の運命を指定し、又將來の國民の上に至大の影響を及ぼすべきあり。事實此の如くなれば、婦人は尠くも普通の知識と道義感情の幾分を有し、又成るべくは生理上、心理上の理法に就ても幾許か正當の見を有し、兒子を敎育するに當つて多少の用意ありたき事あり。是等普通の知識を具へ道義感情の幾分を存して、人の母たるに適當の資格を得んと欲する者は、固より至當の敎育に依らざるべからざるが故に、時勢の須要に迫られて稍〻高尚なる學術技藝を修めむ目的を以て妙齡の女子が陸續都下に集まるも固より其所ありと我は思ふ。

然るに今日の女學生を見れば、彼等の最も喜んで學ぶ所は着實ある母たり妻たるの道にあらずして、彼等は不幸にも限りなき迷誤の巷に彷徨し、其平生に談ずる所は女權擴張といひ、婦人矯風といひ、宗敎といひ、社交といひ、さながら男子が政治論に熱心あるの趣に似て、厚生館に敎會堂に口角沫を飛ばして筋張るは抑も何たる失躰ぞや。又彼の軟弱き同胞の中には、頻りに舞蹈の如き事に身を入れ、之れに

通ずるを交際社會の女王と心得てか此處の夜會、彼處の園遊會と浮かれ歩るく氣輕の令孃も多けれど、是れ併しながら流行の波瀾に眩惑せる向見ずの所爲にて、忌むべき風習も其原は舞踊に起るともいへば新上京の妙齢女子は構へて一時の流行に溺るゝが如き事あるべからず。之を要するに少年男子が競ふて政治文學に心醉すると同樣に、又當時の女學生も好ましからぬ極端の事に要らざる苦勞をする者に似たり。男子の場合には修業の時日も長き事なれども、女子の遊學年限は甚だ短き者なれば、一度方向を誤りては又と取返しの付かぬものなり。女權擴張といひ矯風といひ成程元氣よき仕事なれば、活潑俠慧なる女丈夫の社會に運動を試みむには、極めて面白き問題なるべし。併しながら少女の多數が殘らず演說遣ひとなりて世間を押廻はるやうになりても仕末にならぬ騷ぎなれば、他日優良淑貞なる婦人たらむ身は豫め着實の學問に心掛けて、其身を誤らぬやうになさゞるべからず。

智識、道德の修養と共に婦人に缺くべからざる者は裁縫、編物、刺繍、造花等の手藝なるべし。圖畫、音樂といふ事も女子に適當の技藝なれば、其一と通り丈は心得て優雅の情思をも養ひたき者なり。是等の學術、技藝を授くる府下の女學校は當時に在りては甚だ多き事なれども、高等女學校、女子職業學校、明治女學校、跡見女學校、成立學舍女子部の如きは中にも評判のよきものなり。修業年限は三年乃至五ヶ年なれば充分なるべし。學費に至つては男子と違ひ女子は一般に其性質浪費を愼しむものなれば、毎月七八圓位もあらば先々相應なものなるべし。宿所を擇ぶことは父兄に取りても又當人の爲めに取りても、餘程大切なる事にて、都下に親戚故舊なき身は餘儀なく下宿屋に身を寄せて通學する者も往々あれども、概して下宿屋は活潑疎暴の書生の出入する所なれば、僅に襖一重を隔つるのみにて、女子の居たゝまれる者にはあらず。されば餘儀なくば學校の寄宿舍の中に身を寄せて暫く我慢するもよかるべけれど、女性許りの寄合ふ所は蔭口八釜しくして嫉妬、誹謗、怨恨、憎惡等の惡德に何時しか染り易きものなれば、些細の知邊ある者は少しは氣の毒な

る思ひをしても在京中の一切の世話は之に賴むが宜ろしかるべし。

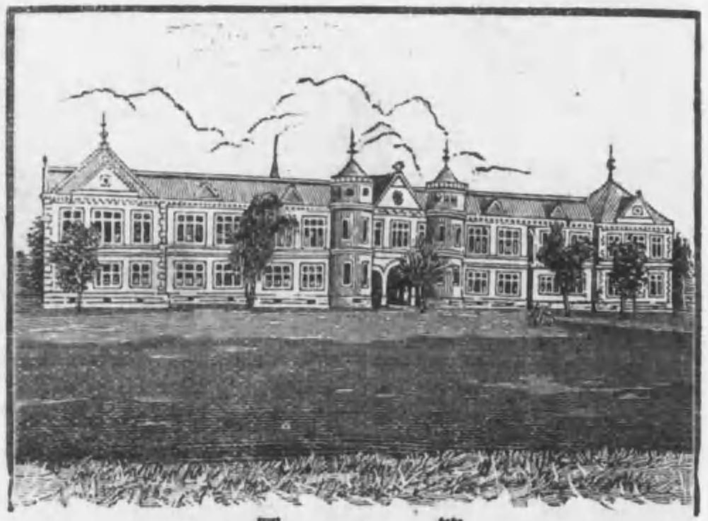
第四章　各學校の規則

帝國大學

帝國大學は、大學院及び法醫工文理の分科大學を以て構成せられ、近來に至り駒場かる東京農林學校をも陞せて大學となしたれば、是にて帝國大學は六個の分科大學を包轄すべき事とはなれり。而して分科大學は國家の須要に應ずる學術技藝の理論及び應用を敎授し、大學院は學術技藝の蘊奧を攻究する所あれば、帝國大學は我邦に於て最も高等なる學術技藝の源泉たること勿論なり。

分科大學の學科を卒へ定規の試驗を經たる者には卒業證書を授與すべく、分科大學の卒業生若くは之と同等の學力ある者にして大學院に入り學術技藝の蘊奧を攻究し定規の試驗を經たる者には、則ち學位を授與する事なり。學位は博士、大博士の二等に區別して、之を法學醫學工學文學理學(農學)の六博士に分つ。

入學の期は毎學年の初めに一回にして、學年は九月十一日に始まるものとす。而して試驗を要せずして分科大學の第一年級に入るを得るは、高等中學の卒業生か、若



第一圖

第二圖

第三圖

くは文部大臣に於て之と同等の學科課程を具備すると公認する學校に於て卒業證書を受けたる者あり。其他は大學に於て試驗をなし至當の學力と認めたる者にあらざれば入學を許さず。

試驗を受けて入學をなさむとする者は、受驗料として金五圓を納むるを要す。又入學の後は受業料として毎月貳圓五十錢を納め、寄宿舍に入るときは寄宿料として三圓五十錢づゝを納むるを要す。授業に要する書籍類は、醫科大學を除くの外い總て貸し渡すが故に學生に取りては甚だ都合よき事なり。されば大學に入る者と雖も、毎月學資として拾圓乃至十二三圓もあらば事足るべし。

分科大學學生にして特別保護を要する學科を修め其學力は優等に其品行は方正にして學資支辨の途あき者は分科大學より當該學年内年額八十五圓以内の貸費を支給することあるべし。又他の官廳會社又は一私人の依託に應じて、分科大學學生に學資を貸與することありて、家計不如意なる學生に在りては甚だ便利なる事なり。但し貸費を受けたる者は、其貸費者の示命に從ひ其貸費を受けたる年數と均しき期限内に於て某事業に從事して月賦返納とあせば可なり。又左る制限もなく奬學の爲め貸費を受けたる者にありては、卒業の上貸費を受けたる年數と均しき期限内に於て、一年六分の利子を附して月賦完納すべきものとす。

分科大學卒業生は其履修の學科に從ひ、各學士と稱するを得べし。又各科の正科生の外に、撰科生といふ者あり。是は法工醫文理の各分科大學中一課目又は數課目を撰びて專修せんと欲し入學願出る者にして、學力試驗の上入學を特殊に許さるゝ所の者あり。但し撰科生の入學は各級正科生ゟ缺員ある場合にあらざれば許されず、右學生は正科生と同じく受業料を納むるを要す。

法科大學には、法律學科、政治學科の二學科を設け、修業の期限各々三ヶ年とす。法律學科、又之を三部に分割して、英吉利、佛蘭西、獨逸の法律學科とせり。

醫科大學には醫學科、藥學科の二學科を設け、修業の期限、醫學科を四年と定め藥學科を三年の課程と定めたり。

工科大學には土木學科、機械工學科、造船學科、造兵學科、電氣工學科、造家學科、應用化學科、火藥學科、採鑛及冶金學科の九學科を設け、修業年限は各學科各々三ヶ年とす。

文科大學には哲學科、和文學科、漢文學科、史學科、博言學科、英文學科、獨逸文學科の七學科を設け、修業年限は各學科各々三ヶ年間とす。

理科大學には數學科、星學科、物理學科、化學科、動物學科、植物學科、地質學科の七學科を設け、修業年限は各々三ヶ年間とす。

農科大學は輓近の創設に係り諸般の學科課程等未だ整頓せざるを以て、本年の遊學案內には暫く掲載せざる事とせり。尙帝國大學以下、高等師範學校士官學校等至高重要の學科と雖も、新上京入學者の爲めに目下の必要を感ぜざる分は、只其綱領を茲に掲げて其細目は省畧に從ふ。

高等師範學校（附女子高等師範學校）

高等師範學校は府縣尋常師範學校の校長及敎員たるべき者を養成する所にして、其修業年限は即ち三ヶ年間とす。

學科を區分して、三科となす。理化學科、博物學科、及び文學科、即ち是なり。

附屬男兒小學校

理化學科に於て課する所は主として數學、物理學、化學、手工、圖畫に屬し、博物學科に於て授くる所は重に鑛物學、地質學、植物學、動物學、有機化學、生理學、農學、圖畫に關し、而して文學科にては國語、漢文、地理、歷史、哲學、及理財學の諸科を專ら講究せしむ。

斯く整然たる分科を立てゝ專門的に各般の學科を講究せしむると雖も、元來本校は學術技藝の專門家を出だす目的にあらず。是に於てか、各分科ともに最も精神を注ぐ所は即ち敎育學にして、兼て倫理學の講究にも其全力を傾けしむ。德育上に莫大なる感化を及ぼすは音樂にして躰育上に比類なき効驗を有するは體操あるべし。されば音樂、體操

の二科は通じて各分科生に課するものにて、兼て英語の練習にも大に力を盡すを見る。

女子高等師範學校

本校は府縣尋常師範學校女子部の教員たるべきものを養成する所にして、其修業年限は即ち四年間なりとす。教科は倫理、教育、國語、漢文、英語、數學、簿記、地理、歴史、動物、植物、鑛物、地質、物理、化學、家事、習字、圖畫、音樂、體操等の諸科に渉り、近來迄は高等師範學校の女子部と稱せしが獨立して、更に女子高等師範學校と當時の名稱に改めたり。

此兩校の男女生徒は將來國民教育の上に至大の影響を有する者にて、固より尋常一般の學則を以て養成すべき者にはあらざるが故に推選を嚴にし、高等師範學校生徒は尋常師範學校の卒業生の中に就て各府縣知事之を選擧し、又女子高等師範學校生徒は尋常師範學校の二ヶ年課程を終りたる女生徒、若くは之と同等ある學力資格を有する者より各府縣知事之を選擧し、本學校長は其中に就て再び選拔を行ふものとす。

陸軍士官學校（附陸軍幼年學校）

陸軍士官學校は陸軍各兵科の士官候補生を招募して生徒となし初級士官たるに必要なる教育を爲すを目的とす。

本校生徒の教育は之を分つて教授及訓育とし、其科目は將校及學校監の定むる所あり。修業年限は一年半とし、毎年十二月上旬に始り翌々年五月下旬に終るものとす。

陸軍幼年學校

陸軍幼年學校は尋常中學と同一なる教授並に軍人の豫備教育を生徒に與へて、陸軍各兵科の士官候補生と爲すべきものを養生するを以て目的とす。

幼年生徒の教育も之を教授及訓育に分ち、其科目は將校及學校監の定むる所なり。修業年限は三箇年にして、其の一年期は九月上旬より翌年六月下旬に終る。卒業の者には證書を附與し士官候補生として軍隊に配賦す。學術品行優等の者は同時に二等軍曹の資格に進むことあるべし。

幼年生徒は官費生、半官費生、自費生の三種に分つ。戰死したる將校並に之に相當する高等官の孤兒は全く官費生とす。平時公務の爲め不幸にして死亡したる者の孤兒も之に準ず。此の外官費生、半官費生、自費生と爲すべき者は監軍之を裁定す。

學習院（附華族女學校）

學習院は專ら　天皇陛下の聖旨に基き華族の男子に華族に相當せる教育を施す所にして、宮内大臣の所轄に屬せり。但し士民の子弟と雖も適當の者は本院の都合に依て入學を許す。

本院の教科を分つて、初等學科、中等學科、高等學科、別科、海軍豫科の五種となす。

初等學科は、國語、數學、理學、藝術の四課にして、修業年限を六ヶ年とし、滿六年より滿十二年迄を相當年齡とす。

中等學科は國語漢文、英佛獨文、歴史地理、數學、理學、藝術、武課の七課にして、修業年限を六ヶ年とし、滿十二年より滿十八年迄を相當年齡とす。但し中等學科第三年級卒業の者には陸軍幼年學校に入るに堪ふべき學力を具へしめ、其六年級卒業の者には陸軍各兵科士官校補生たるに堪ふべき學力を備へしむ。

高等學科は、國語漢文、英佛獨文、歴史地理、數學、理學、政學、哲學、武課の八課にして、修業年限を三ヶ年とし、滿十八年より滿二十一年迄を相當年齡とす。

別科は、政學、法學、文學、及武課の四課にして修業年限を三ヶ年とし、滿廿一年より滿二十四年迄を相當年齡とす。

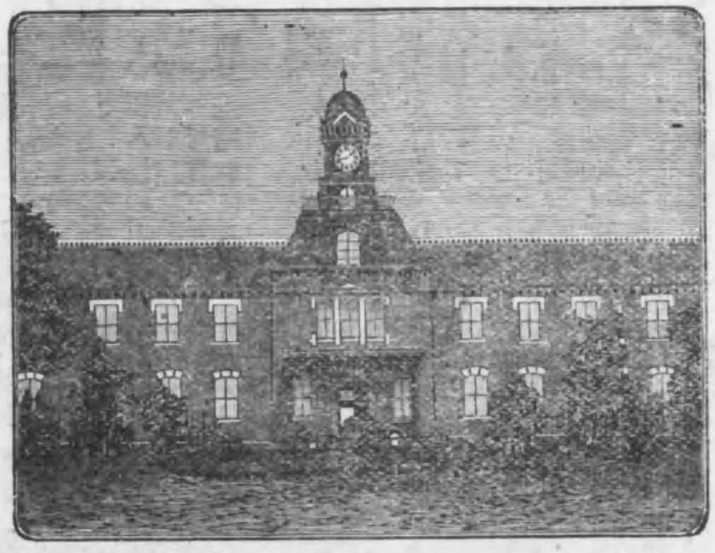
海軍豫科は、國語漢文、英文、數學、理學、武課の五課にして、修業年限を三ヶ年とし、滿十五年より滿十八年迄を相當年齡とす。但し此科は志願に由り中等學科三年級卒業以上の者をして之に就かしめ、卒業の者は海軍兵學校に入るに堪ふるのみならず、尚入校の上其課業を修むるに餘地あるべき學術を備へしむ。

入學の期は前學年の終り、即夏季休業中を例規とす。但し冬季休業若くは春季休業間其他臨時に入學を許すことあるべし。

華族女學校

華族女學校は皇后陛下の令旨を奉じて華族の爲めに設けられたる女學校にして、宮内大臣の所轄に屬せり。生徒は生齡六年以上十八年以下の華族の女子にして、品行優良躰質健全にして修學に堪へ得べきものとなす。但士民の女子と雖も適當の者は入校を許す。

教科を分つて小學科、及中學科の二科となす。尚小學科を區分して、初等小學科、高等小學科とし、中學科をも區分して、初等中學科、高等中學科となす。高等中學科の卒業生にして、尚高等の學藝を修めんとするものゝ爲めに專修科を置き、和文、歐語、繪畫、音樂等の或る科を專修せしむべし。



第一高等中學校

高等中學校は實業に就かんと欲する者の爲め、及び帝國大學に入らんと欲する者の爲めに、須要なる教育を施す所なり。而して其學科は本科、豫科の二科となし、本科の課程を二學級に分ち、豫科の課程を三學級に分ち、一學年を以て一學級を終るものとす。

本科の學科を區分して、之を一部二部三部となし、各生徒をして其一を修むることを得べからしむ。

文科の志望者には、本科一部の學科を授け、二學年を以て卒業せしむ。本科一部の第一年課程は、國文、漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、數學、哲學、地質學及鑛物學、物理學、體操の十科にして、第二年には此外に化學、天文學、理財學、及び羅甸語の諸科を課す。國文、漢文、外國語、及羅甸語は文學上最も須要なる科目なれば、毎週二十九時間の內過半を之れが教授に費し、物理、化學、地質、鑛物、天文、數學等の各學科も直接間接に文學に關係多き者なれば、毎週多きは七時間を課し又少くも三時間に下らず。歷史は希臘羅馬史より獨佛英の各國史に亘り、理財學は總論及生財配財等の大意を課し、哲學の科は論理及び心理の大要を教授せり。

工科理科の志望生には、本科二部の學科を授け、各二學年を以て卒業せしむ。本科二部の第一年課程は、第一外國語、第二外國語、數學、地質及鑛物學、物理學、化學、天文學、測量、圖畫、躰操の十科にして第二年には工學理學各其課程を異にせり。第一、第二外國語は理學に直接の關係はなけれど、尙理學を修むる爲めに最も須要の科目なれば、毎週三十時間の內凡そ九時間を之に課せり。物理學は物性、力學、靜エレキ學、熱學、音響學、及光學の大要に涉り、化學は無機化學の總論、各論、及び理論の梗概を授く。天文學は高等なる理科の一なれば此級にては固より其一斑に止れども、鑛物學にては鑛物の形象性質の大要に涉り、地質學にては地勢巖石地殼地質沿革に及び、數學にては解析幾何方程式論の梗概を授け、測量にては測器調製方及使用法、實測製圖、墨色地誌畫の餘程高尙なる所迄課せり。

本科二部の第二年に於て工學志望生に課する學科は、第一外國語、第二外國語、數學、物理學、化學、力學、測量、圖畫の八科にして、理學志望生に課する學科は第一外國語、第二外國語、羅甸語、數學、哲學、羅甸語、測量を課すると課せざるとにの十科なり。されば其互に異なる所は哲學、羅甸語、測量を課せざるとに過ぎずして、成科の課業時間に幾分の伸縮增加あるに過ぎず。毎週課業は、工學生三十二時間に渉り、理學生は二十九時間に止れり。數學の科は双方共に微分、立躰解析幾何、積分學の高尚なる所に至り、物理學は光學、エレキ、マグネ學の實地演習等餘程面白き所に進み、化學は無機化學の實地演習、有機化學の總論各論、定性分析の高所に昇り、工學に於ての測量は高低測量、實測演習、着色地誌畫、圖畫は圖法幾何、陰影法、遠近法、器械畫等の精妙にして實用多き所に入るべし。

醫學の志望生には、本科三部の學科を授け、是亦二學年を以て卒業せしむ。本科三部の第一年課程は、第一外國語、第二外國語、羅甸語、數學、動物及植物學、地質及鑛物學、物理學、化學、體操の十科にして、第二年には外國語、物理學、化學、等前年の續き、及人躰解剖學を課す。人躰解剖學は骨論、靱帶論、及筋論等を授け、動物は比較解剖學、植物は隱花植物及藥用植物學に進み、地質、鑛物學、物理學は本科二部と程度を同ふし、數學の科は漸く解析幾何に止れども、化學に至つては醫科上殊に關係多き學科なれは無機、有機の總論、各論、理論、動物性化合物論より生理化學、定性分析、定量分析迄最も高尚なる所に達せり。

本科に入學を望む者は、生徒新募の際、學力試業、躰格檢査を受くるを要し、而して試驗に合格の時は固より學力相當の級に編入せらるべけれど、殊に當校は募集試驗の最も八釜しき學校なれば、先づ大抵の志願者は當校豫科に入學して本科に進むを例とせり。豫科の學科は、倫理、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、地理、歴史、數學、博物、物理、化學、圖畫、唱歌、躰操等稍高尚ある普通學なれは、之に入學なさんこと固より容易あるが如しと雖も、夫れすら試驗に合格の者甚だ稀れある有樣あれば入學志願者は預め充分の覺悟なかるべからず。尤も入學試驗科目は、左程六ケ敷くも見へざれども、何に致せ受驗者の非常に夥しき所よりして首尾能く試驗を完うして撰拔を受くること容易にあらず。毎年受驗者の總數は何時も千餘人の上に達し、其中よりして二百人以内の生徒を募る事ゆゑ、首尾能く合格し得る者は餘程の仕合せありと謂ふべし。

されば本校の生徒募集は、寧ろ募集と言はんよりも撰拔と謂ふべき有樣にして、其撰拔の方法は先づ夥しき志願者の事ゆゑ、第一試驗には外國語及數學の中に於て稍面倒なる歐文和譯、和文歐譯、代數、及算術等の學科を試み、其成績を見て何分に

も見込なき者を振り落し、第二試驗には倫理、和漢文、作文、地理、歴史等の外、數學、外國語の殘りを試み、是にて覺束なき者は先づ大抵にして片を附け、第三試驗には物理、化學、博物、寫字、圖畫、躰操等前回試驗の餘りを試み、是にて學力の試業を畢れば、更に躰格檢査をなして募集の定員丈を撰拔するなり。

斯かる撰拔の方法なれば、試驗應募者は大抵は府下の私立學校に於て充分受驗科を勉强して、其上募集に應ずる事なり。其受驗科の學校の中にて、最も多く合格者を出す學校は數ある中に、先づ東京英語學校、共立學校、成立學舍、獨逸語學校、錦城學校等を以て最も有名なる者とすべし。十六七歳にも及べる者は直に出京して二三年例の受驗科を蒔と勉强し、扨血眼になつて試驗に應ずれば合格する者もあるべけれど夫れすら二三度の失敗は免れがたしとの事なれば、十二三歳の者にありては寧ろ上京を思ひ止りて地方の尋常中學に入つて卒業の上出京するを却て捷徑なりと思へり。第一高等中學校設置區域内に於ける尋常中學校の卒業生にして、該學校長の品行方正、學力優等、身躰壯健と認めたる者は試業を須ひずして相當の級に編入せらるゝを得るなり。又他の高等中學校設置區域内の者と雖も一旦其地方の高等中學に入り、尚ほ東京へ轉學の志しある者は試業を須ひず其原級へ編入せらるゝ成規もあるなれば、其方が却て心易き事なりと思へり。斯く言ふ所以は生先長き地方の少年が、否寧ろ地方の幼年者が年々と際限もなく上京し、彼の年長の競爭者と募集を爭ふては振り落され、滯京五六年其間碌々普通の教育も受けずして不良の習慣に陷れば なり。地方の篤實なる氣風を失ひ早く輕薄なる都會風に染みて、不幸の生涯を導けばなり。

然しながら這は是れ地方の年稚なき同胞に向つて輕學を誡めたる迄の事なり。其年齡も稍長じ學力資格二つながら負けぬ氣の强き少年諸子は、隨分新鮮の鋭氣を皷して競爭場裡に討つて出で、年頃數回の落第に殆んど顔色なき書生原を一擧に出し抜くも面白かるべし。千有餘人の志願者の中にて獨り抜擢の榮を受くるは隨分愉快なる事なれば募集に應ぜらるゝも宜しけれど、夫れには平生より入學の手續殘りなく心得居りて萬事手ぬかりなく支度あるべし。

入學の期は毎年一度學年始業の前にして、大抵七月中にある事なり。又時としては九月となりて再び補缺生を募る事あり。

入學を許すべき者の年齡は、豫科第三級に於ては滿十四年以上とし、第二級に於ては滿十五年以上とす。其餘は之に準じて知るべし。

設置區域内に於ける尋常中學校卒業生の中よりして採用したる者の數、生徒定員に滿たざる時は試業を須ひて其補缺員を毎年募集する事なり。

試業を須ひ入學せしむる者、豫科第三級に入學せんとする時は、尋常中學校第二年級以下の學科程度に據りて學力試業を施し兼て躰格檢査を行ふべし。試業を須ひ入學せしむる者、本科若くは豫科第二級以上に入學せんとする時は、先づ豫科第三級に入るべき學力試業及躰格檢査を施し、尋で其入らんと欲する級に次ぐ所の各級の諸課目試業を施すべし。

豫科第三級の入學試驗は大抵左の學科程度に據るべし。

倫　理。　人倫道德の要旨。
和漢文。　講讀、作文(漢字交り文)、書取。
外國語。　講讀、會話、歐文和譯、和文歐譯。
地　理。　日本、亞細亞、歐羅巴。
歷　史。　日本歷史、萬國歷史。
數　學。　算術全躰、代數(一次方程式迄)、幾何(平面幾何)、
博　物。　物理、化學、動物學、植物學、金石學等の初步。
圖　畫。　初步。
習　字。　楷行草。
體　操。　普通體操、若くは兵式體操の內。

入學試業を受けんとする者は、試驗料として左の金額を納むべし。
但試業期限三日前迄に入學願の取消を乞ふ者には其試驗料を返還す。

豫科第三級入學志願者　金壹圓。
同　第二級同　同貳圓。
同　第一級同　同三圓。
本科第一年級同　同四圓。
同　第二年級同　同五圓。

入學を願ふ者は入學願書及學業履歷書を差出すべく、入學の許可を得たる者は正副保證人連署の上在學證書を差出すべし。但し正副保證人は、左の各項の資格を有し、生徒の身分に關し一切の事を引受くるに足るべき者に限る。

第一項。　丁年以上の男子にして、生徒より五年以上の長者たること。
第二項。　東京市內に於て一家計を立て相當の地位に在る者たること。
但し副保證人は東京府下郡部に住居する者たるも許可を得る時は差閊なし。
第三項。　生徒の親戚なるか、又は父兄の朋友なるか、若くは同鄕者等にして、其身上に干涉し得べき關係ある者たること。

入學願書、學業履歷書、及在學證書式は左に掲載する所の如し。他の諸官立學校

より私立學校に至る迄、各入學願書以下を要する事あれども一々は掲げず。書式ある者は當該學校に就て其雛形を求むべく、書式なきは左に記載の所に準據して認むべし。

入學願書　用紙美濃紙

私儀今般御校本科何部第何年級豫科（英佛獨）第何級へ入學志願ニ付御試業ノ上御許可被成下度仍テ別紙履歷書並ニ左記ノ試驗料相添へ此段相願候也

一金何圓　試驗料

年　月　日　本籍族（戸主ナラザレバ某何男或ハ弟等）何　某　印

何年何月生

宿所東京府何區郡何町村何番地

第一高等中學校長何某殿

履歷書　用紙美濃紙

學業

一何年何月ヨリ何年何月マデ幾年間何地（官公私）立何學校ニ入リ又ハ何某ニ就キ何學修業其卒業セシ等級及用書何々

褒賞

一何年何月何所ニ於テ何事ニ付賞ヲ受クル事

右之通有之候也

年　月　日　本籍族（戸主ナラザレバ某何男或ハ弟等）何　某　印

何年何月生

證券印紙貼用　在學證書　用紙美濃紙

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守リ猥リニ轉學退學等仕間敷候依テ證書如斯候也

年　月　日　本籍族（戸主ナラザレバ某何男或ハ弟等）何　某　印

何年何月生

宿所東京府何區郡町村何番地

第一高等中學校長何某殿

前文何某在學中ニ係ル事項ハ同人御校ノ學籍ヲ脫シ候後タリトモ拙者共一切引

受可申候依テ保證如此候也

但保證人ニ關スル御校ノ規則ハ總テ承認致候

本籍族職業(或ハ職務)
生徒ニ對スル關係

保證人　何　某　印
何年何月生

宿所東京府何區何町何番地

年　月　日

本籍族職業(或ハ職務)
生徒ニ對スル關係

副保證人　何　某　印
何年何月生

宿所東京府何區郡何町村何番地

前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ本區内ニ於テ一家計ヲ立ル者ニ相違無之候也

年　月　日　　何區役所　印

前書副保證人何某ハ丁年以上ニシテ本區郡内ニ於テ(以下同文)

年　月　日　　何區郡役所　印

高等商業學校

高等商業學校は内外商業に關する必須の教育を施し、將來公私の商務を處理經營すべき者、或は商業學校の主幹又は教員となるべき者を養成する所とす。

教科は本科、豫科、及補充科の三科に分かれ、順次補充科より豫科を經て本科に進むべき者とす。修業年限は補充科二年、豫科一年、本科三年にして、通じて六年なり。

本科に在りては商用作文、商用算術、簿記、商品、商業地理、商業歴史、商業要項、經濟、統計、法規、英語、及び佛獨伊支四語の中に於て其一語、實踐、躰操等の諸科を教授し、豫科に於ては書法、作文、數學、簿記、圖畫、物理、化學、速記術、英語、躰操の諸科を授け、補充科に在りては書法、和漢文、作文、數學、地理、歴史、圖畫、物理、化學、英語、躰操の諸科を授く。

入學は、毎學年九月の始めに於て之を許す。但し入學試驗は七月中旬に執行し、試驗合格者の定員に滿たざる時は(本年の如く)更に九月の初旬に於て、再び募集することあり。入學志願者は其年齡補充科凡十四年以下、十六年以上にして、品行端正、身躰强健、左の試驗に合格したるものなるべし。但し學力優等の者は本文年齡の限りにあらず。

補充科第一年入學試驗課目左の如し。

和漢文　訓點、解釋　書法　楷、行、草
作文　公私用文、記事文　算術　全躰
地理　內外國大意　歷史　內外國大意
英語　誦讀、譯解、書取、習字、會話、文法　躰格

豫科入學試驗課目は即ち左の如し。

和漢文　訓點、解釋　書法　楷、行、草
作文　公私用文、記事文　數學　算術(全躰)代數(二次方程式迄)幾何(平面、立躰)
圖畫　自在畫、用器畫　地理　內外國
歷史　內外國　物理　大意
化學　大意　英語　誦讀、譯解、書取、會話、文法、作文、反譯
躰操

補充科一年の入學試驗に合格したるものにして、尙學力餘りあるものは、引續き第二年より順次豫科迄の入學試驗を受くるを得。

入學志願者は入學願書並に履歷書に受驗料金一圓を添へて本校に出すべし。已に入學の許可を得たる者は、其當日より五日以內に證人同道にて入學誓書を更に本校

に出さしむ。

入學の許可を得たる者は、其許可の日より二週日內に本校の制服及制帽を調製し必ず之を着用すべし。

學生、生徒、其課業に要する圖書及器械にして、學校に貯藏する者は借料を收めて貸付することあるべし。學生、生徒は本校の見込に由て寄宿舍內に寄宿せしむることあるべし(補充科及び主計學校生徒を除く)。

授業料は一學年補充科は金十五圓、豫科は金二十圓、本科は金二十五圓にして、每學期の始め其半額づゝを納めしむ。

又本校には附屬主計學校を置き專ら、官廳及銀行會社等の會計事務に關する必須の學術及實務を敎授す。

修業年限は二ヶ年とし、一學年に一學級を修めしむ。學科は和漢文、書法、作文、算術、簿記、經濟、法規、圖畫、速記術、英語、實踐、躰操にして、生徒定員は當分の間二百五十名に限れり。

入學は每年九月に於て之を許し、入學試驗は其七月中旬に於て執行す。入學志願者は年齡滿十七年以上三十年以下にして、左の試驗科目に合格したるものたるべし。但し學力志行共に超異なる者は此年齡の限りにあらず。

和漢文　訓點、解譯　　書法　楷、行、草
作文　公私用文、及記事論說の内　　算術　全部
地理　内外國大意　　歴史　内外國大意
英語　誦讀、譯解、書取、習字、會話、文法　　體操

入學出願手續は都て商業學校に同じ。受驗料、制服、制帽等又商業學校の如し。授業料は一學年金十五圓にして、毎學期の始めに於て其半額づゝを納めしむ。

東京工業學校

東京工業學校は將來工藝教員又は工藝技師職工長工場長たるべき者に須要なる諸般の工藝等を教授する所なり。教授の科目を區分して、化學工藝部、機械工藝部の二部とし、修業年限は各部共に各三ヶ年間とす。

化學工藝部に於て教授する學科は數學(代數、平面幾何、平面三角初歩)、物理學、無機化學、有機化學、圖畫(用器畫、自在畫)、定質分析、英語を以て第一年の課程とし、機械製圖、機械學大意、定量分析、應用化學、色染法、陶器玻璃セメント煉瓦等製造法、應用化學特別講義、工業分析、實修、英語を第二年の課程とし、職工經濟、簿記、實修、英語を第三年の課程とす。

機械工藝部に於て教授する學科は、數學(代數、平面幾何、平面三角初歩)、物理學、無機化學、圖畫(用器畫、自在畫)、原範製造鑄造工具用法、實修、英語を以て第一年の課程とし、數學(平面三角、求積術、曲線法大意)、機械製圖、重學、物質强弱論、鍛工仕上鑢工工具用法、實修、英語を以て第二年の課程とし、製造用諸機械、發動機、應用重學、職工經濟、簿記、實修、英語を第三年の課程とす。

尚各部教室の外に工場を置き、實驗事業を練習せしむる所となせり。即ち現今設くる所は化學工場及又機械工場の二箇所にして、染工場、陶器玻璃工場、製品場等は化學工場に屬し、製圖場、木工場、鑄造場、鍛工場、仕上場、製鑵場等は機械工場に屬し、規模宏大、準備周到、天晴れ有爲の實業家を養成するに適當なる學校たるに耻ぢざるべし。

入學の期は毎學年の始め一回あれども、時宜に依りては第二期の始めに入校を許すことあり。正科へ入學する生徒は年齢滿十七年以上滿二十五年以下たるべく、其受驗科は壹圓にして、試驗科目ハ左の如し。

讀書　漢字交り文　　作文　漢字交り文
算術　四則、分數、小數、比例、百分算　開平、開立　トバンタル氏幾何學譯書第二編終り迄に相當するもの　　代數　一次方程式終迄
平面幾何　　物理學　スチユワアト氏小學物理書の程度に依る

無機化學（ロスコウ氏小學化學書に依る）　英語解釋（英語讀本第二第三の程度に依る）

正科へ入學する生徒は左に掲ぐる學科の內に就て豫め其專修すべき科目を定むべし。即ち化學工藝部にては、色染、陶器玻璃製造、製品等の中に就て、機械工藝部にては、機械製造等に就て、其專修すべき科目を定むべし。

正科生の外當校にては撰科生なる者を置く。撰科生は工業者若くは其子弟にして實業に從事する事一年以上、其年齡は十七歲以上の者にして左の科目の中に付て一課目若くは數課目を撰修することを得。其修業年限は二ヶ年以內にして、本校授業上差支なき時に限り入學を許す。

化學工藝部。

一、色染法聽講。
一、絹、毛、木綿の浸染及捺染實修の內、一項若くは數項。
一、陶器、玻璃、セメント、煉瓦等製造法聽講。
一、陶器、玻璃、セメント、煉瓦等製造實修の內、一項若くは數項。
一、陶器、玻璃、セメント、煉瓦等製造實修の內、一項若くは數項。
一、應用化學。
一、藥品、顏料、ペンキ、ワニス、油、石鹼、脂肪、香油製造、和洋酒及酢釀造、アルコール蒸溜等實修の內、一項若くは數項

機械工藝部。

一、工具用法聽講。
一、物質强弱聽講。
一、製造用諸機械論聽講。
一、發動機論聽講。
一、重學聽講。
一、應用重學聽講。
一、原化製造、鑄造、鍛工、仕上、鏇工、製圖實修の內、一項若くは數項。

正科卒業の後尙其學業を研究せんとする者の爲めに專攻科を設く。其修業年限は二ヶ年以內とし、主として實業に從事せしむ。

授業料は正科生專科生とも一名に付一學期金五圓と定め、每年九月二月の二回に於て各其一學期分を前納せしむ。撰科生の授業料は一ヶ月金壹圓にして每月五日迄に納めしむ。生徒實修用の器品は勿論都て重要の物品は貸付すと雖も、教科用圖書、書學用小道具、及び用紙等は自辨とす。正科生學力優等人物優等にして他生徒の摸範たるべきものは特待生として一學期若くは數學期間の授業料を免除す。

東京商船學校

東京商船學校は航海科機關科の生徒を敎育する所なり。生徒卒業の後は航海科には商船の船長、運轉手、機關科に在ては機關手の業務に從事すべきものとす。

航海科の課程を分つて五級となし、修業年限を五ヶ年となす。其第五級より第四級に至る迄は本校に在て每級六ヶ月以內に左の學科を學ばしめ、其第一級は航海船に乘組み滿三ヶ年間航海の學科を修業せしむ。

第五級、及第四級。　和漢學、英學、數學、運用術、砲術。

第三級、及第二級。　英學、機關學大意、航海術、運用術、砲術。

機關科の課程を分つて四級となし、修業年限を五ヶ年となす。其第四級より第三級に至る迄は本校に在て每級六ヶ月以內に左の學科を學ばしめ、其第二級は機關場に在つて滿三ヶ年間機械製作の實科を修業せしむ。

第四級、及第三級。　和漢學、英學、數學、機關學、製圖、砲術。

生徒は自費又は貸費とす。貸費生卒業の後、貸與金の還附を了るまでは、本校の指令に遵ひ船舶に乘組み、若くは之に關する業務に從事し每月俸給高五分の一以上の金額を以て其貸與金を還納せしむ。

入學の期は每年七月と定む。躰格檢査に合格の者にあらざれば學科試驗を受くるを得ず。入學試驗科目は、大凡左の如し。

英學。　會話、書取、讀方、譯文。

和漢學。　日本外史、文章軌範等、白文訓點。

數學。　算術(分數、比例)、代數(一次方程式迄)、幾何(平面迄)。

作文。　記事文、書簡文。

東京郵便電信學校

東京郵便電信學校は郵便電信に關する必須の敎育を施し、將來郵便電信業務に從事すべき者を養成する所とす。

本校生徒たる者は卒業の後は二箇年間遞信省に奉職するの義務ありとす。

本校に甲乙の二科を置く。甲科に於ては郵便電信政務の理義、及其處務の方法を敎授し、乙科に於ては電氣通信技術、及び郵便電信處務の要項を敎授す。

修業年限は甲乙兩科各二年とす。生徒定員は百五十名あり。

甲科に於て敎授する學科課目は左の如し。

作文、數學、簿記統計、物理化學、英語、佛語、地理、歷史、法律、經濟、交通學、電氣學、實務等。

乙科に於て教授する學科課目は左の如し。

作文、數學、簿記、物理、化學、英語、圖畫、電氣學、電信技術、郵便要領。

學年は九月十一日に始り翌年七月十日に終る。生徒募集は毎年一回學年の終りに於てするものとす。

應募者は左記各項の資格を具ふる者に限る。

一、甲科に於ては十六年以上、乙科に於ては十五年以上の者。

二、體格强健なる者。

三、品行方正なる者。

甲科第一年級に入學せむとする者は、左の入學試驗課目に合格したる者なるを要す。但し尋常中學校の卒業證書を有する者は直に甲科一年級に編入すべし。

英語、和漢文、物理化學、內外國地理、內外國歷史、數學。

乙科第一年級に入學せむとする者は、左の入學試驗科目に合格したる者なるを要す。但尋常中學校第三年級以上に進級の者は試驗を要せずして入學を許す。

和漢文、物理化學、數學、英語。

入學志願者は受驗料として、金壹圓を納むべし。生徒は總て授業料を免ず。

但し課業用の文具及び書藉は貸與し、筆墨紙等は現品を給す。

第三級若くは二級生徒にして學術優等の者へは寄宿料として一箇月金五圓を給することあるべし。第一級生にして實地に就き電信の業務を練習する者へは、一ヶ月金七圓を給すべし。但し學業怠慢の者、若くは品行不良の者、又は引續き六十日以上欠席したる者へは給與を中止し、退校せしむる場合には右寄宿料、筆墨紙料を本人若くは保證人より一切還納せしむべし。

東京美術學校

東京美術學校は繪畫、彫刻、建築、及び圖案の師匠（教員若くは製作に從事あすべき者）を養成するの所とす。本校學科を大別して、普通科、專修科の二科となし、普通科修業年限を二ヶ年とし、專修科各科の年限を各三ヶ年とす。

普通科に於ては、畫格、圖案、造型、幾何畫法、理科數學、歷史、和漢文、透視畫法、美學、美術史等の課目を授く。

專修繪畫科には、古畫臨摸、寫生新案、美術解剖、透視畫法、美學及美術史、歷史及古物學、和漢文、材料及手訣、建築術大意、建築裝飾術、彫刻物彩色法とす。

專修彫刻科ハ古製摸造、寫生、新案、圖案、美術解剖、美學及美術史、歷史及古物學、和漢文、材料及手訣、彫刻彩色法、建築術大意、建築裝飾術とす。

專修圖案科ハ、圖案、寫生及古書臨摸、造型、器物論、材料論、建築術大意、美學、美術史、和漢文、特種工藝圖案、工場實習とす。

專修建築科も亦此學校に於て教授の等なれども、其課程は未だ定まらず、尙專修科の中、一課若くは數課を撰びて學修せんと欲する者は、各級正科生に欠員ある場合に限りて之を許す。

普通科入學試驗科目は、讀書及作文、算術、日本歷史、臨書、圖案又ハ彫刻摸造とす。入學受驗料は壹圓にして、月謝も壹圓宛なりといへり。

東京音樂學校

東京音樂學校は汎く音樂專門の教育を施し、善良なる音樂教員、及び音樂師を養成する所となす。本校の學科は大別して豫科、本科とし、本科を分つて師範部及專修部の二部とす。

豫科は音樂普通の學科を修めしむるものにして、其課目を倫理、唱歌、洋琴、音樂論、文學、英語、躰操及舞蹈とし、一ヶ年間に修業せしむ。

師範部にては音樂教員たるべき學科を修めしめ、其課目を倫理、聲樂、器樂、音樂論、音樂史、文學、英語、教育學、躰操及舞蹈とし、二ヶ年を以て終らしむ、專修部は各科專門の音樂を修めしむるものにして、其課目を倫理、聲樂、器樂、音樂論、音樂史、文學、和聲學、外國語、教育、躰操、舞蹈とし、三ヶ年を以て成業せしむ。

本校生徒たるべき者は滿十四年以上二十年以下にして、入學志願者は左に掲ぐる科目に合格する者たるべし。

躰格　身躰健康

學力　高等小學校卒業以上、若くは之と同等の學力。

唱歌　唱歌集初編卒業以上。

英語　綴字、讀法、文法の類。

入學の期は毎年一回、其學年の始めに於てす。

授業料は一ヶ月金壹圓とし、毎月十五日限り納めしむ。

明治法律學校

明治法律學校は特別認可學校の其一にして神田駿河臺南甲賀町に在り。本校は本邦の法律及び本邦の政治に關する學術を教授し、併せて外國の法律學及び政治學を研究せしむるを以て目的とす。

學科を分つて法律學部、政治學部の二部とおし、各三ヶ年を以て卒業せしむ。

法律學部の科目を學ぐれば左の如し。

第一年科。　法學通論、日本刑法、日本治罪法、民法人事法、日本民法財産法。

第二年科。　日本訴訟法、日本民法財産法、同證據法、日本商法、擬律擬判。

第三年科。　日本民法財産取得法、同債權擔保法、日本商法、帝國憲法、日本行政法、擬律擬判。

政治學部の科目を學ぐれば左の如し。

第一年科。　論理學、理財學、法學通論、日本刑法、民法、人事法、財産法。

第二年科。　史學及日本政治に關する歴史、日本治罪法、財産法、民法、證據法、日本商法。

第三年科。　財産取得法、債權擔保法、日本商法、帝國憲法、財政學、國際公法及私法、行政法。

各特別認可學校に入學し得べき者の資格は、明治二十一年文部省令第三號に依て左の通り規定せられたれば、此校に限らず總て他の認可學校に入らんとするにも一應其心得なかるべからず。即ち其年齡は男十七歳以上にして、尋常中學校卒業の者、若くは左の學力試驗科目に及第したる者に限れり。

國語　假名交り作文　漢文　白文訓點、或は讀讀

地理　内外國　歴史　内外國

外國語　讀讀、作文、會話、飜譯　數學　算術及び代數幾何の初歩

右の科目に據て是迄は各特別認可學校は適宜に入學試驗を行ひ、其間には寛嚴詳畧多少の相違もある事なりしが、本年九月よりは認可生の入學試驗は各校同時に第一高等中學校に於て執行する事となりしといふ。學力の平均を保たしめむが爲め、有名無實なる姑息の試驗を未萌に防がんが爲めなるべし。

又特別認可生たらずして本校教科を履修せんとする者の爲め、更に普通生の法を設く。普通生とは認可規則の制限以外に立つて認可生徒と同じく教授を受くるものにて、入校の際左記の科目丈け試驗を受くれば足れりとす。

國語　片假名交作文　漢文　白文訓點

數學　四則分數、比例

認可生の入學時期は九月一月の二回にして、普通生は毎月一日及び毎月曜日に之を許す。認可生にても普通生にても入校を請ふ者は入校金一圓を納むべし。授業料は通學生毎月一圓、入塾生一圓二十錢、賄料は一ヶ月二圓五十錢の定めなり。

尚此學校には『明治法律學校講法會』なる者を設け、毎土曜日を以て講義錄を發

刊して之を會員に發送す。入會せんとする者は入會金五十錢、會費一ヶ月六十錢を納むるを要す。但し入會前に發兌したる講義錄の配布を望む者は以前の分は一ヶ月四十錢の割を以て拂込むべし。特別會員は會費として一ヶ月五十錢を納め、入會前の講義錄は一ヶ月金三十錢の割合にて發送す。官公私立學校教員生徒及府縣郡區町村役場吏員等は其主長の證明書を以て會員たらんと申込む者は即ち特別會員たることを得。

東京專門學校

東京專門學校は認可學校の其一にして、校舍は牛込早稻田に在り。本校は大隈伯の創立に係り、木造西洋風の建築にして外に寄宿舍も三棟あり。元來都下の學校は市井に近く建てたる者にて、生徒の學習にも衛生上にも極めて喧噪と不潔を免れざる弊害多きものあれども、是に觀るありてか此學校は市外の閑天地に設けたれば、眞に學事に從はむとする學生の爲めには適當の所あり。

學科を分つて、政治科、法律科、及英語科となし、又法律科を司法科及び行政科の二部に分ち、甲を第一法律科とし、乙を第二法律科となす。英語科は此頃迄普通科及豫科、兼修科に止りしが、本年九月よりは此外に新に文學科をも設くるといへば、校運の盛んなるは推して知るべし。

政治科、第一法律科、第二法律科の三科に在りては、各科邦語と英語との二部に分つて之を教授す。其修業年限は各三ヶ年にして、英語普通科及び豫科は修業各二ヶ年なり。

各學科の課程を擧ぐれば、即ち大畧左の如し。

一、政治科邦語課程。政治學、經濟學、財政學、史學、論理學、社會學、心理學、統計學、法學、討論、躰操等。

二、政治科英語課程。政治學、經濟學、財政學、法學、論理學、英語、躰操。

三、第一法律科邦語課程。民法、商法、訴訟法、衡平法、法理學、國際法、憲法、行政法、刑法、治罪法、判決例、擬訟、躰操等。

四、第一法律科英語課程。邦語と同一なれば玆には省きつ。

五、第二法律科邦語課程。民法、商法、經濟學、財政學、論理學、國際法、行政學、憲法、行政法、刑法、治罪法、擬訟、史學、統計學、躰操等。

六、第二法律科英語課程。邦語課程より統計學及史學を除く。

此外には尙英語兼修科の設けありて、語學、文法、譯讀を授け、政治科、法律科の邦語科生徒をして之を兼修するを得しむ。英語普通科は兼修科の課目に和漢學を

加へたるものにて、豫科は國語、漢文、英語、數學、地理、歴史、理化學を授く。

何れの科を問はず入學の節は、先づ束脩として金壹圓を納めしむ。學費、即ち他の校舍にて所謂授業料は九月廿日に前學期分（九月十日より翌年二月廿日まで）金拾圓、三月十三日に後學期分（三月一日より七月廿日まで）金九圓を前納せしむ。但し學期の始めに於て前納すること能はざる者は、毎月一圓八十錢づゝ分納するを得るものなり。又豫科生には前期に六圓、後期に五圓を前納せしむ。前納する事能はざる者には毎月一圓づゝ分納せしむ。

入學試驗の執行は、毎年七月、九月、及二月の三度とし、若し學期の中途にして入學せんとする者あれば、傍聽生として假入學を許す。政治科、第一法律科、第二法律科は認可規則に從ふ者にして、認可生たらんとする者は甲種の試驗を受け、又通常の生徒たらんとする者は乙種の試驗を受るを要す。但し認可生の入校試驗は前に說く如く本年は高等中學にて行ふべしといへば、此校にては甲種科目の試驗、行はぬ事なるべし。

甲種科目。國語、漢文、外國語、地理、歴史、及び數學（算術、代數、幾何）。

乙種科目。國語（漢字交り作文）、漢文（正文章軌範、日本政記の類講讀）。

又學校以外に在りても此學校の各學科を修學するの便法あり。即ち、『校外生』と名くるものにて、毎週本校より頒つ所の講義錄に依て修學し、其理解し難き所は郵便を以て幾度にても質義し得るの便利もあれば、地方僻遠の者に在りては利益する所尠からず。講義錄は第一年級より始めて滿三年にて卒業に至る。講義錄を分つて三種とし政治科講義錄、司法科講義錄、行政科講義錄と稱するものにて、毎冊紙數六十頁以上とす。校外生たらむとする者は一學科入學金五十錢を納むべし。一學科に付毎月費金三十六錢ありとす。

東京法學院

東京法學院は、元英吉利法律學校と稱へ、神田錦町二町目にあり、建築宏壯を以て鳴るものあり。又此學校は教員の勉强と生徒の衆多を以て聞へ高く、認可學校の中に於ても先づ葉振りのよき方にて近來は校運日に月に盛大となれり。

本校は帝國法律の實地應用を練習せしむるを目的とし、本邦制定の法律を教授するの外廣く法理に通達する爲め、邦語又は英語を以て法律學を講述せり。

學科を分つて、英語法學科、邦語法學科の二科と爲し、修業年限は各三ヶ年間とす。

英語法學科は法學通論、民法、商法、刑法、治罪法、訴訟法、訴訟演習、論理學、擬訟、衡平法、國際法、法理學、憲法、行政法の諸科となし、邦語法學科は此外に

羅馬法、判決例、憲法判決例の三課を加ふ。

特別認可生たらずして入學せんと欲する者は、年齢十七歳以上にして左の試驗科目に合格の者に限る。但し英語法學科に入らんとする者は、右の外英語を試みらるとの事なり。入學試驗は、毎年七月、九月、二月の三度に行ふ。

國語○假名交り作文　漢文○讀讀　數學○四則、分數、比例

束脩は金一圓とし、授業料は一學年金十一圓となす。但し前納し得ざる者は毎月一圓づゝ月割を以て之を分納することを得。

當法學院にても亦講義錄を發刊す。講義錄は第一年級講義錄、第二年級講義錄、第三年級講義錄の三種にして、一は毎週月曜日、一は毎週水曜日、一は毎金曜日に發刊す。『在外』生の學年は毎年十月より始まり翌年九月を以て終る。其束脩は金五十錢、月謝は金五十錢にして毎週講義錄(紙數九十頁以上)を配送す。尚入校前の講義錄を購求せんとする者には一冊金十錢の割を以て一ヶ月以上は拂下ぐべし。

專修學校

專修學校は邦語を以て法律、理財、政治學を敎ふる認可學校にして、校舍は神田今川小路に在り。

學科を分つて、法律、理財、政治の三科とし、又理財科を二部に分ち、法律科及理財科の甲部は特別認可とす。修業年限は各科三ヶ年にして、一學年を以て一學級とす。

各學科の課目を擧ぐれば左の如し。

一、法律科。法學通論、民法、商法、刑法、治罪法、訴訟法、政治學、行政學、法理學、國際法、平等法、擬訟等。

二、理財科甲部　經濟學、財政學、史學、法學通論、商法、政治學、統計學、行政學、商業史、簿記學等。

三、理財科乙部。經濟學。財政學。史學。商業史、世態學、政治學、統計學、行政學、簿記學等。

四、政治科。法學通論、政治學、史學、經濟學、論理學、世態學、法理學、統計學等。

入學の期は毎年九月とす。束脩は金一圓、月謝は一科專修の者は金八十錢、二科兼修の者は金一圓二十錢、理財學中の甲乙兩部兼修の者は金八十錢とす。

講義筆記は法律、經濟、政治學の三科とす。筆記を分つて第一年級講義筆記、第二年級講義筆記、第三年級講義筆記の三種とし、毎級毎週一回發兌、紙數六十頁內

外とす。『校外生』には講義筆記を頒つ。入校金五十錢、月謝は一科專修の者金五十錢、二科兼修の者金九十錢、三科兼修の者金一圓三十錢とす。又入校前の講義錄は其殘餘のありし時は一冊十錢にて賣渡すべし。

獨逸學協會學校

獨逸學協會學校は其名の如く獨逸語を以て普通學及政法科を授くる所にして、神田西小川町に建設せり。

學科を分つて、普通科及專修科の二科となし、修業年期は、普通科五年、專修科三年の課程となす。

普通科は、將來獨逸語を以て高等の學科を修めんとする者に授くる所にして、獨逸語學、英語學、羅甸語學、地理、歷史、化學、數學、代數、幾何、三角法、博物、物理學、倫理、國語、漢文、圖畫等の課目を授く。

專修科は、法律及政治學を修めむとする者に授くる所にして、其科目は民法、刑法、羅馬法、法理學及法學通論、訴訟法、治罪法、商法及爲換法、國家學、憲法、行政學、國際法、經濟學、理財學、日本古代法制論、擬律擬判、躰操とす。

普通科第四年の課程を卒へたる者は志願に依り專修科に入ることを得。普通科に入ることを得る者は、年齡十四年以上にして高等科小學校卒業の者、若くは之と同等の學力あるものにして獨逸學初步を修め、且つ身躰壯健にして入學試驗に合格の者とす。又獨逸語を修めし者にて普通科第四年以上の學力ある者は、直に專修科に入ることを得べく、又年齡十七歲以上の者ならば專修科に入り特別認可生となることも得べし。

入學の期は毎年九月一回なりと雖も、志願者は臨時に入學することを得。束脩は金壹圓にして、授業料は一ヶ月金一圓五十錢とす。

和佛法律學校

和佛法律學校は佛語及び邦語を以て法律學を授くる所にして、九段富士見町に新築の校舍は近頃開校の式も濟み校運勃興の勢あり。

佛語を以て敎授するものを佛語法律科と稱し、邦語を以て敎授するものを邦語法律科と稱し、共に修業三ヶ年にして左の課程を終らしむ。

一、法學通論、民法、訴訟法、商法、刑法、治罪法、憲法、行政法、國際法、理財學、擬律擬判、躰操等。

佛語學者又は本校の法律科に入らんとする者を養成せんが爲め、別に普通科を設

け、修業三ヶ年にして左の課程を修めしむ。

一、修身、國語、漢文、佛語、地理、歷史、數學、躰操等。

年齡十四歲以上にして高等小學校卒業生と均しき學力ある者は普通科に入るを得しめ、他の認可學校の生徒にして更に本校に入學する時は學力相當の級に編入し、認可生にあらずして本校所定の法律科を修めんと欲する者は專修科生として入學を許す。其の入學試驗科目は、即ち左の如し。

一、國語。（假名交り作文）　漢文。（講讀、或は辨書）　數學。（四則、分數、比例）

入學の期は、毎年九月一回とす。但し專修科生の入學は毎月之を許すべし。

束脩は金一圓、授業料は佛語邦語各法律科共に一ヶ月金一圓、二科兼修の者は一ヶ月一圓五十錢を要すると謂へり。

校外生の爲めに講義錄を發刊することは、尙他の認可學校の例に同じ。

慶應義塾

本塾は我邦私立學校の巨擘と稱すべき者にして、其基礎固く、其施設廣く、實に福澤諭吉翁が慶應年間に於て創設したる最も年舊るき學校なり。

校舍は三田の高臺に建設したる煉瓦屋にして、近く品川の大灣に臨み眺望最も佳絕なり。生徒の塾舍は大人寮、童子寮、及び幼稚舍あど一切の施設至らざるなく、近來に至り本塾の中に復た大學部の創立ありて校運益々盛大なり。

慶應義塾大學部は本塾卒業生若くは又有志の學生より高等なる學科を敎授する所として、修業年限を文學科、理財學科、法律科共、各三ヶ年間とす。

本塾より在りては敎授の學科を正科と別科との二に分つ。又正科を分つて、豫科と本科との二つとなし、豫科終りて後本科より入らしむ。

正科の修學年限を凡五ヶ年として、其課程大畧左の如し。

學級＼課程	英書讀	數學	漢書
豫科 四番	地質學 動物學 口授	萬國史（パーレー氏）輪講	算術（ロビンソン）書	漢書講義
豫科 三番	植物學 物理學 口授	米國史（カッケンボス氏）輪講	算術（ロビンソン）書	漢書講義
本科 二番	物理學 化學 口授	英國史（マルカム氏）輪講	簿記學 代數（トッドハンター）學	漢書講義
本科 一番	化學 生理學 口授	萬國史（チトレル氏）輪講	代數（トッドハンター）學	漢書講義

本科				
四等	經濟學講義	文明史輪講（ギゾー氏）	代數學（トッドハンター）	和文作文
三等	法律學講義	マツカウレー氏ヘスチング傳 スペンサー氏チーパレ ザスレーション輪講	平面幾何學（トッドハンター）	和文作文
二等	萬國公法論理學講義	自由之理輪講（ミル氏）	平面幾何學（ウヰルソン）	和文作文
一等	心理學哲學講義	代議政體輪講（ミル氏）	平面三角術（ウヰルソン コニックセクション トッドハンター）	和文作文
			平面三角術（トッドハンター）	
			球面三角術（トッドハンター）	

別科の修業年限は凡四ヶ年にして、其課程大畧左の如し。但し別科は晩學者の爲めに設けたる者なれば、何等の事情ありとも滿十八年以下の者は此科に入ることを許さずとの事なり。

學級／課程	英書譯讀	譯
六級	萬國史講義	豫科二三四番講義	文法書輪講	用書講義本

別科				
五級	地文學講義（コルチル） 近世史講義（チャンバー）	豫科一二三番講義	合衆國史輪講	同上
四級	教育論講義（スペンサー氏）	豫科一二番 本科四等講義	佛國史輪講	同上
三級	經濟論講義（ポーエン氏）	豫科一番 本科三四番講義	マツコーレー氏クライヴ傳 ジョンソン氏ラセラス傳 輪講	同上
二級	道法原理講義（ペンザム）	本科二三四等講義	メセウ氏ヒシツクエンド ホリチツク スペンサー氏代議政体 輪講	同上
一級	社會學講義（スペンサー氏）	本科一二三等講義	マツコーレー氏評ハラム憲法史輪講 ミル氏利學論	同上

入社する者は、東京又は横濱住居にて本人の身上に事故ある毎に執事の掛合を請合ふべき者を證人となし、塾監局の許可を得て入社すべし。入社は別に日を定めず、午前八時より午後二時迄に申込むべし。

入社の時は入社金三圓を塾監局に納むべし。入社する後も、通學すると入塾するとは本人の自由たる事勿論あり。入塾する者は塾監局へ申込み、執事の許諾を

得べし。　通學の生徒は其宿所を塾監局へ屆け置くべし。

受敎料は毎月一圓七十五錢づゝ前月の末に納むべし。　塾費は毎月內塾生即ち寄宿生は貳拾五錢、通學生は十錢づゝ前月の末に納むべし。　寄宿生の月俸は物價の高低に從つて定りなけれど、大凡二圓五十錢乃至三圓が通例なるよし。

課業書を借用するものは、其損料として毎月金十錢を納めしむ、又他の書籍借用の者には其大小部數に從ひ至當の損料を納めしむ。

塾、即ち寄宿舍を大人、童子の二寮に分つ。塾中の規則は嚴密にして、起臥、睡眠、外出迄夫々制限のある事なり。　殊に童子寮は其監督周到にして親切なれば、遠國の父兄は安心して子弟を預くる事を得べし。生徒少年にして理財に慣れず、又は丁年前後なるも浪費の恐れある者は、父兄又は引請人より一箇月分或は又半年一年分にても其都合に依り本人の學資は塾監局へ願ひ、塾監局にては父兄より依賴に依ては毎月の月俸、受敎料、雜費一切何程と大抵其高を見計らひ、生徒の要求に應じて其都度々々隨時適宜に渡すべし。

又童子の幼くして自身の用便を達する事能はざる者の爲めに幼稚舍を設け、眠食共に婦人の手にて扱ふよしなれば都合よき事なり。　始めて入舍する者は年齡凡八歲以上十三年迄を限りとす。　入舍する者は着換、夜具蒲團、體操着の外、手道具は成る丈持たしむべからず。　椅子、テーブル、火鉢、ランプ、食器、蚊帳などは本塾に一々備付あるものあれば、持參に及ばぬとの事なり。

幼年生の一箇月學資は大抵左の如し。　但し始めて入社の時は入社金として、金三圓本塾へ納め、塾舍に入る時は道具金として壹圓五十錢納むるを要す。

受敎料	月々前納なり。
塾費	金二圓十錢
書籍料	毎月末拂なり。賄料、其他菓子、油炭、筆紙墨類、洗濯入湯常用下駄草履等の費、
月俸	金六圓
雜費	

幼年生に授くる課業は、大凡左の如し。

學級	課程	英書	譯讀	數學	讀書
幼 六級		プライメル（カイルソン）			
		第一リードル（ニウナショナル）		算術	小學科
幼 五級		第二リードル（ニウナショナル）			
		第三リードル（同）		同上	小學科 漢書

稚					
四級	第三リードル（ニワナシヨナル）	地理學（モーレー）	同上	文典（ピ子チ）	漢書
三級	小米國史（カツケンボス） 英國史（ランカストル）	生理書（モンチースポピユラルサイエンス カツトル）	同上	同上	同上
二級	佛國史（メルンス）	地文學（モンチース）	算術代數	同上	同上
一級	萬國史（スヰントン）	物理學（ガイー）	代數	同上	同上

右表中記載せざれども、正科、幼稚科とも英語の課業はスペルリング、ペンマンシップ、リーシング、シクテーション、コンペルセーション、コンポジーション等尙澤山にあることなるべし。　其他幼稚科には普通作文、書牘、畫學等每週一回、習字體操は每日あるよし。

攻玉社

當攻玉社數學の敎授も亦府下に於て名聲盛なりし舊校の一にして嘗て近藤眞琴翁の創設に係り、尙數學の敎授を以て今に一方に雄視せり。

學科を大別して、普通科及專修科とし、更に之を小別して專修科には數學、土木、商船の三科を置き、普通科には豫科、本科、高等科、及び女生豫科、女生本科の五科を置き、又生徒の年齡に應じて幼年生、靑年生の區別を立つ。

數學專修科にては一ヶ年にて即ち豫科を卒らしめ、三ヶ年にて本科を卒らしむ。土木專修科にては豫科本科共に二ヶ年を以て成業せしむ。

土木學の學科は數學、土木學、測量學、圖畫、製圖、英語の諸科にして、數學科の學科は數學（全躰）、及英語、簿記等なり。尙普通科の高等科にては修身、和漢文、第一外國語（英語）、第二外國語（獨佛の中、其一）數學、理學、圖畫、躰操の諸科を授け、幼年科、靑年科等其課目甚だ多ければ玆には畧す。

普通學幼年科に入る者は尋常小學校卒業以上の學力を有する者たるべし。入學定日は一の日とす。學費は入社金三圓、月謝壹圓貳十錢、敎場費一ヶ月十五錢、寄宿生は一ヶ月三圓乃至二圓五十錢の食料を納むべしとの事あり。

東京文學院

東京文學院は、哲學及び政學を講授するを以て目的とす。

修業年限は哲學政學各三ヶ年にして、學科課程の要領を玆に掲ること左の如し。

哲學科政學科　第一年。倫理、和漢文、英文學及作文、史學（西洋史、東洋史）、理學一斑、法學通論、心理學、論理學。

哲學科第二年。倫理、和漢文、英文學、史學、東洋文學、西洋哲學（哲學原理）、社會學。

哲學科第三年。倫理、和漢文、東洋文學、西洋哲學（哲學史）、教育學並教育史。

政學科第二年。倫理、和漢文、英文學、史學、統計學、理財學、國家學。

政學科第三年。倫理、和漢文、史學、日本古今法制論、日本財政論、國法學、國際公法。

學年は九月一日に始り、翌年七月三十日に終る。毎日授業時間は午後五時より同八時迄の間とす。學生定員は三百名なり。

入學志願者は年齢滿十五年以上たるべし。入學試驗科目は左の如し。

國語及漢文　講讀（漢文）作文（假名交り文）　英語學　會話、譯解、作文、飜譯。

地理　日本及萬國地理の要領。　歷史　日本及萬國歷史要領。

數學　算術、代數、幾何、初步。

學費は束脩金壹圓、授業料一ヶ月金壹圓を前納せしむ。

本院哲學科又は政學科課程中、一課目又は數課目を選んで專修せんと欲する者は、撰科生として之を許可す。

地方遠隔の者、又は業務の爲め參院して親しく講義を聽くことを得ざる者の爲めに、在外生の制を設け、講義錄を印刷して之を頒つ。講義錄は毎月二回之を發兌し、修業年限は三ヶ年とす。在外生は入學の際束脩として金五十錢、毎月月謝三十錢を必ず前納するものとす。

哲學館

哲學館は邦語を以て哲學諸科を教授する所にして、教授は各科專門の學士の擔當する所なり。

學科は論理學、心理學、倫理學、審美學、社會學、宗教學、教育學、政理及法理學、政治學、經濟學、純正哲學、東洋諸學等の諸科にして、脩業年限は三ヶ年とす。

本館學費は束脩として金壹圓五十錢、月謝金八十錢、教塲費十錢、講義錄を購讀する者は其外に毎月三十錢を納むるを要す。

又本館に通學する能はざるものゝ便利を圖り、毎月三回講義錄を印刷して之を頒

つ。購讀者たらんとする者は束脩五十錢、月謝金三十錢を送るを要す。講義錄中に難問ありて疑義に苦しむものあれば、通信を以て質すことを得べし。

東京物理學校

東京物理學校は理學の普及を助けんが爲め數學、重學、測量學、物理學、化學を敎ふる所とす。分科大學に入らずして理科を專攻せんとせば、此學校を外にしては他に適當の者なかるべし。

學科は算術、代數、幾何、三角法、物理學、化學、重學、測量學とす。修業年限は二ヶ年とし、之を分つて四學期とあす。授業時間は每學科凡一時三十分とし、每夕二科を修めしむ。學費は入校金一圓とし、授業料は第一學期は金三圓、第二學期は金四圓、第三四學期は金六圓とし月割にして納めしむ。

本科生の外、理化學科、數學科の中一科を撰びて之を專修する者を撰科生徒といひ。官立東京工業學校へ入學せんと欲する者に受驗科目を授くる者を特別科生といふ。特別科の修學年限は一ヶ年にして、學科を算術、代數、幾何、物理、化學、英語の數科とし、授業料は一ヶ月金壹圓を納めしむ。

工手學校

工手學校は邦語を以て工業、製造に關する學科を最も迅速に敎授して、工手を養成する所あり。工業學校に入らずして工藝一と通りを學ばんとする者には此種類の學校か極めて適切なる者あるべし。

修學年限は一ヶ年半にして、五ヶ月を以て一學期を卒り、都合三學期にて卒業す。學科を分つて豫科本科とし、豫科に在りては算術、代數、幾何、三角術、製圖、羅馬字、物理學初步、舍密學初步等總て本科を修むるに最も必要なる學科を授け、本科に在りては土木、機械、電工、造家、造船、採鑛、冶金、製造、舍密等の學科を敎授するものとす。

生徒を分つて正科生、及別科生の二つとす。正科生とは第一學期に豫科を修め、第二學期より本科に入つて全く卒業する者をいひ、別科生とは本科の中の一科若くは數科を撰で之を修むる者をいふ。

斯く僅少の時日を以て最も迅速に專門の技術を修むる事あれば、其前數學其外に多少の豫習あかるべからず。而して豫科の入學試驗は加減乘除、分數、小數、比例漢字交りの作文にて、本科の入學試驗には平算、代數、幾何、三角術、製圖、羅馬字、物理學初步、舍密學初步等の科目なり。

學費は試驗料として豫科は金一圓、本科二圓、授業料は一ヶ月豫科は金一圓、本科は一圓五十錢、校費は各一ヶ月三十五錢を納むるを要す。

東京商業學校

東京商業學校は速成の目的を以て內外商業上必須缺くべからざる敎育を授け、將來商業に從事すべき者を養成する所とす。高等商業學校に入學せずして商業上の知識を得んとする者には、極めて適當なる所なるべし。

學科を分つて豫科、本科、及研究科の三とおす。豫科に於ては和漢文、英語、算術、速記法、地理、歷史、物理、化學、植物、動物、經濟學、作文、習字、圖畫を授け、一ヶ年を以て卒らしむ。本科に在りては、經濟學、商業地理、農工商業誌、商品研究、簿記、速記法、珠算、數學、和漢文、英語、作文、商業實習、商業道德、現行法律、統計學等を授け二ヶ年にして卒業せしむ。又本科を卒るの後尙引續き高等の學科を修めんとする者は、凡一年間研究科に入らしめ、經濟科、商業實習、法律、農工商業誌、商品研究、統計學等の諸學を究めしむ。

入學者は年齡十四年以上にして高等小學校卒業以上の學力ある者に限るべし。學費は束脩金一圓、授業料一ヶ月八十錢、校費貳十錢を納めしむ。

尙本校には特別に速成科なる一科を置き、商家の子弟にして晝間は就學し難き者の爲めに最も簡易なる學科を授く。修業年限は一ヶ年にして、英語、和漢文、算術、簿記、修身、商業、地理、歷史、理學に關する有益なる講義、商用文章、商用語、商用會話等を授くるといへば、商家の丁稚には誂へ向の商業夜學校なるべし。

又此學校より每月三回發行する所の講義錄あり。束脩五十錢、月謝三十錢を納むる時は配附を受くるを得るが故に、東京遊學の便利に乏しき地方僻遠の少年の爲めには最も利益ある事なるべし。

東京醫學院

東京醫學院は醫學一般の要領を授け、專ら實地の醫術を專修せしむる所とす。本院講師は有名なる學士大家にして、內外科及眼科の臨床講義には樫村及び須田の病院と常に氣息を相通じ、其校運は近來に至り益々盛大の勢あれば、醫術の速成を期する者の入つて學ぶには屈强なるべし。

修業年限を三ヶ年とし、學科課程を示す時は大畧左の如し。

第一年課程。物理學、植物學、動物學、無機化學、有機化學、解剖學、組織學、生理學、獨逸語學(又は英語學)。以上前期學科

第二年課程。解剖學實習、生理學、藥物學、病理學及病理解剖、外科病理學、獨逸語學(又は英語學)、診斷學、內科學並に臨床講義、外科學並に臨床講義、眼科學、婦人科學。

第三年課程。內科學並に臨床講義、外科學並に臨床講義、眼科學並に臨床講義、產科婦人科學摸形演習、裁判醫學、衛生學。以上後期學科

學年は十月に始り、翌年九月に終る。又學年を前學期、及後學期の二學期に分ち、入學は每學期の始めに於てす。

學費は入學料金貳圓、授業料一ヶ月金壹圓三十錢とす。授業料は每月廿五日より三十迄に、其翌月分を前納せしむ。

生徒參院の時は洋服又は袴を着くるを常例とし、各自相互の間に於ては專ら敬禮を守らしむ。

濟生學舍

濟生學舍は醫學科の速成を以て其名高く、敎員講師には名望なる學士大家多ければ、晩學、又は初學と雖も成業をいそぐ學生は大抵此校に入學して開業試驗に應ずる事なり。

東京藥學校

東京藥學校は藥劑師を養成するの目的を以て、專ら藥劑學を敎授する所なり。帝國大學に入らずして、普通の藥劑師とならむ者は、此校を措て又外に從學する所なかるべし。

修業年限は三ヶ年にして、學科は物理學、化學、植物學、動物學、解剖學、生理學、組織學、外科通論、病理通論、診斷學、藥物學、外科器械學並に手術學、外科各論、病理各論、眼科學、婦人科、小兒科、衛生學、裁判醫學、臨床講義、實地演習等なりとす。

學費は束脩金貳圓、月謝は壹圓三十錢とす。

國民英學會

修業年限は二ヶ年にして、學科は數學、英語(獨逸語)、植物學、物理學、無機化學、有機化學、製藥化學、調劑學及實地調劑、定性分析、生藥學、定量分析、藥品鑑定、藥局方使用法、實地製煉、生藥學實地演習等ありとす。

入學する者は十七歲以上の男子にして、相當の學力あるを要すべし。學費は入學金貳圓、授業料は一學年金十八圓とおし、月割を以て納めしむ。

國民英學會は主として實用の英語學と高等の英文學を敎へ、兼て歐亞諸邦の言語を敎授する所とす。英文譯讀科を授る所は都下到る處としてあらざるはあけれど、會話を實際に學ばんには本會に優れるはあらざるべし。

學科を分つて本科、高等科、譯讀科、會話實修科、英詩朗吟科、及び別科の六科とす。本科にありては原語を以て專ら英語作文を敎授し、高等科に至ては原語を以て專ら會話、修辭學、及び高尙の文學を敎授し、譯讀科に於ては邦話を以て原意解釋の力を得せしめ。會話實修科にては書籍を用ひず實際に就て英語を敎授し、英詩朗吟科にては音樂の原理に據て英米の詩歌を朗吟する方法を敎へ、別科に在りては獨逸、佛蘭西、其他の國語を授くるを勉む。

修業年限は本科、高等科、會話實修科は一年乃至三年にして成業せしめ、譯讀科は滿三年、英詩朗吟科は修業に固より年月を限り難し。

學費は入會金一圓本科高等科會話科は授業料各金壹圓、譯讀科は六十錢、朗吟科は貳十五錢、別科は二圓にして、此外に毎月敎塲費五錢を要す。

東京英語學校

東京英語學校は主として普通の英語學を敎へ、第一高等中學校並に其他の諸官立學校に入らんと欲する者を敎授する所とす。

本校修業年限は初科等三年高等科一年にして、學科を分つて、英語學、數學、漢文の三科となす。受驗科敎授の學校中、生徒の多きを以て名ある者にて、在學生徒の數常に二千人内外にあり。

新上京者の爲めに、當學校へ入學の適否を決せんとする者の爲めに、他の受驗科の學校と比較を爲さんとする者の爲めに、學科課程及用書を掲載すること左のごとし。

初等科第一年級

前期（第六級）		后期（第五級）	
讀方	ウヰルソン プライマー	讀方	クロッケンボス 小米國史
譯讀	ニュー、ナショナル 第一、二、三讀本	譯讀	敎業社出版 第三讀本
書取	ウヰルソン 第一、二讀本	書取	（譯讀科用書）
讀方	サーゼント、及チャムバー 第二讀本	算術	理學士谷田部梅吉編 簡易平算書
讀方	ロングマン、及スヰントン 第三讀本		
讀方	パーレー 萬國史		

綴字　ウエブスター綴字書
習字　電信局出版習字本
算術　谷田部梅吉編簡易平算書
漢文　蒙求、論語、國史覽要、日本外史、十八史畧、文章軌範

初等科第二年級

前期（第四級）

譯讀　ニュー、ナショナル第四讀本
　　シュエル希臘史
　　スヰントン第四讀本
　　グードリッチ英國史
文法　クワッケンボス小文法書

後期（第三級）

譯讀　グードリッチ英國史
　　グードリッチ羅馬史
　　スヰントン第五讀本
文法　クワッケンボス小文法書
會話　佐藤顯理著實用英語學初步
地理　敬業社出版萬國小地理書
漢文　十八史畧
　　文章軌範

會話　井上省三著英和對譯自在
算術　ロビンソン實用算術書
地理　敬業社出版萬國小地理書
歷史　（口授）
動物　教育社出版動物書
植物　敬業社出版植物書
漢文　蒙求

初等科第三年

前期（第二級）

譯讀　ロングマンス第五讀本
　　スヰントン萬國史
　　マコーレー　クライブ傳
文法　スヰントン小文典

後期（第一級）

算術　ロビンソン實用算術書
地理　敬業社出版萬國小地理書
歷史　（口授）
動物　教育社出版動物書
植物　敬業社出版植物書
漢文　日本政記

譯讀　マコーレー　ヘスチングス傳
　　スヰントン萬國史
　　ユニオン第四讀本
　　スペンサー代議政體

會話	佐藤顯理著 實用英語學初步	
算術	ロビンソン 高等算術書	
代數	スミス 小代數書	
幾何	ウイルソン 幾何書	
地理	ミッチエル ニユープライマーヂオグラフイ	
歷史	（口授）	
物理	スチユワート サイエンス、プライマー	
化學	ロスコー サイエンス、プライマー	
漢文	文章軌範	

高等科

前期（第二級）

讀方	ブリユーダーク シイザー傳	
	ユーニオン 第四讀本	
	マコーレー フレドリック傳	
	マコーレー ピット傳	
	イラストリアス、メン	
法文	スヰントン 大文典	
作文		
算術	上野清著 算術三千題	
代數	スミス 大代數書	
幾何	ショブチー 幾何書	

后期（第一級）

文法	スヰントン 大文典	
會話	ロビンソン 高等算術書	
算術	スミス 小代數書	
代數	ウヰルソン 幾何書	
幾何	（口授）	
歷史	スチユワート サイエンス、プライマー	
化學	圖書學臨本	
圖書	漢文史記傳抄	
漢文	川上廣樹 國語學入門	
國語		

讀方	イラストリアス、メン	
	マコーレー ピット傳	
	マコーレー フレドリック傳	
	セレクト、ウアーク、オブ ワシントン、アーヴィング	
	ユーニオン 第四讀本	
文法	ベイン 小文典	
作文		
算術	上野清著 算術三千題	
代數	スミス 大代數書	
幾何	ショブチー 幾何書	

學年は四月八日より始り翌年四月七日に終る、學年を分つて前後の二期とす。前期は四月八日より十月卅一日に至り、后期は十一月一日より翌年四月七日に至る。

入學志願者ハ何時ヨテモ學業履歴書ヲ携帶シ學力試業ヲ經テ相當ノ級ヨ編入セラルヽコトヲ得。入學ノ許可ヲ得タル者ハ例ノ在學證書ヲ出シ、入校金壹圓ヲ納むべし。授業料ハ一ヶ月金壹圓ヨシテ、前月中幹事局ヘ出シ授業切符ト引換ふべし。授業切符ヲ有せざる者ハ其間停學せらるヽ事なり。

學業進歩著しく且品行端正ヨシテ通常學業の成蹟最も優等なる者ヨハ賞品ヲ授與し、若くハ授業料ヲ免することあり。本校に在學する一學期以上の生徒ヨシテ品行方正、學業優等ヨシテ後來に望みあり、而も學資を自辨する能はざる者ヨシテ給費生たらんと願出る時ハ其情狀ヨ依リ學資の全額若くハ其一部分を給することあり。

尙此外ヨ英學志願者ヨシテ晝間修業の餘暇あき者の爲めヨ夜學科を設く。學科を分ツテ英學、數學、會話の三科とす。修業年限ハ初等科二年、高等科一年ヨシテ、入校金五十錢、月謝一ヶ月五十錢との事あり。

共立學校

共立學校ハ英語學を主とシテ普通の教育を授け、高等中學校及其他官立學校に入らんと欲する者を養成する所とす。

本校の修業年限は豫科一年、本科三年ありと雖も、毎月末に執行する通常試業に於て優等の者は其時々拔擢して昇級せしめ、修業年限以内に於て卒業せしむる事多しと聞けり。此學校は受驗科の學校中に於て最も舊く創設せられたる者にして、爾來年々盛大に赴き朝野に最も信用ある英語學校の一とはあれり。

依て初學の者の爲め、參照の便を得しめんが爲めに學科課程及び用書を掲載すること左の如し。

豫科	
乙ノ組	倫理
	譯讀（ウヰルソン、プリマー／ニューナショナル第二讀本／サーセント第二讀本／スウインントン第三讀本／ロー第三讀本／パーレー萬國史）
甲ノ組	倫理
	譯讀（希臘史（ヒストリー、プリマー）／羅馬史／ローヤル第四讀本）
	讀方
	書取
	文法

讀方 書取 單語 會話 綴字 習字 算術 漢文 和文	田邊、石田兩氏同著 新撰綴字書
日本外史	

本科第一年

會話	
算術	ロビンソン 實用算術書
和漢文	日本外史

第五級

倫理	
譯讀	グードリッチ 英國史
讀方	ニューナショナル 第四讀本
書取	
文法	スウイントン 小文法書
會話	
算術	ロビンソン 實用算術書
和漢文	十八史畧

第六級

倫理	
譯讀	デイツケンス 英國史
讀方	ニューナショナル 第四讀本
書取	
文法	スウイントン 小文法書
會話	
算術	ロビンソン 實用算術書
和漢文	十八史畧

本科第三年

第四級

倫理	
譯讀	グードリッチ 英國史
讀方	スウイントン 第四讀本
書取	
文法	スウイントン 小文法書
代數	トドハンタル 小代數學
算術	ロビンソン 實用算術書
和漢文	日本外史

第三級

倫理	
譯讀	スウイントン 萬國史
	マッコレー クライブ
讀方	ユニオン 第四讀本
書取	
飜譯	
文法	スウイントン 小文法書
幾何	ショブチー 幾何學
代數	トドハンタル 小代數學
算術	
和漢文	日本外史

第二級	第一級
倫理	倫理
譯讀 萬國史（スウイントシ）	譯讀 文抄（マツコーレーヘースチングス、アービング）
讀方 第四讀本（チャールス、ラム、デールス、ブロム、シエークスピーア、ユニオン）	讀方 第五讀本（ロンケマン）
書取	書取
文法 小文法書（ベーン）	文法 小文法書（ベーン）
作文	作文
飜譯	飜譯
歷史	歷史
地理	地理
幾何 幾何學（ショブチー）	幾何 幾何學（ショブチー）
代數 小代數學（トヾハンタル）	代數 大代數學（スミス）
算術	算術
物理學	物理學
化學	化學
博物學	博物學
圖畫	圖畫
躰操	躰操
和漢文 文章軌範 唐宋八大家文讀本	和漢文 文章軌範 唐宋八大家文讀本

學年は八月十日に始り翌年七月二十日に終る。此學年を分つて二期とす。第一期は八月十一日より二月十日に至り、第二期は二月十一日より七月二十日に至る、入學は毎學期の始に許すを定例となせども、本校も亦何時にても臨時入學を許すべし。束脩は金壹圓とす。授業料は一ケ月金壹圓にして、此外には毫も費用を要せすと謂へり。

成立學舍（男子部）

成立學舍は受驗科を授くる學校の中に於て、最も生徒の品行德義に注意するの傾向ありて、是亦世間に勢力ある準備學校の一とはなりぬ。

學科を分つて普通學豫科、普通學本科の二つとなし、尙此外に海軍兵學校受驗科といへる課目あり。

普通學豫科は本科に入るの階梯にして、本科は專ら高等中學校、高等商業學校、東

京農林學校、海軍兵學校其外の官立學校に入學する準備の學科を敎授せり。

豫科を一年とし、本科を三年とす。一學年を三期に分ち、第一學期は一月八日より三月三十一日に至り、第二學期は四月五日より七月十五日に至り、第三學期は八月十六日より十二月二十四日に至る事なり。

入學期限は每學期の始めと定めあれども、時宜に依り臨時試驗の上入學を許可することもあるといへり。入學の許可を得たる者は本舍より渡したる在學證書に證劵印紙を貼用し、保證人、副證人連署にて幹事局へ出すべしとの事あり。書式のある學校は本舍に限らず總て其式に從ふべし。

學費は受驗料即ち束修金壹圓にして、授業料は本科壹圓貳拾錢、豫科壹圓別に敎塲費として拾錢を會計局へ前納せしむ。又本舍には監督の大に嚴重なる塾舍ありて餘程規則も屆き居れば望みの者は入塾もよからむ。入塾せんとする者は保證人同道にて出頭し、塾監局の承諾を受くべし。物價の高低にて增減もあれど、食料及塾費として每月五日迄に金三圓を賄方へ拂ふべしとの事なり。

初學の者の爲めに此學舍の普通科課程を掲載し、他の受驗科の學校と對照せしむること左の如し。尤其外に海軍兵學校受驗科なる者の設けありて、其課程は二學年を以て卒業せしむるものなれども、サウセイ氏のチルソン傳、マコーレー氏のフレデリッキ傳、スポルディン傳を除くの外は、大抵本科と同樣なる科目のやうなれば玆には省きつ。

學年／學課	普通學豫科	普通學本科 第一年級	第二年級	第三年級
譯讀	第一、二、三讀本（ナショナル）	シテズンリーダー	第四讀本（サンダー）	キッチン氏アメリカン、ライタアス
	第三讀本（サンダー）	万國史（スポルディン）	万國史（スポルディン）	十八世紀（キッチン氏）
	萬國史（バーレー）	自助論（スマイルス）	ヘスチング（マコーレー）	自助論（スマイルス）
	第四讀本（ロングマン）	クライブ傳（マコーレー）	ラムテールス、フロム、セキスピーア（トラジデーノ部）（ラムテールス）	アヂソン傳（マコーレー）
讀方	第一、二、三讀本（ナショナル）	第四讀本（スポルディン）	第四讀本（サンダー）	
書取	綴字書及譯讀書ノ內	讀本ノ類	同上	
文典	小文典（スポルディン）	大文典（スポルディン）	同上	小文典（ベーン）
作文會話	習字（スペンセリアン第十二迄）			

和文英譯 英文和譯				
算術	實用算術書（ロビンソン）	寺尾氏著算術教科書	同	上
	實用算術書（ロビンソン）			
代數	小代數學（スミス）	大代數學（スミス）	同	上
幾何	幾何學（ウヰルソン）	同上	同	上
地理	萬國地理	日本地理	同	上
史學		口授	同	上
物理學		口授	同	上
化學		口授	同	上
動物學		口授	同	上
植物學		口授	同	上
金石學		口授	同	上
修辭		口授	同	上
書學		自在書法	用器書法	
和漢學	日本外史、十八史畧、日本政記、文章軌範、史記列傳、八大家文ノ類			
躰操	徒手、器械、兵式等			

錦城學校

錦城學校は諸官立學校入學試驗科の準備學校として最後に起りたる學校にして、授業分擔の講師にも有名の學者尠なからねば、少年諸子が就て學ぶにも先づ屈强の學校なるべし。

本校は普通學を敎授するの外、英學、數學、漢學の速成を欲する者の爲めに速成專科なる者を設く。學科を分つて普通學、及速成專科の二つとなし、速成專科を更に分つて英學、數學、及漢學の三專科とす。修業年限は普通科三ヶ年、速成專科各一ヶ年半とす。

普通學は高等中學、海軍兵學校、其他の諸官立學校に入らんとする者の爲めに設

くる所なり。速成專科は英學數學漢學の一科若くは二三科を最も速成に修得せんと欲する者の爲めに設くる所なり。

學科課程を示す時は、大畧左の如し。

普通科。

第一年前期。（六級）習字、綴字、讀方、譯讀、書取、算術。

第一年後期。（五級）習字、讀方、譯讀、暗誦、算術、地理、英文和譯、和文英譯。

第二年前期。（四級）讀方、暗誦、書取、文法作文、講義輪講、會話の句、英文和譯、和文英譯、算術、地理、動物植物。

第二年後期。（三級）讀方、暗誦、書取、文法作文、講義輪講、會話、英文和譯、和文英譯、算術、代數、地理、歷史、動物植物。

第三年前期。（二級）讀方、書取、文法作文、講義輪講、會話、英文和譯、和文英譯、算術、數理、代數、幾何、歷史、物理化學、圖畫、躰操。

第三年後期。（一級）讀方、書取、文法作文、講義輪講、會話、英文和譯、和文英譯、算術數理、代數、幾何、歷史、物理化學、圖畫、躰操。

專修科。

英學專科。　讀本、歷史、文法、小說、究理、生理、化學、法律、万國公法、經濟。

數學專科。　算術、數理、代數、幾何、三角術、圓錐曲線、代數幾何、微分、積分、重學、四元法、數學沿革史。

漢學專科。史類（史記、左傳等）、經書（四書、五經）、子書（老、莊、荀、管、韓非、墨等）、諸大家文集、作詩作文。

學年は一月九日に始り十二月二十四日に終るものとす。

學費は入學受驗料金壹圓、授業料一ヶ月金壹圓を要するよし。

成城學校

成城學校は陸軍武學生徒入學の豫備科を敎授する所とす。されば陸軍幼年學校及陸軍士官學校に入學志願の者は此校に於て大抵受驗科を修むる事なり。

敎科を分つて、幼年學科及青年學科の二つとなす。修業年限は幼年青年共に各三ヶ年にして、學級は各學科共に分つて六級とす。

幼年學科の科目を擧れば、大凡左の如し。

倫理、和漢文讀書、作文、外國語學、算數學、代數學、平面幾何學、輿地學、

歷史 本邦、支那、物理學、化學、圖學、畫學、躰操並に操練等。

青年學科の科目を示せば、大凡左の如し。

倫理、和漢文 讀書、作文、外國語學、算數學、代數學、平面幾何學、立躰幾何學、三角術、弧三角、高等代數、標高幾何學、初等重學、解析幾何、輿地學、歷史 本邦、支那、物理學、化學、圖學、畫學、博物 鑛物、植物、動物、生理、法令、躰操、操練等。

學年は八月二十日に始りて翌年七月十二日に終る。學年を分つて二學期となし、一學期を以て一學級の修業期限とす。

小學高等科卒業の者にして本校幼年科へ入學志願者は、躰操試驗に合格の上は別に學科試驗を要せず直に該科第五級に摘入す。又尋常中學科卒業の者にして本校青年科へ入學志願者は、直に該科第三級に編入す。但し前記の資格なき者、及資格ありと雖も更に上級へ入學志願の者は、別に學科試驗を要す。

幼年學科入學試驗科目の程度は左の如し。

第六級。漢文(皇朝史略の傍訓)、作文(記事往復文)、算數(小數迄)。

第五級。漢文(日本外史の傍訓)、作文(記事、往復文)、算數(循環小數より利息算迄)。

第四級。漢文(日本政記の句讀訓點)、作文(記事往復文)、歷史(日本の部、皇朝史畧中より)、算數(終り迄)、代數(除法迄)

青年學科入學試驗科目の程度は左の如し。

第六級。漢文(日本外史傍訓)、作文(記事往復文)、算數(總論より基一法迄)。

第五級。漢文(日本政記句讀訓點)、作文(記事、論說)、歷史(日本の部皇朝史畧より)、算數(終り迄)、代數(多元一次方程式迄)、平面幾何(作法迄)。

第四級。漢文(日本政記辨書)、作文(記事論說)、歷史(日本の部、皇朝史畧中より、支那の部十八史畧中より)代數(二項列迄)平面幾何(終り迄)、立躰幾何(初步)。

學費は入學受驗料　金三十錢、入校金一圓五十錢、授業料は一ヶ月金壹圓、教場費金十錢とす。

在學生徒の制帽制服は會計係に於て調製し、其代價は物品と交換に同掛へ納付せしむ。

通學生徒隨意下宿の弊あるを慮り、特に本校近接の地に附屬寄宿所を設け校內寄宿舍に準じて其勉學を督し其躬行を監す。但し校內寄宿舍に在る者には前記學費の外食料として、毎月三圓以上四圓以下を十五日迄に納付せしむ

商業素修學校

商業素修學校は主として高等商業學校豫科、同校補充科、及び主計學校へ入學すべき學科を教授する所にして、教科を分つて左の三科とす。

一、講習所豫備科に在りては、讀書、習字、英語、作文、數學、地理、歴史等の課目を授け、二學年にして高等商業學校補充科生たるを得べき學力を有せしむ。

二、別科に在りては讀書、習字、英語、作文、數學、地理、歴史、理化學、簿記圖書等の課目を授け、此科は別に學期を定めずして高等商業學校豫科生たるを得べき學力を有せしむ。

三、主計豫備科に在りては讀書、習字、英語、作文、算術、地理、歴史等の課目を授け、一學年にして高等商業學校附屬主計學校の應募生たるの學力を有せしむ。

學年は九月に始り翌年七月に終るものとす。入學は毎學年の前後に於て學力試驗の上之を許す。

學費は受驗料金五十錢、入校料金五十錢、授業料金壹圓、校費金貳十錢を納付せしむ。

獨逸語學校

本校は主として獨逸語學を教授し、傍ら官立諸學校の入學受驗科をも授け、獨逸語を以て醫學各科をも教授せり。

學科を分つて、正科、撰科、及醫科の三科とす。學年は八月十一日に始り、翌年七月二十日に終る。

正科は獨逸語學、數學及和漢學とし、傍ら官立學校の入學試驗に必須なる博物、理化、地理、歴史、書學、躰操の諸課を教授し、殊に本年七月の第一高等中學校獨逸部入學試驗の際には其合格者三十九人中三十二人は本校の生徒に係れりといへば、本校の名聲頗る盛なること知るべし。

醫科は内科、外科、藥物、解剖、生理の五課にして、撰科は獨逸語學中の一課若くは醫科中の一課を撰ぶ者とす、

學費は正科、醫科、撰科とも束修金壹圓、授業料は正科醫科とも一ヶ月金壹圓、撰科に一課目に付金五十錢、二課以上を兼ぬる者は金壹圓とす。

國語傳習所

本所は我邦に固有なる國語を教授する所にして、目下國文學若くは國語科の勢力盛んなる折柄なれば、校運甚だ盛大なり。

學科は、字音、假名遣ひ、文典、修辭學、言語沿革、文章沿革等にして、尙此外に土佐日記、竹取物語、徒然草の講義、質問等なりとす。

修業時間は日曜日毎に午前第九時より同十二時迄三時間とし、六ヶ月を以て卒業せしむ。

入學せむとする者は。宿所を記載したる名刺を幹事に出せば可あり。入學金は五十錢にして、月謝は三十錢づゝなりとぞ。

尙本所にては傳習生の外、校外生の制を設けて、遠地若くは業務の爲めに出席の便を缺く者の爲めに、毎月二回講義錄を頒ち、一年にして卒業せしむ。校外生の入學金は同じく五十錢にして、月謝は貳十錢づゝなりとす。但し小學校敎員にて校外生と爲る者には、特別に入學金を減じて三十錢となすといへり。

女子高等師範學校附屬高等女學校

本校は元東京高等女學校と稱し文部省の所轄にして校舍は一橋通りにありしが、昨今に至り女子高等師範學校の附屬となりて同校内に移轉せり。

本校敎育の要領は優良にして有用なる女子を敎育するに在りて、先づ女子生涯の職分の基となるべき普通科を授け、尋で一家の責任を負擔するに切要なる學科及藝能を習はしめ、最後の凡一年間は夫婦の關係、舅姑に對する心得、育兒法、家事整理法、婢僕に對する心得、朋友親戚等に接する心得、及交際動作の心得を講究せしむ。

生徒は品行端正、躰質健康、年齡十二歲以上にして、高等小學校二ヶ年の課程以上を卒りたる者、若くは之に相當せる學力を有する者たるべし。

生徒の定員は二百名にして、修業年限は五ヶ年とす。小學高等科卒業以上の女子の淑德を養ふ所は都下到る處に多しと雖も當校の如きは其中にて最も優良にして完全なる敎育を授くる所なり。

學科及其課程は、即ち左の如し。

倫　理。　人倫道德の要旨。

國語及漢文。　漢字交文及漢文　講讀、書取、文法、漢字交りの作文。

英　語。　讀方、譯解、書取、會話、文法、修辭、作文、飜譯、

數　學。　算術(分數、小數、及び比例の原理應用)、簿記(家政簿記の大意)、代數(定義、整數四則、分數、一次方程式)、幾何(定義、公理、平面形及び立躰形の重要なる性質)。

地　理。　日本地理、外國地理、地文。

歷　史。　日本歷史。

博物。　鑛物(通常鑛物の示教)、植物(觀察、解析、分類大意、植物の生活上緊要なる、現象、及園藝)、動物(觀察、分類大意、諸部類の相互及外物の關係)、生理(人躰の生理、衛生及育兒法)。

物理。　物理上の緊要なる現象。

化學。　普通化學上の現象、緊要なる元素。

教育。　家庭教育。

家事。　和服裁縫、洋服裁縫、衣食住、禮法、看病。

習字。　楷、行、草三躰の書寫、及細字。

圖畫。　自在畫。水畫。

手藝。　編物、刺繍、造花、細工物、縫込細工等。

唱歌。　單音、複音、諸重音、及音樂上の名稱、記號、旋律、和聲、拍子等の要略。

體操。　準備法、矯正術、徒手、啞鈴等。

樂器。　洋琴、パイオリン。

生徒の募集は、毎學年の終に於てす。但し欠員ある時は臨時入學を許すことあるべし。入學期日、及募集生徒の員數は豫め廣告すべし。入學試驗は高等小學科第二年級卒業の程度に因る。入學試業の總學科目得點數平均百分の五十以上を得たる者は及第とし入校せしむ。但し總數百分の五十を得るも一學科目の得點二十五に滿たざる者は落第とす。　授業料は一ヶ月金貳圓とし、毎月廿日に納めしむ。

共立女子職業學校

共立女子職業學校は、教育管理二つあるが其宜しきを得るものにて最も世間の信用篤く、校舍は神田一橋通りに在りて、通學の女子極めて多し。

當校教旨の要領は、女子に適應する技藝職業並に必需有用なる普通學科を授くるにあり。

教科を甲乙の二科に分つ、甲科に於ては裁縫、編物、刺繍、飾帽、造花、圖畫等の諸術を授け、乙科に於ては裁縫、編物、刺繍、飾帽、造花等の諸術を授く。甲科に入るものには術科の外に、讀書、習字、算術、家事、理科の五學科を修めしめ、乙科に入るものにも亦讀書、習字、算術、家事の四學科を兼修せしむ。但し甲乙科の生徒とも其望に依り英語を兼修せしむ。甲乙兩科の術科及學科課程は左の如し。

甲科術科。

裁縫。　小裁中裁衣服類、下着類、ミシン使用法、本裁衣服及附屬

編物。　品等、西洋衣服及附屬品等。
刺繍。　衣服附屬品、及裝飾品。
飾帽。　綴縫、半縫、けし縫、すが縫、すがら縫、肉入縫等。
造花。　婦人及子供用の帽子。
圖畫。　裝飾品。
甲科學科。　水墨畫、模樣畫。
讀書。　讀方(普通文)、作文(消息文)
習字。　平假名、行書、草書、
算術。　加減乘除、分數、小數、比例、簿記。
家事。　衣食住等に關する家事の管理法。
理科。　生活上緊要なる理化學の要項。
乙科術科。
裁縫。　日本服(各種の衣服及附屬品等)、西洋服(子供婦人の衣服及附屬品等)。
編物。　衣服附屬品及裝飾品。
刺繍。　綴縫、半縫、けし縫等。
飾帽。　婦人及子供用の帽子。
造花。　裝飾品。
模樣畫。　各種の模樣畫。
乙科學科。
讀書。　讀方(普通文)、作文(消息文)。
習字。　平假名、行書、草書、
算術。　加減乘除。
家事。　衣食住に關する家事の管理法。

右學科の外に婦女の心得、及理科に關する事項を時々口授することもあるべし。甲科及び乙科の術科は現物に就て實地に教授し、甲科生徒には一科若くは二科を撰んで專修せしめ、乙科生徒には一科を撰ばしめ、尙學校の見込に依ては增減せしむることもあるよし。又術科にては練習の爲め世上の注文品を製作せしめ、其製作品より生じたる純益金は半額以下を該生徒に配當し、平素節儉蓄積の風儀を養はしめんが爲め其金額は當校より生徒各自の名義を以て之を遞信省貯金局に預け、卒業若しくは要用あるときは本人の申出に依りて下げ渡すとの事あり。

修業上入用の書籍器具並に材料は、生徒の自辨たるは勿論なるべし。尤術科の技倆漸く長ずるに於ては、其材料は他の注文品を以て生徒の實習に供するべし。但し裁縫に用ふるミシンは何づれの生徒にも當校の所有の分を使用せしむ。授業時間は毎日七時間內外に亘り、修業年限は甲科三ヶ年、乙科は術科目の難易によりて一ヶ年半乃至二ヶ年の間なりとす。

甲科を修めんとする者は尋常小學校の卒業生若くはこれと同等の科力を有する者にして年齡滿十二年以上たるべく、乙科は年齡十五年以上にして畧ぼ讀み書きを爲し得る者たるべし。入學する者は束脩として甲科は金壹圓、乙科は金五十錢を納むべし。授業料は一ヶ月甲科は金壹圓三十錢、乙科は金八十錢にして、毎月五日を以て納めしむ。

又當校にては寄宿舍を設け、夫々適當なる管理者を置て生徒の敎養に注意すれば、親戚故舊等の保管者に乏しき遠國の者に取りては好都合なるべし。

成立學舍（女子部）

本部は女子に須要なる學術及技藝を敎授し、又敎員となるべき女子を養成するを以て目的とし、校舍は駿河臺袋町に在り。

學科を分つて幼年科、本科、高等科、師範科の四科となす。修學年限は幼年科を二年、本科を三年、高等科を二年、高等師範科を四年とす。生徒の年齡は幼年科は滿十二年以上、本科は滿十四年以上、高等科は滿十七年以上、師範科は滿十六年以上にして、品行端正、躰質强健なるものとす。

各科の學科及課程は、大凡左に記載する所のごとし。

幼年科課程。　修身、讀書、英語、地理、歷史、理科、數學、習字、圖畫、裁縫、編物、唱歌、箏、躰操等。

本科課程。　修身、禮式、和漢學、英學、數學、理科、衛生、家政、經濟、和洋裁縫、編物、刺繍、押繪、組絲、唱歌、音樂、圖畫、挿花、茶湯、割烹、躰操等。

高等科課程。　倫理、和漢、英學、理科、數學、文學、音樂、躰操等。

師範科課程。　倫理、和漢學、英語、數學、簿記、地理、歷史、博物、物理化學、家政、敎育、論理、心理、圖畫、音樂、躰操等。

學年を分つて二期となし、前期は四月一日より、後期は十一月一日に始る。

生徒の募集は毎學期の始に於てして、受驗料金壹圓を要するとの事なり。受業料は幼年科金一圓、本科及高等科は金壹圓五十錢、師範科は弐圓にして、敎塲費各科二十錢を納むべし。

明治女學校

明治女學校は稍高尚なる普通學科を女子に授くる學校にして位置は麹町區飯田町にあり。

學科を分つて普通科、及高等科の二科とし、普通科の中又分つて豫科本科の二つとなす。

普通科學科は英語、和漢學、算術、代數、幾何、文學、理學、家政、衛生、作文、習字、禮儀、畫學、音樂、躰操、唱歌、裁縫、編物にして、豫科を二年とし、本科を三年とす。

高等科學科は邦文學、英文學、日本歴史、支那歴史、歐米古代今代史、理化、天文學、經濟學、社會學、心理學、倫理學、教育學とし、三年を以て卒業せしむ。又此外に自由科を設け、家政學、獨逸語學、比較宗教學、畫學、數學、音樂、哲學等生徒各自の志望に依て隨意に撰ぶことを得しむ。

入校金貳圓、授業料は豫科一圓四十錢、本科一圓六十錢、高等科生及撰科生は各一圓八十錢とす。

跡見女學校

跡見女學校は小石川區柳町に有りて日本風の教育を以て其名高く、教育管理二つなから宜しきを得たる女學校の一なり。當校教旨の要領は、本邦淑女の令德を養成し且つ日常必要なる學藝技術を教授する者とす。

修業年限は四ヶ年にして、教科の程度は左の如し。但し各自の好みに應じ、一若くは數科を限りて教授を受くることを得しむ。

一、和漢學、英學、地理歴史經濟等の普通學科、算術、代數、幾何、繪畫、音樂、唱歌、裁縫、編物、及び點茶等。

入學の生徒は小學尋常科卒業若くは之と均しき學力を有する者たるべし。束脩金壹圓、授業料は和漢文學金一圓、習書金五十錢、裁縫編物金五十錢、琴七十五錢にして、寄宿生徒は月俸金三圓五十錢塾費五十錢を納むべし。

東京唱歌會

東京唱歌會は府縣各種學校の唱歌教員を速成に養成せんが爲めに設け、速成、尋常、高等の三科を置きたる者なれば、東京音樂學校等に入學せずして一と通りの音樂を學ばんとする者には最も都合よき事なるべし。

速成科にては唱歌、歌詞解釋、理論、風琴奏法を授け、修業期限は十六週間にし

て、會費六圓、風琴料一圓を四週間宛四回に分つて前納せしむ。

尋常科及高等科は速成科學科に授業練習の一學科を加ふるのみ。修業期限は兩科共凡十二週間にして、會費三圓、風琴料九十錢を納むればよしとの事なり。

東京躰操傳習所

東京躰操傳習所は府縣各種學校の躰操教員たらんとする者、及躰操術を專心に修めんとする者を教授する所とす。

教授の科目は普通輕躰操、器械躰操、兵式歩兵操練、生理學、躰育學の五科にして、修業期限は五ヶ月間とす。

學費は束修金貳圓五十錢、授業料卒業迄六圓六十錢、寄宿生徒は月俸二圓五十錢、舍費二十五錢を納むるを要す。但し授業料は卒業迄を二分して納むるも可なりとす。

第五章　入學試驗問題

第一高等中學校　（明治廿三年七月執行）

英文和譯設問

(Translate the following into Sinico-Japanese (Kanamajiri); take up the questions in any order you choose, but be careful to put the same numbers as below. No dictionary allowed. Time 2 hours.)

1. He came up to Tokio, with nothing but fortune and his talents to depend upon.
2. He returned to the city, intending to revenge himself by killing her.
3. Be that as it may, up the river did the adventurous man proceed.
4. Their conduct cannot but command our high admiration.
5. An evil conscience is the most unquiet companion.
6. The farmer arrived this morning safe and sound.
7. He was answered that he might be spared if he would deliver up his friends.
8. My companion could not help laughing at the accident.
9. A horse, driven beyond his speed, will stumble.
10. He only found himself above want.

和文歐譯設問

一、煙草は何時頃日本に渡りて來ましたか、御存じでありますか。
二、よくは存じませんが、三百年程前に始めて外國人が長崎に持て來たさうで御坐います。
三、上野博覽會には、色々の繪畫がありますが、何れの繪がお氣に入りましたか。
四、餘り澤山にて、何れが最も宜敷きか、判斷に苦みました。
五、今日は雨が降りませうか、一寸新聞を御覽下され。

日本地理設問

一、全國を大別して何々と爲し、之を小別して幾許の國とおすや。
二、本島の重もなる五港は何々なるか、一々其位置を說明せよ。
三、中國に於て產出の尤も有名ある鑛物は、何々あるか。併て其產國をも示せ。
四、東京より名古屋に至る鐵道の經過する國々と、重なる川とを擧げよ。

外國地理設問

一、アフガニスタンの地形を記せよ。
二、英領印度の四大都府と、其位置を問ふ。
三、大不列顛は如何なる大島より成立するか。又其島を大別して何々の國となすか。
四、佛國の四大川と、幷に其注入する海洋とを示せ。

日本歷史設問

一、我國の政權を掌握したる諸氏、及び各其政權を執りたる年限如何。
二、元龜天正の頃割據の群雄、及び其割據の地方を擧げよ。

万國歷史設問

一、羅馬に於て第一第二の三頭同盟(Triumvirate. 獨佛 Triumvirat.)とは如何なるものか。併せて其同盟者と年代とを擧げよ。
二、五世紀に於ける人民大移轉に際し、日耳曼人種中何れの種族が何れの國に移住せしか。一々列叙せよ。
三、千六百六十六年の普墺戰爭の原因、及び結果如何。

博物、物理、化學設問

一、結晶學にて、錐及柱とは如何なるものなるか、驅解せよ。
二、有限花序と無限花序との區別、如何。
三、爬蟲類(Reptilia)及鳥類の心臟の構造、如何。

四、何故に人は帶を採て己の躰を擧げ得ざるか。

五、焜爐の炭火は團扇にて煽げば益々熾なり、之に水を注げば忽ち消ゆ、其理如何。

算術問題

一は解說、二三五六は解說并に演算、四七は演算を記すべし。

一、單純數(英Prime number. 獨Primzahl)とは如何なる者なるか。

二、第三回內國勸業博覽會縱覽人は、四月一日より同三十日迄の平均は一日一万二千六百七十一人にして、又四月一日より五月三十一日迄の平均は一日一万七百六十六人あり。然るときは五月一日より同三十一日迄の平均は一日幾人なりや。

三、$\dfrac{2}{7+\frac{1}{2}}$ と $\dfrac{\frac{1}{4}}{\frac{1}{2}+\frac{1}{3}}$ とは何れか大なる。

四、$\dfrac{5.98\times0.00047}{3.25}$ の價値を小數にて求めよ。

五、一升桝の內法は長さ幅各四寸九分にして深さ、二寸七分なり。六尺立方の升は幾何なりや。

六、甲の所有金は乙の所有金より少きことと乙の一割五分ありとすれば、乙の所有金は甲の所有金より多きことと甲の幾割に當るか。

七、2,345 の平方根を小數點以下三位迄を精算せよ。

代數學問題

一は解說、二三四五は演算、六は解說並に演算を記すべし。

一、$a-(b-c)=a-b+c$. 此理を說明せよ。

二、$(8x^3+8x^2+4x+1)\times(8x^3-8x^2+4x-1)$ 此乘積を求めよ。

三、$4x^4-37x^2y^2+9y^4$ なる式あり。之を最簡なる因子に分解せよ。

四、$\dfrac{2-\dfrac{1}{x+1}}{\dfrac{5x-1}{2x^2+x-1}}-\dfrac{1}{2x-1}$ 此式を最簡にせよ。

五、下の方程式に於て、X の價を求めよ。

$$(x+1)^3=x[6-(1-x)]-2.$$

六、慈善者四十五人あり。將に貧民を救助せんとし、之を三組に分ち、甲組の者の出金は各五圓宛、乙組は三圓宛、丙組は二圓宛とすれば、出金總額百四十一圓となる預定あり。但し甲組の人員は丙組の三分の二なりと云ふ。各組の人員幾何なるや。

幾何學問題

一、二箇の角の相等しき(英Equal, 獨Congruent)とは如何なる義なりや。凡て二箇の幾何學上の量の相等しきとは如何なる義ありや。

二、ABCなる三角形あり。A角の平分線と對邊BCと交る點をDとすれば、BA>BD及CA>CDなり。其證如何。

三、平行四邊形の對角は相等し。其證如何。

四、一定圓內に一定三角形と等角の三角形を畫く法如何。

五、三角形ABCの二邊AB, ACを直徑として畫ける二箇の圓は、他の一邊BC中の一點Dにて相交はる事を證明すべし。

國語漢文科設問

生者必有死事之必至也富貴多士貧賤寡友物之固然也君獨不見夫朝趨市者乎明旦側肩爭門而入日暮之後過市朝者掉臂而不顧非好朝而惡暮所期物亡其中

(讀課)右句讀反り點を附し、並せて其大意を解すべし。

同

且夫レ七國ノ難ヲ發スルモノハ誰ゾヤ。己レ其名ヲ求メント欲シ、安ンゾ其患ヲ逃ル、所アラン。自ラ將タルノ至危ト、居リ守ルノ至安トヲ以テ、己レ其難首ト爲リ、其至安ヲ擇ビテ、而シテ天子ニ遺ルニ其至危ヲ以テス。此レ忠臣義士ノ憤怨シテ不平ナル所以ノ者ナリ。

(書取課)右初め一度教師の讀むを聽き居り、次回の時之を書取り、三回に其誤を正すものとす。

同

富士ノ山ヲ望ム。

(作文課)右假名交り文にて作らしむ。

高等商業學校 (明治廿三年七月執行)

補充科入學試驗問題

漢文設問

秦攻レ趙。廉頗軍ニ長平ニ堅レ壁不出。秦人行ニ千金ヲ爲ニ反間ヲ。曰秦獨畏ニ馬服君趙奢之子括爲ニ將耳。王使ニ括代ニ頗。相如曰、王以レ名使レ括、若ニ膠レ柱鼓ニ瑟耳、括徒能讀ニ其父書ニ不レ知レ合レ變也。王不レ聽。括少學ニ兵法ヲ以爲天下莫ニ能當ヲ。與ニ文奢ニ言、不レ能レ難。奢然不ニ以爲ニ然。括母問レ故。奢曰、兵死地也、而括易言レ之、趙若將レ括必破ニ趙軍ヲ。(右訓點を施し、〻點を附したるを解釋すべし)

書法課題

同窓須謙讓　（以上楷行草三鉢に半紙一枚に書すべし）

作文課題

某商店へ雇人を推擧する文

地理設問

一、日本國中にて海洋に濱せざる國名を問ふ。
二、北海道の五大川を問ふ。
三、東海道の海灣の主なる者を擧げよ。
四、日本より英國に至る航路の概畧を問ふ。
五、世界中岬角、地峽、海峽の最大なるもの、各二個を擧げよ。

歴史設問

一、敏達天皇の朝に佛敎につき爭ひし重なる人物を擧げよ。
二、本邦關白を始めて置きたるは何帝の時なるや。
三、本邦鑄錢の起原を問ふ。
四、支那に佛敎の入りし起原を問ふ。

五、オーガスタスの治世一斑を問ふ。

MEANING AND GRAMMAR.

1. I saw those famous gold and silver mines, where the natives work naked, *forever* shut up from the light of the sun, in order that the wealth of the unhappy land *may go to spread* the luxury and corruption throughout the *remotest* region of Europe.

2. Express the following words according with above passage :—

	Part of speech.	Grammatical use.
Forever.	.....	.....
may go.	.....	.....
to spread.	.....	.....
remotest.	.....	.....

英語會話

一、何時博覽會が終りますか。 When close the Exhibition?
二、貴君は毎日どの位、本を讀みますか。 I don't read much as you read book every day?
三、今日は雨が降りますか。 It may rain today.

四、此雨は幾日位續くと思ひますか。

英習字

Foreign accounts are kept in dollars (Spanish and Mexican) of 100 cents.

算術問題

一、金壹圓に付八升の米と、七升二合の米あり。之を拾三圓三十錢を以て、等しき石數に買はんと欲す。其石數如何。

二、金二千四百圓を重利年五分の割を以て二年間得る利益は、單利を以て幾年間貸して等しきや。

三、男二人と女三人と其力相等し。若し男女各二人を以て一事業を爲す時は十七日を要すと云ふ。然る時は、男三人女四人にて前の三倍の業を爲す時は幾日にて終るや。

四、酒店あり、三十五錢の酒と、三十三錢の酒とに水一斗二升を混和して、之を一升三十三錢六厘に賣りたれば、一割二分を益すと云ふ。然る時は此二種の酒各幾何を混ぜしや。

五、二十六の立方根と、八の平方根とは孰れが幾何大なるや。

陸軍幼年學校

（明治廿三年七月執行）

漢文科設問

一、明智光秀弑二其君右大臣信長及左中將信忠一。森蘭丸、村井貞勝等、百五十餘人死レ之。初信長遇二將士一無レ禮、屢辱二光秀一。光秀深啣レ之。信長又寵二蘭丸一。嘗許二其三歲後領二志賀郡一。郡時屬二光秀一。光秀自疑二其罹二奇禍一。至レ是、受レ命饗二德川氏一。怒曰、饗事未レ竣、又命二遠役一乎。悉投二具於一レ湖、馳還二龜山一、與二從子光春等一決レ策、急襲二本能寺一。信長手射斃二數人一、縱レ火自殺。信忠馳赴レ之。途聞二信長已弑一、退保二二條第一。賊兵來圍、信忠力戰自殺、遣二命前田玄以一、逃歸二岐阜一、奉二其子三法師一入二清洲一。

二、先是法皇喻旨宗盛還駕。不奉詔。法皇會公卿議。右大臣兼實上言、京師無主、四方觀望、平氏挾乘輿、吾討之無名、宜更立新主以聚臣民心、祖宗制無劍璽、不得即位、然繼躰天皇即位以前稱踐祚、及得劍璽、乃即位、今宜據此例。法皇從之。乃議所立、議者謂世亂宜立長君。故以仁王子避亂北走、曰北陸宮。義仲奉入京師、法皇敕問義仲。義仲曰、天位非臣輩所敢議、然三條宮憤陛下幽厄、唱義殺身、臣等奉其令、以有今日、立之庶幾副天下望耳。

三、國之有亂譬若人之有疾謀之良醫雖未診其脉而聞其患狀察知病之所因曰是因此焉耳以某方治之愈矣故雖症有劇變夷然不驚非如庸醫之動色失措也如藤原保則者豈

非治進之良醫歟其曰先威後恩者不攻則補不可施也撫慰未叛邑里者扶天氣以壓疾勢也請復庸調賑給夷浮者則將息病後而病之因實在於此也故病各有因病者又有强弱不可守一方是以治兩備以緩治與羽以嚴治期於愈大必專功於己他醫有慣此症可引以助我治是以薦小野春風以同其事（以上訓點、句讀、及解釋等を施さしむ）

作文科課題

人の歐洲より歸朝するを賀する文。
遠地の友人の近狀を訪ふの文。
友人ノ園亭ニ遊ブノ記。
寒夜讀書ノ記

地理科設問

一、半島及岬の名稱を記入せしむ。（本邦暗射地圖を示して）。
二、本邦を四大島に分つ所の海峽の名稱、及其海峽所在の國名。
三、朝鮮八道の位置を記入すべし。（本邦比隣暗射地圖を示して）。
四、支那の長城、及び運河。

歷史科設問

一、後三年の役。
二、楠正行四條畷の戰。（以上本邦歷史）。
三、赤壁の戰。
四、光武帝大ひに王莽の兵を破る。（以上支那歷史）

物理科設問

一、例を擧て物質の三躰を說明せよ。又總ての物躰は皆三態を取り得るや。
二、水の浮泛力（浮力、及浮揚力ともいふ）の說明。
三、水の沸發（沸騰、滾沸ともいふ）の說明。
四、光の反射の說明。

化學科設問

一、大氣と動植物とは如何なる關係ありや。
二、柔水と硬水との區別。
三、酸化水銀より酸素一百匁を得んとす。酸化水銀何程を用ひて、如何すれば得